

# Top Global University Project

スーパーグローバル大学創成支援 事業報告書

2019



TOP GLOBAL  
UNIVERSITY  
JAPAN



芝浦工業大学

[www.shibaura-it.ac.jp](http://www.shibaura-it.ac.jp)

## 目次

<b>学長からのメッセージ</b> .....	<b>3</b>
<b>1 芝浦工業大学におけるスーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業</b> .	<b>4</b>
1.1 芝浦工業大学のSGU構想.....	4
1.1.1 本構想の目的 .....	5
1.1.2 本構想における取組計画の概要.....	5
1.2 実施体制等.....	8
1.2.1 実施体制 .....	8
1.2.2 評価体制等.....	12
1.3 大学教育再生加速プログラム(AP)事業との関係.....	13
1.4 実施状況 .....	14
1.5 2019年度までの成果の要約と特色 .....	17
1.5.1 成果の要約.....	17
1.6 プログラム終了後の自走化.....	18
<b>2 SGU事業取組み</b> .....	<b>19</b>
2.1 OUTBOUND .....	19
2.1.1 語学研修 .....	20
2.1.2 グローバルPBL(Project Based Learning) .....	21
2.1.3 国際インターンシッププログラム .....	26
2.1.4 交換留学 .....	27
2.2 INBOUND.....	33
2.2.1 グローバルPBL(Project Based Learning) .....	34
2.2.2 交換留学 .....	38
2.3 英語学習の展開.....	40
2.3.1 工学部正課教育での英語力向上に対する取り組み.....	41
2.3.2 システム理工学部正課教育での英語力向上に対する取り組み .....	42
2.3.3 デザイン工学部正課教育での英語力向上に対する取り組み.....	44
2.3.4 建築学部正課教育での英語力向上に対する取り組み .....	45
2.3.5 正課外英語強化プログラムと学生語学力の測定.....	47
2.4 GTI(Global Technology Initiative)コンソーシアム.....	50
2.4.1 活動ダイジェスト .....	51



2.4.2	インターンシップ体験談 .....	52
2.4.3	GTI コンソーシアム シンポジウム 2019 .....	53
2.4.4	PIITs&GTI コンソーシアム異文化 PBL 実施報告 .....	53
2.4.5	GTI コンソーシアム加盟機関一覧.....	56
2.5	その他特徴的な取組み.....	57
2.5.1	国際プログラムの展開.....	57
2.5.2	先進国際課程(学部英語学位プログラム) .....	58
2.5.3	外国籍教員の戦略的採用 .....	60
2.5.4	グローバル・ラーニング・コモンズ(GLC)の活用 .....	61
2.5.5	グローバル・ビジョン・ワークショップ .....	66
<b>3</b>	<b>データ集.....</b>	<b>69</b>
3.1	派遣・受入学生数.....	69
3.1.1	派遣学生数の推移と受入留学生数の推移 .....	69
3.1.2	海外への派遣学生数 .....	70
3.1.3	留学生の受入人数.....	81
3.2	語学力.....	86
3.3	2019 年度前期気づきアンケートの結果概要 .....	87
3.4	SGU フォローアップ調査 .....	92
3.5	海外協定校一覧.....	100
3.6	外部資金獲得状況.....	103
	<b>おわりに .....</b>	<b>105</b>

## 学長からのメッセージ

芝浦工業大学 学長 村上雅人

芝浦工業大学は、2014年のスーパーグローバル大学創成支援事業において、私立の理工系大学で唯一の採択校となりました。大変名誉なことである一方、他の私立理工系大学のモデルとなるグローバル理工学教育の構築を進めるとともに、世界水準の大学づくりを進める使命が本学に課せられたものと考えております。

それでは、世界に通用する大学とはどのような大学でしょうか。それは3つのキーワード、教育、研究、そしてダイバーシティ強化に集約できます。

大学は人材を育成する高等教育機関であり、教育の重要性は言うまでもありません。そして、大学は「学生に何を教えたか」ではなく、その教育によって「学生が何を学んだか」すなわち学修成果を重要な指標とする必要があります。

つぎに、世界の大学は、研究も大切にしています。質の高い教育を行うためには、教員は研究によって、常にみずからを磨いていなければなりません。さらに、理工系大学では、最先端研究を通して、学生を鍛えるというのも世界の常識です。教育と研究は不可分であり、国境もありません。われわれは、それを意識しておく必要があります。

そして、教育も研究も、ダイバーシティ、すなわち、多様性のなかでこそ輝きを増すとされています。多様性には、国籍や文化や、習慣、人種の違いなどが含まれますが、男女共同参画推進もとても重要です。世界水準の大学においては、日本人だけでなく、アジア人や欧米人など、いろいろな国のひとが集い、互いを尊重し、ともに成長するというのが常識なのです。

現在、本学の女性教員数は65名となり、その割合も20%を超えており、日本の工科系大学では最も女性教員比率の高い大学となりました。外国籍教員も42名となるなど(2020年5月1日時点)、ダイバーシティ強化を積極的に進めています。

外国籍教員の多くは、2020年9月に工学部に設置される「国際先進課程 Innovative Global Program」で教鞭をとります。この学位プログラムは、1年生から研究に取り組むことで積極的な学びの姿勢を獲得させ、英語のみで修了できる先進的な取り組みです。2017年の大学院での国際理工学専攻の設置、2017年のシステム理工学部における国際プログラムの設置と併せ、教育のグローバル化を全学に広げていく役割も担っています。

かつて、年間100名程度であった海外経験者数も、2019年度は1580名を超えています。留学生も1690名と大きく増えました。ただし、2019年度末に世界を襲った新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、渡航を伴う学生交流には困難な状況が発生しています。一方で、その影響で、遠隔授業や研究交流、国際会議など、オンラインを利用した海外交流が大きく進展しました。本学は、これを奇貨として、多面的なグローバル教育研究環境の構築を追求していきます。

本学は、教育の質保証、研究力強化、そしてグローバル化を積極的に推進していきます。そして、100周年を迎える2027年には、真のグローバル大学として世界から評価されることを目指して、教職学協働で、前進していきたいと考えています。

# 1 芝浦工業大学におけるスーパーグローバル大学創成支援 (SGU) 事業

## 1.1 芝浦工業大学の SGU 構想

本章では、本事業を開始時に計画した SGU 構想（目的および取組計画の概要）を記す。

### 価値共創型教育を特徴とする理工学人材育成モデルの構築と世界の発展への貢献



図1 芝浦工業大学の SGU 構想



### 1.1.1 本構想の目的

20 世紀後半から 21 世紀にかけての世界は、「グローバル化」という言葉に集約される劇的な変化を遂げている。かつて国内に閉じていた市場の拡大、ものや人の国際的な流通、それを下支えする自由貿易の枠組みなどの経済面におけるグローバル化、さらに地球温暖化、エネルギー・水資源の争奪など資源環境問題も国境を超えたグローバルな課題となっている。

産業革命以降の数次にわたる技術革命、情報革命がもたらしたこのような変化にともない、産業構造や市場環境も世界全体で大きく変化している。日本の製造業においても、高機能製品を大量に供給すれば良い時代から、地球全体に広がった顧客に対して、各々の嗜好や文化的背景を考慮した製品をタイミングよく提供することが求められるようになった。こうした激動の時代を生き延びるため、製造企業は製品の設計・生産・消費をグローバル化に対応したものに革新する必要がある。そして、理工系大学には、そうした企業自体の変化を担うことができるグローバル理工系人材を育成することが期待されている。

一方、少子高齢化の進む我が国において、4 年制大学受験者数は本学が 100 周年を迎える 2027 年には現状の 77%にあたる 50 万人にまで減少するとの予測がある。学生の大学選択は偏差値一本で決める従来の考え方からはかなり多様化してきてはいるものの、もし本学が無策のままであれば、優秀な学生が志願せず、入学者の質の低下に直面する恐れがある。

このような環境の中、本学を志願する学生層を引き上げると同時に、優秀な学生を世界中から集めることによってはじめて、「世界に学び世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」という本学の使命の達成が可能となる。このため、本学では創立 100 周年に向けた中長期計画「Centennial SIT Action」において、優秀な学生にとって魅力があり、かつ世界に通じるブランドの構築を図っている。

そこで、本構想では、グローバル理工系人材の持つべき能力を以下のように設定し、その育成のための本学自身の改革を目標とする。

- ・コミュニケーション能力：幅広い工学知識と語学力を基盤とし、グローバルな環境下で発揮できる相互理解能力
- ・問題発見解決能力：技術開発の社会的・経済的影響を判断できる分野横断的な思考力と倫理観を持ち、問題を発見し解決する能力
- ・メタナショナル能力：自国のアイデンティティを基盤とし、異文化を理解し、グローバルな視点で発想し行動する能力
- ・技術経営能力：幅広い知識資源を核とし、技術開発の社会的・経済的価値化をマネジメントする能力

本学の使命「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」のため、本学自身のグローバル化、教育、研究、社会貢献・イノベーションの三位一体改革を強力に推進し、世界水準の私立理工系単科大学のモデルとして、芝浦ブランドの国際工業大学に発展させていく。具体的には、図 1 に示されるとおり、以下の①～③の目標を掲げ、その実現を目指すとともに、このモデルを国内・国外の理工系大学にも水平展開を図っていく。

- ① 価値共創型教育による実践型技術者の育成
- ② 世界水準の大学制度の実現
- ③ 教育・研究・開発コンソーシアム〔Global Technology Initiative(GTI)〕の構築

### 1.1.2 本構想における取組計画の概要

#### (1) 価値共創型教育による実践型技術者の育成

本学では、ワシントン・アコードに準拠した教育の質保証と、PDCA サイクルによる教育プログラムの改善を進めてきた。また、より実践型の教育として、従来の工学ディシプリン

によらない分野横断型のシステム教育や PBL(Project Based Learning)等の能動的学習(Active Learning)を取り入れてきた。本構想では、学修と教育両面の質保証を企図した価値共創型教育モデルの確立、さらに、価値共創型教育を取り入れた実践型教育科目の拡大と、その普及を目指していく。

#### ① 学修・教育双方の質保証を伴う価値共創型教育の確立

1991年に開設したシステム理工学部では、問題解決力の育成を目的とした、学科横断による PBL を取入れ、アクティブ・ラーニングの中での質保証システムを発展させてきた。PBL での質保証については、学習教育目標(ラーニング・アウトカムズ)の設定、ルーブリックを用いたアセスメントの実施、第三者機関によるジェネリック・スキルテストである社会人基礎力試験(PROG)による総合的な人間力の評価を行っている。また、学生の学修活動やキャリア開発の履歴と成果を電子ファイルに蓄積した e ポートフォリオを導入し、学生の主体的な学習行動を促すようにしている。さらに、PDCA サイクルを働かせ、継続的な改善を行っている。

本構想では、この質保証システムを基礎として、教育の受け手側である学生の積極的で良質な参加を促し、教員・学生双方の経験価値・利用価値を増大させていくことを狙いとする。学習は学修へ進化し、学生が自身の成長を自覚でき、アクティブ・ラーニング(AL)の中での学修面での質保証が実現する。学修と教育双方の質保証を伴った「価値共創型教育」の確立を目指していく。この価値共創型教育モデルは、実践型教育科目に展開し、最終的には、本学の大多数の科目に展開していく。

#### ② 実践型教育科目の拡大

本学は、2003年に日本初の技術経営(MOT)教育に特化した専門職大学院「工学マネジメント研究科」を開設している。2008年度からは、大学院理工学研究科の副専攻「ビジネス開発専攻」として MOT 教育を導入した。この副専攻科目は全て英語で実施しており、日本人学生と留学生と一緒に履修できるようにしている。

工学マネジメント研究科自体は 2018 年度をもってその 15 年の歴史に幕を閉じるようになったが、そこで培った MOT 教育を学部教育の中に展開し、技術経営能力の育成を図る。また、MOT 教育と関連し、企業家マインドの育成と、事業化に至るプロセスの教育プログラム(アントレプレナー教育)も新たに導入していく。さらに、既に学部と大学院で実施している国際インターンシップについても、その拡大を図っていく。

本事業で拡大を図る実践型教育科目においては、アクティブ・ラーニングの要素を多く取り入れ、学修・教育双方の質保証をする価値共創型教育を適用していく。

#### ③ 価値共創教育モデルの発展と普及

本構想で進める「価値共創型教育」においては、その教育システムの構築プロセスや教育の実践過程において、新しい知見や発見が多く得られることが想定される。これを、公益社団法人日本工学教育協会などの論文誌や国際学会でタイムリーに発表し、その進化と普及を図る。論文誌や学会発表とは別に、多くの機会を得て、公表と普及に努めていく。また、海外の協定校と実施しているグローバル PBL や、本構想で構築を目指す GTI の場を通じて、海外への水平展開も図っていく。

### (2) 世界水準の大学制度の実現

#### ① 世界に解放された柔軟な大学制度

日本人学生の海外への派遣および海外からの留学生の受け入れを容易にするため、90 分授業を 15 週間行っていた従来のセメスターを、100 分授業を 14 週行うように改定し、セメスターを 7 週間ずつのクォーターとして運用できる「クォーター制」を 2018 年度から導入した。さらに、学部・修士・博士課程での早期修了も選択できる柔軟なアカデミック・パスの設定、英語で受講できる科目数や英語のみで卒業できるコースの増加、外国人教員の増

加などを積極的かつ戦略的に実施し、国際的に解放された大学としていく。

#### ② ダブルディグリー (DD)、ジョイントディグリー (JD)

DD に関しては、コンソーシアム SEATUC (1.1.2 (3) に詳述) をともに担う東南アジアの協定校 7 校からの留学生に対しては、「ハイブリッド・ツィニング・プログラム」として既に実施している。協定校との間での、単位互換認定、ワシントン・アコードに準拠した教育の質保証システムの標準化・共有化を行い、双方向のシステムに発展させる。JD に関しては、上記協定校との間での検討を進める。また、欧米の有力大学との間で、JD の協定を結び、ASEAN からの留学生も含めた運用を図り、本学の魅力を高めていくことも検討する。

#### ③ 国際コース・課程の設置

グローバル化された世界の大学においては、文化的な背景の異なるさまざまな国・地域の教員や学生が集い、互いに刺激しながら切磋琢磨していくことが当たり前になっている。本学をそのような世界標準の大学にするため、学士課程教育のグローバル化を 2 つの異なるアプローチにより平行して進める。

一つは、主として日本人学生を対象に、海外大学への留学を必須とし、卒業単位の 1/4 を英語による開講科目の履修によることを義務付けた課程の創設である。これは、2017 年度よりシステム理工学部の 3 学科において「国際コース」として実現した。2019 年度には新たに 2 学科が加わり、システム理工学部全学科において「国際プログラム」が開設された。

もう一つは、主としてインターナショナルスクールの卒業生を対象に、日本語を既習していることという学士課程への入学条件を取り払い、英語による授業のみで学位が取得できる課程の整備である。現在、英語のみで卒業できる学士課程「先進国際課程」を 2020 年 10 月より工学部にて開設するべく準備を進めている。

将来的には、この 2 つのアプローチを統合し、段階的に全学への展開を進めていく。

#### ④ ダイバーシティの強化

教員・学生における女子の割合を増加させることについても本構想スタート以来積極的な展開を行っている。とくに、男女共同参画室を 2014 年度に設置後、各学科の新規教員採用においては、女性教員の採用を意識的に増やすことにつとめ、女性教員の割合を 2014 年度から 18 年度までの 5 年間に 8.6% から 17.7% に上げることに成功した。このことが認められ、2017 年度には東京都からの表彰を受けている。2019 年度はさらに 20.5% にあげることができた。

#### ⑤ ガバナンス改革

学長付託型のガバナンス改革を行うことで、より迅速な意思決定を可能とする。人事システムについては、国際通用性のある人事評価・採用・研修等の制度となるように見直しを図る。実際に、③で述べた英語による学位課程実施のための外国人教員の採用は、理事会の英断により定員外の雇用として措置されている。

また、本学のグローバル化を先導していく専門職として、UGA (University Global Administrator) を設けている。UGA はこれまでグローバル・ラーニング・コモنزの設置、グローバル PBL の実施などに多大な貢献を行っている。

#### ⑥ 中長期計画 (Centennial SIT Action) の推進

本学が創立 100 周年を迎える 2027 年に向けた中長期計画 (Centennial SIT Action) を現在策定中である。その中で、グローバル化に関わる KGI (Key Goal Indicator)、KPI (Key Performance Indicator) を設定し、達成に向けて計画を推進する。KGI の中には、「アジア



工科系大学ランキングトップ 10」を掲げている。

### (3) 教育・研究・開発コンソーシアム〔Global Technology Initiative(GTI)〕の構築

実学重視の教育を旨とする本学では、企業との共同研究を推奨し、活発な産学連携を推進している。2013 年度に採択された文科省「地（知）の拠点整備事業」においては、本学キャンパスが立地する江東区、港区、埼玉県（さいたま市）を中心とした「まちづくり」「ものづくり」の観点から、7つのプロジェクトを立ち上げている。地域の抱える課題を抽出・分析し、その解決を図るプロセスを PBL として、日本人学生及び留学生を巻き込んだ教育課程に組み込んでいる。地域の企業との連携による新たな研究課題の発掘、学生を巻き込んだ共同研究による人材育成、その研究成果による社会貢献は、実践型教育を志向する本学にとって、格好の教材ともなっている。

一方、2006 年には、SEATUC (South East Asian Technical Universities Consortium 東南アジア工科系大学コンソーシアム) を結成し、現在、5 カ国 8 大学が加盟している。協定校間の教員・学生の交流の他、毎年、SEATUC シンポジウム、SEATUC 学長会議を開催している。結成以来、SEATUC の運用にあたっては、本学が中心的な役割を果たしてきた。

本構想では、これらの経験を基に、新たに GTI を構築する。大きな成長のポテンシャルを持ちながらも、課題も多く抱えている東南アジアを中心とする科学技術途上国に、この産学連携の活動を持ち込み、実践型教育の場とする。GTI の構成メンバーは、大学と企業の混成とし、大学側は理工系を中心とする日本国内の大学、日本型の工学系教育を取り入れている海外の大学、SEATUC 加盟大学から参加を募っていく。また、企業側は海外の大学所在地に拠点を持つ日系企業を中心に参加を呼び掛けていく。この取り組みでは、日本型教育の良さ（フォロワーシップ、ものづくり精神、大部屋主義など）を、GTI を通じて海外へ波及させることも企図している。

#### ● Global Technology Initiative (GTI) の構成メンバー候補

【大学】 芝浦工業大学、理工系を中心とした国内他大学、日本型工学系教育を取り入れている科学技術途上国の大学、SEATUC 加盟大学等

【企業】 メンバーとなる海外の大学の所在地に拠点を持つ日系企業等

#### ● GTI の主な活動計画

大学と企業が WIN-WIN の関係を構築し、人材の育成と発掘の場とすることを目的として、以下の活動を行う。

- ・ 国家間プロジェクト・産学連携プロジェクトの企画・実施、アクティブ・ラーニング(AL) (海外インターンシップ・グローバル PBL プログラム等) の企画・実施
- ・ 教員の相互派遣・交換、職員の研修（双方向）
- ・ シンポジウムの開催：PBL 等 AL 成果、産学連携成果の発表
- ・ 就職マッチング

## 1.2 実施体制等

### 1.2.1 実施体制

#### (1) 事業採択～平成 29 年（2017）年 3 月

事業開始年度の平成 26(2014)年 10 月に学長を議長とする事業推進のための意志決定機関として SGU 教学会議を設置し、隔週で会議を開催した。メンバーは各役職教員、各学科・専攻の代表教員、事務管理職など構成し、総数数十名の会議体となった。様々な情報の共有や意見交換がされ、本学のグローバル化に大きく貢献した。

SGU 教学会議の直下に各案件を重点的に推進する 6 つのワーキンググループ(WG)を配置した。工学教育の国際化 WG、留学生受入 WG、海外支部・サテライトオフィス WG、海外プログラム WG、学生活動推進 WG、そして学外広報 WG である。それぞれの WG が精

力的に活動し、全学のグローバル化を推進した。

さらに SGU 教学会議での決定事項を各部局に伝え実施を促す機関として、各部局の代表者からなる SGU プロジェクト委員会を設置した。SGU プロジェクト委員会では、年に 3～4 回ワークショップを開き、大学のグローバル化推進のための施策について議論を行い、グローバル化に対する意識共有・向上の場として大いに機能した。WG、SGU プロジェクト委員会の設置により、各会議体の責任と役割およびグローバル化のための課題が明確となり、また多くの教職員が関わることでグローバル化の全学推進が加速した。

事業採択直後より、学部・学科や研究科・専攻、事務部署間の垣根を越えて、各種国際交流に関するプログラムをコーディネートする役割として、UGA (University Global Administrator) を数名置いた。語学力向上サポート、グローバル PBL の立ち上げ支援、シンポジウム等グローバルイベントの企画・運営など、学生のグローバル理工系人材としての能力の推進企画や事業取組の促進に当たっている。教員と職員の間にも位置づけ、柔軟にネットワーク良く立ち回れるポジションとしていることが特徴である。いずれも経験豊かな人材を配置し、現在でも事業を進める上で貴重な戦力となっている。

## 学内実施体制と機能 2017.3まで

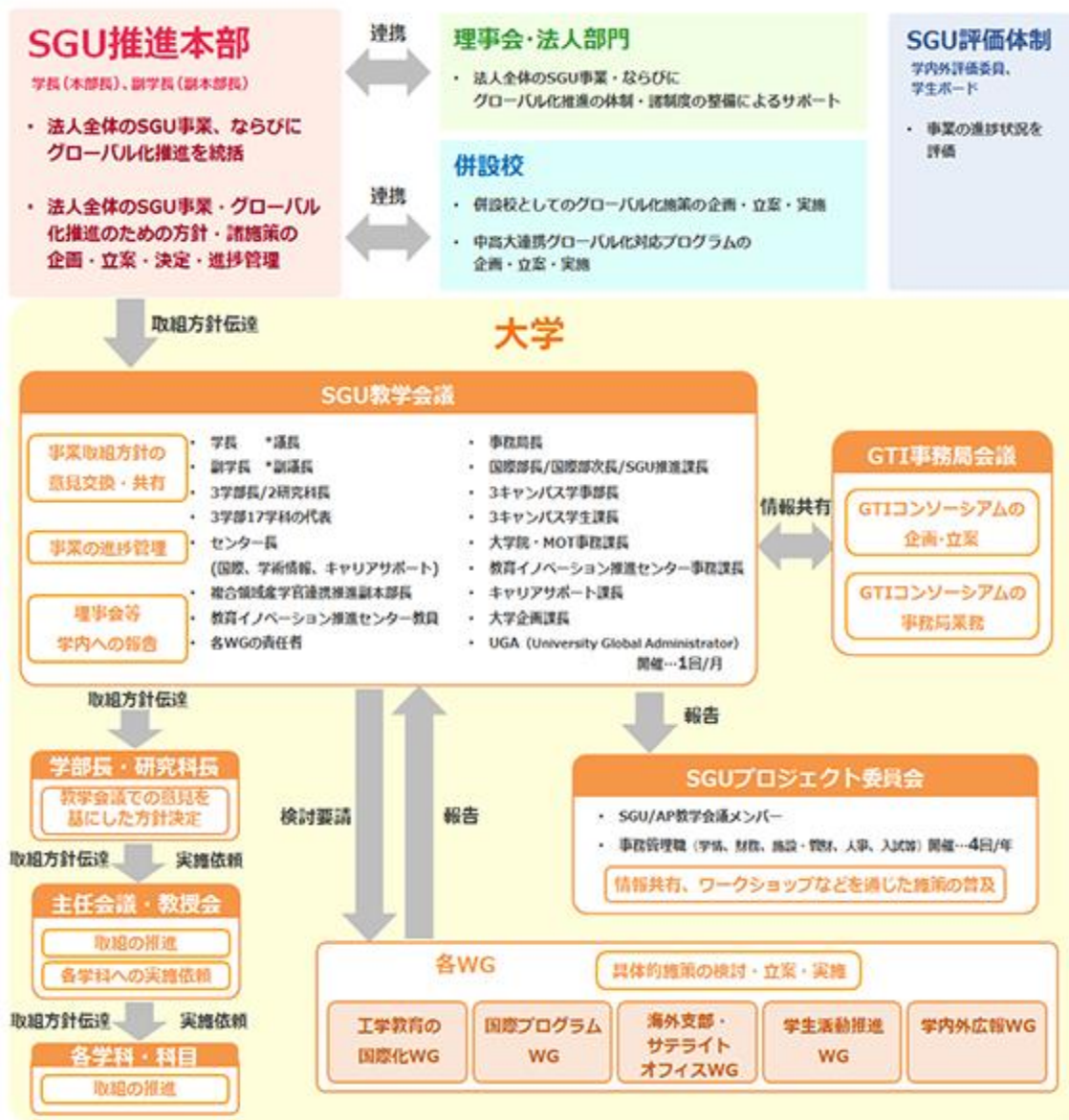


図1 2016年度までの事業の実施体制

## (2) 平成29(2017)年4月以降

一方、SGU教学会議の課題として、その規模の大きさゆえに意思決定の効率性・迅速性が表面化してきた。これを解決するべく、平成27(2015)年10月に学長を本部長とする少数のSGU推進本部会議を設置し、意思決定機能を移管した。SGU推進本部の会議は原則毎週開催し、学内のグローバル化推進や各部署からの課題や事業進捗管理、諸施策の企画立案等と事業推進の迅速化を意識しつつ大学教育の質保証を行うこととした。平成29(2017)年4月からは、SGU推進本部会議に国際交流センター長、教育イノベーション推進センターグローバル推進部門長(いずれも全学組織)を加え、更なる事業展開を図るための体制強化を整備した。

尚、SGU教学会議は、引き続き学内のグローバル化に関する事項の情報共有、意見交換



の場として 2015 年度は学期中毎月 1 回開催した。その後、事業活動の全学における認知度の向上に伴い開催回数を減じてきている。2018 年度については年 4 回の開催となったが、依然として重要な事項の各学科への直接の伝達のために大きな役割を担っている。

SGU 教学会議から SGU 推進本部会議への意思決定機能の移管のタイミングに合わせ、各 WG および SGU プロジェクト委員会についても当初の目的を達成したこと考えられることから、常設組織（関係機関・部門・事務部署）にその業務を落とし込むこととし、発展的に解消することとした。一方で、平成 28(2016)年 9 月には、学部・研究科のグローバル化の取り組みの啓蒙・普及とグローバル化人材育成の更なる推進を目的として、各学科に”グローバル化推進担当教員”を配置し、事業の全学展開を強化している。



図2 2017年度からの事業の実施体制

### 1.2.2 評価体制等

大学として取り組む各評価委員会をそれぞれ年1回開催している。大学点検・評価分科

会（毎年 6 月）、大学外部評価委員会（毎年 2 月）、学校法人評価委員会（毎年 3 月）がそれに当たり、これらの評価委員会において、大学における本事業の位置づけ、各取組における活動状況および目標達成状況を評価している。また教職学協働の一環として学生（留学生含む）による評価を実施する準備委員会を（平成 26(2014)年 12 月）開催した。

平成 29(2017)年 4 月、学校法人として内部質保証に関する規程を制定した。この規程において、大学においては、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成し、自らの判断と責任において評価結果を改革、改善につなげるために実施する点検・評価することが定められ、学部長・研究科長会議の責任の下にて実施することとなった。

#### ① 学内評価委員会

事業開始初年度より、SGU 教学会議において事業内部評価を実施している。事業開始以降、毎年その内容を事業報告書としてまとめている。学内評価委員会や SGU 教学会議などで指摘を受けた課題に対しては、対応策を策定し、それを SGU 教学会議等の会議で報告の上、実施するという PDCA サイクルを確立した。

#### ② 外部評価委員会

本事業開始後、年度ごとに学校法人芝浦工業大学評価委員会の下にある大学外部評価委員会（外部有識者 4 名による構成）にて、第三者による評価を実施した。評価方法として、自己点検評価報告書のほかに外部評価委員による学生インタビューなども併せて行った。直近の外部評価委員会では、学長のリーダーシップの下、多面的な活動を全学的に推進している点、各数値目標達成も意欲的な目標の中で概ね順調に推進している点などが評価された。

#### ③ 学生の参画

本学の事業推進の特徴として、教職学協働があげられる。本学では、学生が授業観察して授業改善に貢献する Student Consulting on Teaching (SCOT)、大学の仕組み改善を考える Learning Facilitator (LF) など、従前より学生が大学やその教育の質保証に貢献する制度を取り入れてきた。この流れを汲み、教職学協働の一環として学生（留学生含む）による評価を実施する準備委員会を平成 26(2014)年 12 月に開催した。

これらに加えて、グローバルマインドにあふれた学生の奨励の意味も込めて Global Student Staff (GSS) 制度を平成 28(2016)年 4 月に制定した。この制度においては、学生スタッフ登録制度を用いて、大学が依頼するグローバル化推進のための業務に対して給与を支給している。令和元(2019)年度の登録学生数は日本人学生 103 名、留学生 87 名であった。

さらに、留学生と日本人学生の交流スペースとして大宮キャンパスに平成 28 (2016) 年度、豊洲キャンパスに平成 29 (2017) 年度にそれぞれ設置された特別教室「グローバル・ラーニング・コモンズ (GLC)」のスタッフとして、留学生と日本人学生スタッフによる運営を行っている。この点の詳細については、2.5.4 に述べる。

### 1.3 大学教育再生加速プログラム (AP) 事業との関係

本学は、スーパーグローバル大学創生支援事業 (SGU) 事業に採択されるとともに、同じく文部科学省の平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム (AP)」に採択された。AP は国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された方向性に合致した先進的な取組を支援することを目的としており、本学はテーマ I「アクティブ・ラーニング」、テーマ II「学修成果の可視化」の複合型に申請し、採択された。

本学はこの二つの事業を連携させ、本学全体の大学改革を推進している。AP の取組は、建学の理念「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」のもと、学生の主体的な学びを促し、学修成果を可視化する取組である。一貫した教育体系に位置づけられた 4 年間の体系的・組織的なアクティブ・ラーニングの教育プログラム構築、学修成果の可視化と学生の学修時



間のPDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことによる継続的な改善)による保証、双方向システムを利用した講義科目へのアクティブ・ラーニング導入や授業外学修を促進するシラパスの充実、学修管理システム構築、それらを確認、改善する仕組みとしての学修ポートフォリオの整備・普及に努める。また、定期的に教職学協働のワークショップを開催し、学修に対する責任は教員、職員と学生本人にあることの意識を全学で共有し、学生の教育・学修改革への参画の仕組みを現行制度から更に発展させ、学長のリーダーシップのもと本学の教学改革を加速的に推進することに取り組んでいる。

以上のように、APは、教育・学修の質的保証を担うための学内の体制・仕組みを整備することが中心的な役割である。一方、SGUは、APで構築された仕組みを活用して、世界に貢献するグローバル人材育成を行うための取組みである。

## 1.4 実施状況

本節では、事業開始年度の平成26年度から令和元年度までの実施状況を記す。本事業終了後のあるべき姿も見据え、本学が真のグローバル大学として更なる発展を遂げるために、過年度に引き続いて様々な学内のリソース整備、教育プログラムの構築、各種国際交流プログラムおよび語学力強化のための取り組みなどを実施している。

とりわけ学内のリソース整備という点においては、教育・研究の更なる国際化を図るべく、戦略的に外国籍教員の採用を拡大した。このリソースを活用して、令和2(2020)年度に向けて英語のみで学士課程を取得できるプログラムを立ち上げるべく、その準備も進めている。

平成29(2017)年度に大学院理工学研究科およびシステム理工学部内の3学科で開始した国際プログラムについても、更なる拡充を図っている。特に学部の国際プログラムにおいては、令和元(2019)年度には新たに2学科も加わり、システム理工学部全学科において国際プログラムを展開するべく進めている。このプログラムにおいては、一学期以上の海外留学や卒業論文を英語で作成・説明を行なうことを必修とすることで、グローバル理工系人材としての能力を見につけることが期待される。

国内外の大学・企業・政府関係機関と連携して、イノベーション創出と人材育成を図るべく展開しているGTIコンソーシアムでは、産業界と共に進めるグローバルPBLを拡充し、そこに主催校以外の大学の教員・学生が参加している。本学がこれまで培ってきたノウハウを、国内外の理工系大学を中心に広く共有することにより、国境を越えて理工系教育の向上に貢献する体制ができつつある。

これ以外にも、本学が必要と考える4つの能力(コミュニケーション能力、問題発見解決能力、メタナショナル能力、技術経営能力)を数多くの学生に身につけさせるために、国際交流プログラムや語学力強化のための取り組みの拡充を進めている。海外研修・留学プログラム参加者全員に対して給付型奨学金を提供し、また課外の英語学習プログラムにおいては、授業料の支援を行ってきた。その結果、以下の各項目に詳細を報告するような成果を収めている。

学内における日本人学生と留学生交流の場であるグローバル・ラーニング・コモンズの活動も更に拡充し、数年前までは学内で見かけると目立っていた留学生も、今となっては日常の風景と化した。海外の協定校の間では、本学の評判が交換留学プログラムに参加した学生による口コミで伝わっており、海外協定校一大学当たりにおける留学希望者が増加するという正のスパイラルが出来上がりつつある。

以上のことから、芝浦工業大学のグローバル化は着実に進行しているといえる。

### 【平成26(2014)年度】

・学内事業推進体制を整備(SGU教学会議、SGUプロジェクト委員、各ワーキンググループ)

ブ設立、UGAの採用)

- ・アントレプレナー教育開始、MOT教育の学部への導入の検討を開始
- ・質保証(ルーブリック・PROG・CEFR等のeポートフォリオによる管理)モデルの構築
- ・グローバルな産学連携活動の推進・拡大
- ・ジョイントディグリー(JD)、ダブルディグリー(DD)のための調査開始
- ・ダイバーシティ強化
- ・海外協定校拡大(計51校)
- ・グローバル理工学教育モデル構築のためのアクティブ・ラーニング(AL)強化(新規開拓活動により、海外インターンシップ29人、グローバルPBL157人派遣)
- ・マレーシア・サテライトオフィスおよびタイ・サテライトオフィスでの常駐スタッフ雇用
- ・GTI(Global Technology Initiative)設立に向けた学内の構想固めの結果、設立の計画を1年前倒しすることを決定
- ・グローバル人材育成事業を含んだ事業外部評価の実施

【平成27(2015)年度】

- ・技術経営(MOT)専門職大学院教育プログラムの学部への導入を検討。MOT教員による学部での授業を開講
- ・大学院FD委員会(6日開催)にて、他大学の先進的な教育改革取り組みの情報共有
- ・一部学科でのクォーター型授業を導入
- ・海外協定校拡大(計61校)
- ・「国際連携学科に関する特例」の省令施行によりJD導入の検討を進めるも、省令に沿った形での学部・専攻の設置は本学の基本構想と合致せず断念
- ・学長が学部長・研究科長を指名するなどの教員人事権を持つ「学長付託型ガバナンス」を導入
- ・事業展開のためのワークショップを8月・10月・12月・3月の計4回に開催(うち1回は学生代表も参加)
- ・グローバル理工学教育モデル構築のためのアクティブ・ラーニング強化(新規開拓活動により、海外インターンシップ32人、グローバルPBL273人派遣)
- ・質保証(ルーブリック・PROG・CEFR等のeポートフォリオによる管理)モデルの学内普及に注力
- ・GTI(Global Technology Initiative)コンソーシアムを設立、キックオフ・シンポジウム開催(12月)。年度末時点で145機関が加盟。
- ・グローバル人材育成事業を含む、自己点検評価を実施

【平成28(2016)年度】

- ・質保証に関する統合型LMSにつき調査・検討を行い、導入を決定。一部ルーブリックの機能を見直し
- ・MOT教育として、グローバルPBL経営的課題を取り扱う機会を拡大
- ・学修期間の短期化の前に、ダブルディグリーを優先させるという判断から、平成29(2017)年度開設予定の国際理工学専攻でのDD導入を検討
- ・海外協定校拡大(計99校)
- ・現行法令の下、JDを実施することには困難と判断し、DD実施のための検証を継続
- ・ガバナンス改革の一環として、意思決定を迅速化するための各種規程の改定を実施。また、職員の人事考課・給与システムを改定
- ・大宮キャンパスにおいて、「グローバル・ラーニング・コモンズ」を開設
- ・グローバル理工学教育モデル構築のためのアクティブ・ラーニング(AL)強化(新規開拓活動により、海外インターンシップ22人、グローバルPBL509人派遣)
- ・サテライトオフィス(ベトナム)1ヵ所増設を開設するべく交渉したが、ベトナム政府の見解によりペンディング

- ・GTI(Global Technology Initiative)の拡大(178 機関)。シンポジウム開催
- ・自己点検評価ならびに大学外部評価委員会による評価を実施

#### 【平成 29 (2017) 年度】

- ・大学院理工学研究科に国際理工学専攻を開設
- ・システム理工学部国際コースを開設
- ・外国人教員を 5 人新規雇用 (純増)
- ・MOT 教育の学部への導入推進(全学部)
- ・学部・修士・修士・博士課程後期のオーバーラップによる、学習期間の短縮化の検討
- ・学修時間の確保による質保証を目指した開講科目数の削減検討
- ・海外協定校拡大(計 105 校)
- ・豊洲キャンパスにグローバル・ラーニング・コモンズを開設
- ・ジョイントディグリー(JD)、ダブルディグリー(DD)を目指した単位互換科目の学内調整
- ・ガバナンス改革のための全教員を対象とした業績評価制度と年俸制導入の検討開始
- ・グローバル理工学教育モデル構築のためのアクティブ・ラーニング強化(新規開拓活動により、海外インターンシップ 30 人、グローバル PBL550 人派遣)
- ・工大連係を活かしたインフラ共用によるサテライトオフィス運用、あるいはリエゾン設置の検討
- ・GTI(Global Technology Initiative)の拡大(200 機関)。シンポジウム開催。企業連携型グローバル PBL の拡充(14 件)。
- ・独立行政法人日本学術振興会によるスーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価を受審。総合評価として A 評価を受ける。

#### 【平成 30(2018)年度】

- ・SIT 総研所属の外国人教員を 10 人雇用 (定員枠外、純増)。研究のかたわら、英語だけで卒業できる課程での教育を担当する。
- ・短期留学を派遣、受け入れともより容易に行えるようにするため、学部教育の一セメスターを 90 分授業×15 週から、100 分授業×14 週に変更。これにともない、前期を第一クォーター、第二クォーター、後期を第三クォーター、第四クォーターにそれぞれ分割しての運用が可能になった。
- ・海外協定校拡大 (計 150 校)
- ・第二回工大サミット「国際社会で活躍できる理工系イノベーション人材の育成」の豊洲キャンパスでの開催 (2018 年 10 月 27 日)
- ・英語だけで卒業する課程のための工学部教育開発本部によるカリキュラム案提示 (6 月)を受け、全学の教職協働によるタスクフォース (主査・村上学長) 発足 (9 月)。SIT 総研所属の外国人教員の中での基礎科目カリキュラム案作りを平行して実施。最終案をとりまとめ、文科省に事前相談資料を提出 (2019 年 1 月)。
- ・GTI コンソーシアムの拡大 (210 機関)、シンポジウム開催、企業連携型グローバル PBL の拡充 (25 件)。

#### 【令和元(2019)年度】

- ・海外協定校は約 190 校に拡大。
- ・引き続き戦略的に外国籍教員の採用を拡大し、昨年比 12 人増の 37 人 (全教員の 12%) となった。
- ・令和 2 年の秋より英語のみで学士課程を取得できるプログラム (工学部先進国際課程) を立ち上げることが正式に決定し、その準備を進めた。
- ・システム理工学部の国際プログラムにおいては、新たに 2 学科が加わり、システム理工学部全学科において国際プログラムを展開することとなった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、200 人以上の学生の海外渡航が中止となったも

の、延べ1,586人（うち単位認定あり1,455人）の学生を海外に送り出した。グローバルPBLは、海外で45プログラム実施し624人が参加した。語学研修は延べ30プログラム実施し、734人が参加した。受入留学生総数は、1,690人となっている。

- ・GTIコンソーシアムにおいては、国内高等教育機関19校、海外高等教育機関10校を含む221機関が参画。産業界と共に進めるグローバルPBLを拡充して32件実施し、そこに主催校以外の大学の教員・学生が参加した。本学がこれまで培ってきたノウハウを、国内外の理工系大学を中心に広く共有することにより、国境を越えて理工系教育の向上に貢献した。

- ・自己点検評価活動の一環として、自己点検評価報告書の中で事業における事業構想の実現、事業の自走化に向けた体制・財政構造の整備について評価を行った。また、外部評価委員会による評価をおこない、事業評価の客観性を担保し、順調に進捗しているとの評価を得た。

## 1.5 2019年度までの成果の要約と特色

### 1.5.1 成果の要約

本事業の目的は、本学の使命である「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」に示されるように、国際的に通用する魅力のあるグローバル大学へと本学が進化することである。本事業を通じて、本学自身のグローバル化、および教育・研究・社会貢献（イノベーション）の三位一体改革を強力に推進し、世界水準の私立理工系大学のモデルとして発展させるとともに、開発した理工学教育モデルを国内・国外の大学と共有し、世界の理工系高等教育の質保証へ取り組んでいくものである。

この目的を達成するために、本学が令和9(2027)年の100周年に向けて策定したCentennialSITActionにおけるKPI・KGIと、スーパーグローバル大学創成支援事業の推進項目として掲げている①価値共創型教育による実践型技術者の育成、②世界水準の大学制度の実現、③教育・研究・開発コンソーシアム〔Global Technology Initiative : GTI〕の構築を整合させながら、教職学協働で事業を推進しており、設定した中間目標はほぼ達成している。

#### (1) 価値共創型教育による実践型技術者の育成

価値共創型教育とは、教職員と学生がそれぞれの立場を理解し、共に授業の価値を高めていくことを指す。本学では、実践型技術者を育成する教育法として、アクティブ・ラーニングの要素を多く取り入れることに注力している。その代表例が、海外協定校と共に実施するグローバルPBLである。グローバルPBLは、自身の専門分野の課題解決に取り組むことでその専門性に磨きをかけると同時に、協定校の学生と課題に取り組むことで国際性も養う。国内外併せたグローバルPBLの実施数は、平成26(2014)年度が19プログラム、平成27(2015)年度が38プログラム、平成28(2016)年度が61プログラム、平成29(2017)年度が75プログラム、平成30(2018)年度が93プログラムと大きな伸びをみせていたが、令和元(2019)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、派遣型45件、受入型36件、計81件の実施数にとどまった。「日本人学生に占める留学経験者の割合」は、新型コロナウイルス感染症のため2020年春のプログラムのキャンセル者が200名以上であったこともあり、令和元(2019)年度の目標19.9%(1,600人)にはとどかなかったものの、16.9%(1,455人)と健闘した。また「全学生に占める外国人留学生の割合(通年)」においては、令和元年(2019)年度の目標14.8%(1,360人)を上回り、18.3%(1,690人)と新型コロナウイルス感染症の中にもかかわらず大きく上まわった。大学の国際化関連指標である多様性・流動性の向上にも貢献している。

これらアクティブ・ラーニングを含む教育改善のPDCAサイクル展開を期するために、従前より行っていた学生による授業アンケートに加えて、学生による授業コンサルティング



グの一つである SCOT (Students Consulting on Teaching) 制度、また教育的補助業務に留まらず教育・研究全体の支援を行なう Learning Facilitator(LF)制度を拡充している。

### (2) 世界水準の大学制度の実現

世界水準の大学制度を目指し、世界に解放された柔軟な大学制度を確立すべく、クォーター制の導入を推進した。これまでの 90 分 x15 回であった授業時間を、平成 30(2018)年度から 100 分 x14 回 (偶数回) とし、よりクォーター制を適用しやすい形に変更するとともに、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた講義を拡充することとした。また、平成 29(2017)年度から大学院理工学研究科には国際理工学専攻を、システム理工学部の 3 学科には国際コースを設け、令和元 (2019) 年度には 2 学科追加され、5 学科に設置された。これに関連して、英語による授業科目数も平成 25(2013)年度の 75 科目から、令和元 (2019) 年度には 932 科目まで拡大している。

外国籍の教員を増やすために、平成 29(2017)年度より従来の人事枠を超えた戦略的な外国人教員の採用を開始した。令和 2 (2020) 年度 5 月 1 日時点「外国人教員等」の数は、128 名となり目標を上回るペースで増加している。ガバナンス改革においては、理事会を最高意思決定機関と定め、理事会が学長に権限を付託する制度により、学長がリーダーシップを発揮して教学改革を迅速に進めることができる体制を整備した。

### (3) GTI コンソーシアムの構築

平成 27(2015)年 12 月に 120 の加盟機関をもって、東南アジアと日本に軸足を置く産学官連携アライアンスである GTI (Global Technology Initiative) コンソーシアムを設立した。その後も、積極的にコンソーシアムの加盟や諸活動への参加を呼び掛けた結果、令和元 (2020)年 3 月末の加盟期間数は 221 となっている。本コンソーシアムでは、学生の海外インターンシップや国際共同研究など様々な活動を行っているが、特に産学官連携型のグローバル PBL に力を入れている。大学教育に企業が参画することで、社会が必要としている課題設定など、内容がより実践的となることが期待される。

## 1.6 プログラム終了後の自走化

芝浦工業大学では、「グローバル大学創成支援」事業採択当初から、事業補助金で賄いきれない大学のグローバル化に関する経費につき、理事会による「大学のグローバル化推進のために必要な案件に優先的に資源配分を行なう」という機関決定の下、大学の自己資金およびその他の外部資金を活用して、大学のグローバル化を推進してきた。その額は、既に事業補助金を大きく上回っており、自走化に向けて形が出来上がっているともいえる。今後も創立 100 周年を迎える 2027 年に向かって、学校法人を挙げてグローバル化を推進するという方針は確認されており、既に行っている以下の取り組みを更に拡充し、事業終了後もグローバル化を推進していく。

- (1) グローバル化推進費用の学内予算への内在化
- (2) ステークホルダーからの寄付金の獲得
- (3) 各種外部資金の獲得
- (4) 企業からグローバル化推進資金の獲得
- (5) 有料留学生受け入れプログラムの拡充

## 2 SGU 事業取組み

### 2.1 OUTBOUND

芝浦工業大学では、すべての学生が在学中に一度は海外留学を経験できる環境の構築を目標として派遣プログラムを推進している。

派遣の形態としては、語学研修、グローバル PBL(Project Based Learning)、海外インターンシップ、交換留学、研究留学と、学生の目的に応じた海外留学プログラムを用意し、すべての年次での留学機会を提供することで、多くの学生に留学を促している。

SGU 事業 6 年目となる 2019 年度において、合計 1,586 名の学生を海外に派遣した。前年度比では若干の減だが、理由としては 2020 年に入り新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が影響を及ぼし、191 名以上が渡航キャンセルを余儀なくされたことが挙げられる。

なお、SGU 事業における海外留学の定義として「単位認定を伴うこと」、「日本国籍者であること」、「該当年度留学初回であること」の 3 つの条件があり、2019 年度の留学経験者 1,586 名のうち、これらすべての条件を満たす学生数は 1,455 名となる。これは全体の 91.7% となり、8.3% の学生については、SGU 事業上はカウント対象外という扱いになる。そのため、3 つの条件のうち、「単位認定」が伴わなかった留学については、「単位認定」ができるように留学プログラムの質的向上に取り組む必要や、母数としての初回参加者をいっそう増やすことが重要な要素となる。

2020 年度は前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により派遣事業は大きく制限されるが、オンラインでの国際プログラムを検討中である。2020 年度夏期期間には協定校 2 校（グアム大学・FPT 大学）の協力を得てオンラインでの語学研修プログラムを実施する。そのほかオンライン PBL が今後展開する予定であり、SGU 目標に少しでも近づける努力が求められる。

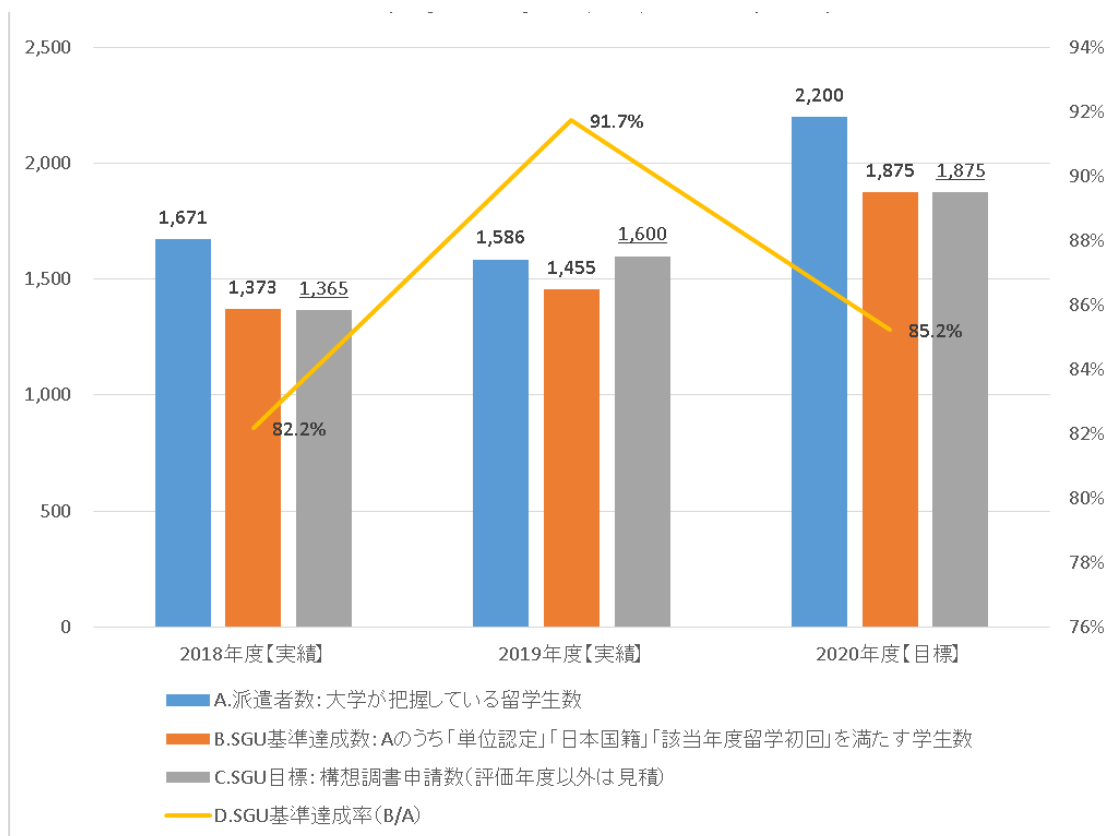


図1 海外留学派遣学生数の実績・目標の推移

2.1.1 語学研修

語学研修は、夏休みや春休みを利用して約2週間～1ヶ月で実施する海外派遣プログラムである。語学研修という性質上、英語の授業を中心としたカリキュラム構成になっているが、現地学生との交流、研究室・工場等へのフィールドトリップ、文化体験などもプログラムに含めており、英語力のブラッシュアップに加えて、異文化に触れながら多様な価値観を養えるプログラム構成としている。

本学の留学プログラム群の中における語学研修の位置づけは、最も参加しやすい入門プログラムとしての位置付けである。新学期の事務ガイダンスや、必修科目である英語授業内でのアナウンス等により、特に1、2生向けに積極的な広報活動を行い、募集につなげている。プログラムのラインナップとしては、多様な学生のニーズに応えられるように多様性を持たせている。2019年度は、渡航先、期間、授業の実施形態、レベル、他国学生との交流度、アクティビティの充実度、宿泊形態、費用等それぞれに異なるプログラムを18プログラム用意した。

募集にあたっては、選択肢の多さに学生が困らないよう、プログラムをエリア（英語圏／アジア圏）と期間（4週間／2週間）の組み合わせで4つの象限に区分し、学生が選びやすいよう配慮した。プログラム別の詳細資料に加え、学生の体験談、各プログラムの特徴を俯瞰できる比較一覧表も合わせて作成し、学生が参加プログラムを選びやすいようウェブでの公開資料も充実させた。説明会の機会も多めに設け、約2週間の募集期間中ほぼ毎日実施した。

参加学生からは、語学力の向上を実感するといった声や、学習に対するモチベーションが向上したという声が多く寄せられている。特に現地学生との交流を通じて、現地学生の学習に対する高い熱意や姿勢を目の当たりにすることで、英語学習に留まらず、考え方や生き方についても感じるものがあつたという学生も多い。語学研修プログラムの参加者には、上位学年進学時にグローバルPBLや交換留学等、上位のプログラムに参加することが期待される。



図1 語学研修プログラム募集資料

### 2.1.2 グローバル PBL(Project Based Learning)

本学の掲げる「グローバル理工学人材育成モデル」構築のための手法の一つとして実施されているグローバル PBL は、学生を海外のパートナー大学に派遣(派遣型)あるいは海外から学生を受け入れ(受入型)、学生同士が国際チームを編成し、2 週間程度の期間、協働しながら工学的な課題に取り組むプログラムである。

グローバル PBL の実施は本学のグローバル化推進において代表的な取り組みの一つであり、その実施数は年ごとに加速度的に増えてきているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2019 年度では派遣型 45 件、受入型 36 件の実施数にとどまった。

グローバル PBL はすべての学科において展開されており、分野横断型や、企業連携型、複数大学参加の大型プログラム、語学+専門分野複合型など、プログラムの特徴は実に様々である。それぞれ特徴のあるプログラムの中で、学生は自身の分野の実践的な問題解決力を身につけ、同時に海外の文化や風習、考え方の違いを学び、グローバル・エンジニアの素養を身につける事ができる。そのうち幾つかのグローバル PBL を以下より紹介する。



## 派遣グローバルPBL①

 <b>芝浦工業大学</b> 2019年度グローバルPBL(派遣)実施報告 <small>SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY</small>					
<b>ROSを用いたロボットプログラム共同開発</b>					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年09月15日 ～2019年09月24日	インド	IIT, Delhi	・機械機能工学科 ・学部4年生、修士1年生、修士2年生、博士1年生	(芝浦工業大学) 学生9名、TA1名、教員1名 (IIT, Delhi) 学生10名、教員2名	松日楽 信人(機械機能工学科)



図1 集合写真

インド工科大デリー校(IITD)にて、ロボットプログラムの共同開発をテーマとしたグローバルPBLを実施した。本学機械機能工学科からTAを含め9人の学生が参加した。IITDからは、4ラボの学生8名が参加し、4つのグループでそれぞれ移動ロボットに関する課題に取り組んだ。国際標準のロボットプログラムROSを互いに勉強し、基本的な動作の確認ができた。今回、IITD側が学期末であったことから、共同作業の十分な時間を割けなかったが、今後はIITDでも学生が参加しやすいように単位取得コースを検討したいとのことである。今回で2回目であるが年々充実の方向で共同研究も具体的に検討することになった。また、ロボット関連の3研究室の見学や、IITD学生とのTaj Mahalなどへのフィールドトリップのほか、デリー校主催の企業向けの研究交流会Industry Dayも期間中に盛大に開催され見学することができた。PBLに参加した学生は文化の違い、英語力や交渉力などの重要性を再認識することができた。IITDのサポートに大変感謝いたします。



図2 課題の議論



図3 グループワーク



図4 ラボ見学



図5 Industry Day



図6 ミニバスで移動



図7 フィールドトリップ

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。

## 派グローバルPBL②

 <b>芝浦工業大学</b> 2019年度グローバルPBL(派遣)実施報告 <small>SAITAMA INSTITUTE OF TECHNOLOGY</small>					
<b>ものづくり分野で国際的に活躍できるグローバル人材育成を目指した、 新規材料の開発・ものづくりをテーマとしたgPBL(タイ)</b>					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年07月30日 ～2019年08月12日	タイ	チュラーロンコーン大学	・材料工学科 ・学部1年生、学部2年生、学部3年生、学部4年生	(芝浦工業大学) 学生19名、教員3名 (チュラーロンコーン大学) 学生18名、教員3名	芹澤 愛(材料工学科)、 岡 徹雄(材料工学科)、 李 素潤(材料工学科)



**図1 週末にはタイ文化を理解**

2019年7月30日～8月12日にかけての14日間、タイの首都、バンコクの中心部に位置するChulalongkorn Universityにおいて、材料工学科グローバルPBLを実施した。参加対象は本学材料工科学部生としたが、実際には2年生および3年生計19名が参加した。本PBLでは、材料工学(主に金属材料工学分野)におけるワークショップ、自動車部材を製造している日系会社への工場見学およびワークショップ、先方教員、材料工学科の岡先生らによる材料科学および材料工学の各分野に関する講演、工学英語およびプレゼンテーションスキルの向上に特化した英語の授業、PBLとしてのグループディスカッションおよびプレゼンテーションを含む内容のプログラムを実施した。また、タイ人との相互理解を目的としてグローバルコミュニケーションアクティビティ、お互いの文化を学ぶためのアクティビティをプログラム前半に設け、両大学の学生らのアイスブレイキングとして実施した。

プログラムのほぼ全行程は、Department of Metallurgical Materials Engineering, Faculty of Engineering, Chulalongkorn Universityの学部3年生～修士課程の学生とともに実施した。PBLなどのグループワークは、5～6名程度の少人数で行い、グローバルコミュニケーション力の向上が効果的に図れるように配慮した。



**図2 PBLと平行し英語の授業も実施**



**図3 名札はニックネームで!**



**図4 実験に挑戦**



**図5 学食でランチ**



**図6 集合写真  
画像などコンテンツの無断転載を禁じます。**



**図7 PBL実施風景**



## 派遣グローバルPBL③

実施期間		実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2020年02月27日 ～2020年03月12日		ハンガリー	オーブダ大学	・電気工学科 ・学部2年生	(芝浦工業大学) 学生6名、TA1名、教員 2名 (オーブダ大学) 学生6名、TA3名、教員 1名	吉見 卓(電気工学科)、 安村 禎明(電気工学科)


**図1 課題取り組み**

2020年2月27日(木)～3月12日(木)の15日間の日程で、ハンガリー・ブダペストObuda大学のAntal Beczy Center for Intelligent Roboticsにて、ロボットとニューラルネットワーク、機械学習等に関するgPBLを実施した。電気工学科から2年生6名、Obuda大学から6名(学部生2名と修士課程院生4名)の学生が参加した。また、全期間中、本学の大学院生のTA1名およびObuda大学の博士課程学生等3名がサポートした他、本学電気工学科の2名の教員が前半と後半に分かれて引率対応した。

現地8日間のプログラムでは、主に、研究室内で、ロボットの動作プログラミングや文字認識の課題等に取り組んだ。学部2年生の本学の学生には少し高度で難しい内容であったが、大学院生のアドバイスを受けながら、楽しんでこれらの課題を達成することができた。また、期間中にはObuda大学内の施設見学や、ブダペスト市内にあるロボット企業KUKAの訪問の他、異文化体験を目的とした市内のフィールドトリップなどが行われ、ブダペストを堪能する盛り沢山な内容であった。

参加学生は、Obuda大学の学生・院生との多くの交流を通して、相互理解を深めるとともに、有意義な時間を過ごすことができた。



**図2 ロボットアームシミュレーション**



**図3 文字認識課題**



**図4 手術ロボット操作**



**図5 大学ホテル**



**図6 ブダペストの街**



**図7 国会議事堂**

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。

## 派遣グローバルPBL④


 <b>2019年度グローバルPBL(派遣)実施報告</b>					
マレーシア サラワク大学におけるgPBL					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年08月13日 ～2019年08月24日	マレーシア	マレーシア サラワク大 学	・生命科学科 ・学部3年生、学部4年生	(芝浦工業大学) 学生28名、TA4名、教員7 名 (マレーシア サラワク大学) 学生30名、TA4名、教員7 名、職員5名	生命科学科全教員



図1 3Dプリンタ利用方法のデモンストレーション

マレーシア・サラワク大学(UNIMAS)におけるgPBL実施出張報告書:  
今年で5年目となったマレーシア・サラワク大学(UNIMAS)とのgPBLを、2019年8月上旬から2週間のスケジュールにて実施した。生命科学コースの学生達10名はUNIMAS資源科学部学生達と協力し「Food Safety(食品安全性)に関する調査実験」というテーマに対して、市場の魚、川の水質を対象として、マイクロプラスチック含有量・付着している細菌類・含有している重金属類それぞれについてフィールドワークの上、実験的に調査した。一方、生命医工学コースの学生達はUNIMAS機械系学科の学生達と協力し「ソーラーエネルギーボートの試作と性能評価実験」というテーマに対して、3DCADを用いた設計と3Dプリンタを用いた部品試作と船の組み立て、そしてその性能評価実験を通じて、モノづくりを体験した。中間発表会と最終発表会では、互いの成果発表とデータ解釈に対する熱心なディスカッションがあり、最終発表会後に優秀チームは表彰された。学生達は、英語を用いてgPBLに取り組む事ができた達成感と、マレーシアの大切な友人を得る事ができたようである。例年恒例となりつつあるが、今年も帰国タイミングお別れ時に学生達の号泣があったそうである。



図2 夕方からのスポーツ交流風景



図3 中間発表会(設計案紹介)



図4 中間発表会(デザイン等紹介)



図5 週末のアクティビティ



図6 週末のアクティビティ



図7 学生達の作品集

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。



### 2.1.3 国際インターンシッププログラム

国際インターンシップでは、海外における企業拠点（研究開発拠点、製造拠点、オフィスなど）において就業体験を行う。

本学の留学プログラム群の中においては、グローバル PBL と並び中級者～上級者向けのプログラムと位置づけており、一定以上の英語力と専門性を身につけた 2 年次以上の学生を対象に募集を行っている。夏休み中に約 2 週間～1 ヶ月で実施されるプログラムが多い。インターンシップを通じ、学生は文化や考え方の多様性を理解し、多面的な視点から物事を俯瞰する能力を養うことができる。また、海外で活躍する日本人スタッフや経営者と接することで自身のキャリアを考える機会としても有効なプログラムである。

参加者決定にあたっては学生・企業双方の満足度が高まるよう適正マッチングを重視している。

表 1 2019 年度海外インターンシップ派遣実績（企業でのインターンシップに限定）

業種	派遣先国名	派遣学生数
IT 系	ベトナム	2
	マレーシア	1
建築系	シンガポール	4
	タイ	2
	中国	1
	香港	4
	ミャンマー	1
輸送用機器系	インド	2
メーカー系	シンガポール	2
	タイ	1
	ベトナム	2
デザイン系	シンガポール	1
総計		23

## 2.1.4 交換留学

## 学生アンケート①

交換留学プログラム 帰国アンケート			
作成者情報			
・ 学部・学科	デザイン工学部 デザイン工学科		
・ 性別	女性		
・ 学年（参加開始時）	学部4年生		
プログラム基本情報			
・ 参加プログラム種別	交換留学（研究室配属型）	・ 国名・地域名	イタリア・ヴェネト州・ヴィチェンツァ
・ プログラム開始日	2020/2/8	・ プログラム終了日	2020/3/7
<p>このプログラムに参加した理由、きっかけ</p> <p>学生生活最後で、社会人になったら出来ないことをしたかった。仕事で海外に行くにしても、数ヶ月滞在することは稀であり、海外の研究室に通うことは今しか出来ないと思った。欧州先進国を自分の目で見たかった。将来的に英語を使うことになるので、勉強のモチベーションにしたかった。指導教授である清水先生に4年生の夏前に相談した所、快く受け入れてくださり、留学先大学とも海外協定を結べたから、清水研究室の後輩の研究につながりそうだったから。</p>			
留学先情報+A2:J20			
・ 国名・大学・機関・企業名	イタリア	パドヴァ大学	
<p>・ 主な履修科目もしくは研究内容</p> <p>MATLAB/Simulinkを用いたモータ制御</p>			
滞在先情報			
・ 滞在先の種類	一般住居（アパートなど）	・ 宿泊先配方法	留学先スタッフの仲介
・ 空港⇄留学先機関の交通手段	特急列車(MIL空港→ミラノ中央駅→ヴィチェンツァ駅)		
・ 通学/通勤方法	徒歩		
<p>・ 滞在先の様子 個別でキッチン(独立)、シャワー・洗面所・トイレ、ベッドルームがある部屋で、週に1度大家さんが清掃・シーツやタオルを取り替えてくれる。洗濯機のみ共用だが、家具・食器付きで自炊が自由にでき、部屋が広く非常に過ごしやすい快適な部屋である。</p>			
留学についての感想			
<p>一ヶ月が本当に短く感じられました。研究室の人たちはとても勤勉で、なおかつ短期留学生である私に対してとても親切で毎日が楽しかったです。休日である週末よりも研究室に通う平日のほうが楽しかったぐらいです。いろいろな人との関わりが研究以外の面で大きく勉強になりました。英語力は不十分な状態で行きましたが、伝えようとする気持ちが一番大事でした。ただし、日本で勉強していた英語は、会話では使い物にならず時には失礼な意味合いで伝わってしまったりと大変でした。これを受けて、TOEICのスコアも大事ではありますが、会話のフレーズを増やしたり自分の言いたいことを失礼ではない言い回しの英語で伝えるようになる必要があると強く感じました。これらはこれからの英語学習のモチベーションに繋がりました。</p>			

参加を検討している方へのアドバイス

日本で留学のための準備をすればするほど、留学先で満足した日々を送れると思います。どんな目的でも良いので、何か目的を持って参加できると滞在を無駄にしません。私は修学旅行(3泊4日の日本語が通じるグアム)以外で初めての海外で、行く前は行きたくなくなる程非常に不安でしたが、来てしまえば全く物怖じしませんでした。研究室配属型だと、研究室のメンバーと仲良くなりやすく、放課後に飲みに行ったりできるのも良いところだと思います。何よりも、学生生活を送る今しか体験できないことなので、一度だけでも参加することを強くおすすめします。長期であればあるほど、自分の目的を達成しやすいと思うので良いと思います。

写真4枚(留学/研修先、滞在先、その他参加プログラムの様子がわかるもの)

写真を4枚を貼り付け、それぞれの写真に説明分を加えて下さい。写真はそのまま掲載しますので、掲載してもよい写真を貼り付けてください。

写真①



説明文

留学先のパドヴァ大学ヴィチェンツァ校の校門

写真②



説明文

大学内カフェテリアでの昼食、  
バルメザンチーズと飲み物とオリーブオイルは好き放題  
大体これで8€

写真③



説明文

滞在先のアパート。左のドアがキッチン、右のドア  
がシャワー・トイレ・洗面所。リビングにはダブルベッ  
ドとソファ、キャビネットなど

写真④



説明文

ヴィチェンツァの中心部、シニョーリ広場にて。毎月第2日  
曜日は大規模な市場が開かれる。家具から衣服・アクセ  
サリー、CDに至るまで何でも売っている

必要な事前準備 (生活面・留学面)

・ VISA申請時に必要な書類	<input type="checkbox"/> 残高証明書	<input type="checkbox"/> 証明写真	<input type="checkbox"/> その他 ( )
・ 入居時に必要だった書類	<input type="checkbox"/> 健康診断証明書	<input checked="" type="checkbox"/> その他	パスポート
・ その他必要な事前準備	特になし		

## 留学中の費用（概算）

## &lt;支出&gt;

内訳	金額（日本円）	備考
往復航空券代+ビザ申請料	¥118,650	Eティハド航空(NRT⇄MIL, アブダビ経由)/90日以内なのでビザなし
保険料	¥19,180	AIG損害保険株式会社, 31日以上, プランA
授業料/学期	¥0	研究室滞在型のためなし
通学・通勤費用/月	¥0	徒歩通学のためなし
住居費/月	¥60,000	500€/月, 市税抜きの金額
食費/月	¥50,000	昼食は大学内カフェテリア8€/日, 朝食・夕飯は自炊
交際費/月	¥14,400	放課後に飲みに行くと平均20€/日, 週に1-2度
その他費用	¥0	特になし

## &lt;奨学金情報&gt;

奨学金名	金額
芝浦工業大学 海外留学奨学金	60,000円/月

※画像含むコンテンツの無断転載を禁じます。



## 学生アンケート②

### 交換留学プログラム 帰国アンケート

作成者情報			
・ 学部・学科	建設工学専攻		
・ 性別	女性		
・ 学年（参加開始時）	修士1年生		

プログラム基本情報			
・ 参加プログラム種別	交換留学（授業履修型）	・ 国名・地域名	フランス・パリ
・ プログラム開始日	2019年8月	・ プログラム終了日	2020年2月
・ このプログラムに参加した理由、きっかけ			
海外で専門とする建築学や設計方法を学び、視野を広げたいと思ったから。			

留学先情報		
・ 国名・大学・機関・企業名	フランス	パリ・ベルヴェイル建築大学
・ 主な履修科目もしくは研究内容		
・共同設計・都市計画や西洋建築史(座学)・フランス語		

滞在先情報			
・ 滞在先の種類	一般住居（アパートなど）	・ 宿泊先配方法	自分で探す
・ 空港⇄留学先機関の交通手段	バスまたは電車		
・ 通学／通勤方法	電車		
・ 滞在先の様子 私は、一人の時間もほしかったので、アパートに一人暮らしをしていました。16区にある16㎡くらいの部屋で家賃が500ユーロ（光熱費別）でした。パリは治安が良いわけではないので、私は安全性と駅からの近さや明るさ、閑静さを重視して決めました。また、自炊をする方も多いと思うので、スーパーの近さなども考慮するとよいと思います。			

留学についての感想
<p>留学をしたことで、きっかけにも上げたように、日本とは違う常識のもとで建築を学ぶことができたことや違う文化や手法を持った学生たちと協力し、お互いの意見や提案を理解しあい融合させることができたことはとても楽しかったです。日本においては簡単にできることではないので、学生生活の中でも有意義な時間になったと思います。また、私は都市計画が専攻なので、実際にパリに暮らし現地の人の生活や実際に進行中の都市計画を見ることができて勉強になりました。パリはヨーロッパの中心ということもあり、休暇を利用していろいろな町や建築物を訪れました。長期滞在しているからこそできた、至上の現地見学だったと思います。</p> <p>学業以外にも、自分の知らない町で暮らすことで、自分をしっかり持って流されず生活する癖やふだんあたりまえだとおもっていることが通用しない環境への臨機応変な対応が身についたことなど、人間としても成長できたのではないかと思います。</p>

参加を検討している方へのアドバイス

私も留学に行くまでは、「私なんか海外でやってけるかな」と不安に思っていました。実際に参加して後悔するようなことは全くありませんでした。今後社会人になるうえで、国際理解を持っていることは大きな武器になると思いますし、何より、学生生活で忘れられないステキな思い出になると思います。芝浦工業大学の留学プログラムは短期留学やgPBLを含め豊富だと思います。私も学部生どころ、語学力や自信が足りないと感じ短期留学などを経験しました。学生期間が自分の時間を一番自由に使い、いろんなことに挑戦できると思います。ぜひ、留学に興味があれば、経験者や国際部、学生スタッフに相談してみてください。

写真3枚(留学/研修先、滞在先、その他参加プログラムの様子がわかるもの)

写真を3枚を貼り付け、それぞれの写真に説明分を加えて下さい。写真はそのまま掲載しますので、掲載してもよい写真を貼り付けてください。

写真①



説明文

現地視察先で図面についてディスカッションをしている様子

写真②



説明文

設計で先生からアドバイスを受けている様子

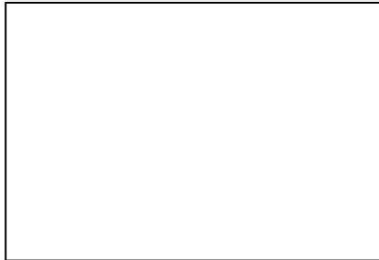
写真③



説明文

座学の授業の様子

写真④



説明文

必要な事前準備 (生活面・留学面)

- |                 |   |  |   |                              |
|-----------------|---|--|---|------------------------------|
| ・ VISA申請時に必要な書類 | <input checked="" type="checkbox"/> 残高証明書 | <input checked="" type="checkbox"/> 証明写真 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | 数枚の書類が必要。随時更新されるのでHPを見てください。 |
| ・ 入居時に必要だった書類   | <input type="checkbox"/> 健康診断証明書          | <input checked="" type="checkbox"/> その他  | VISA・教育機関の受け入れ承諾書・銀行口座など                |                              |
| ・ その他必要な事前準備    |   |  |   |                              |

## 留学中の費用（概算）

## &lt;支出&gt;

内訳	金額（日本円）	備考
往復航空券代+ビザ申請料	120.000円	航空券は早くに取ればもっと安く済みます。
保険料	約100.000円	芝浦指定のもの
授業料/学期	0円	交換留学のため
通学・通勤費用/月	10.000円	メロ代
住居費/月	70.000円	家賃+光熱費
食費/月	30.000円	
交際費/月	10.000円～20.000円	
その他費用		

## &lt;奨学金情報&gt;

奨学金名	金額
芝浦工業大学 海外留学奨学金	100.000円/月
埼玉発世界行き	200.000円

※画像含むコンテンツの無断転載を禁じます。

## 2.2 INBOUND

芝浦工業大学における外国人留学生受入は、図1の2019年度実績を見ると、学位取得を目的とする者(学部、大学院)の割合が約22%となっている。残りの約78%は非学位取得目的の外国人留学生であり、彼らは交換留学などの中期プログラムやグローバルPBL(Project Based Learning)などの短期プログラムに参加することで来日している。

2019年度の外国人留学生受入総数は通年で1,690名であり、2018年度の1,490名と比べ約13.5%増加している。その要因としては、学部での正規留学生増加に加え、交換留学を中心とした非学位取得目的の学生の受入数増加が挙げられる。

短期プログラム(グローバルPBL等)がここ数年受入数を牽引してきた側面があったが、2019年度の実績は前年度比でほぼ横ばいであった。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあったが(54名が参加キャンセルまたはプログラムの中止)、それにも関わらず前年度並みの人数となったのは、大学を挙げてグローバルPBLを推進してきたことにより、学内はもちろんカウンターパートである海外協定校においても同様にグローバルPBLの認識が広がってきていることの現われと考えられる。

交換留学等の中期プログラムの伸張がめざましいのは、上述の通りこれまで協定校との間で形作ってきたグローバルPBLを経験した留学生が交換留学に参加するなど、中長期の留学に発展するきっかけにもなっていることが一因である。また同時に、英語開講科目の増設や、定期的な協定校への情報提供が実を結んだ結果である。

2020年度も新型コロナウイルス感染症の影響は免れず、プログラムの実施に少なくない影響が出ると考えられるが、グローバルPBLの実施についてはオンラインでの実施も含め、従来にないやり方での交流プログラムの展開を図る。交換留学についてはオンライン・オフラインでの実施に関わらず、英語開講科目のラインナップを充実させ、より多くの留学生数を見込む。

次ページ以降にて、主なプログラムであるグローバルPBLの紹介と交換留学参加者からのレポートを紹介する。

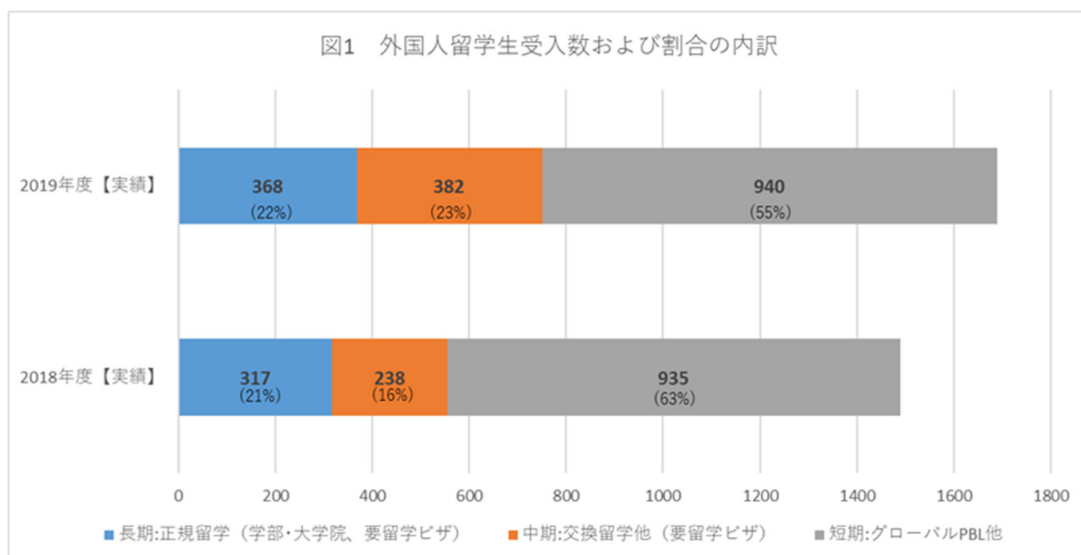


図1 外国人留学生受入数および割合の内訳



## 2.2.1 グローバル PBL(Project Based Learning)

## 受入グローバル PBL①


 <b>2019年度グローバルPBL(受入)実施報告</b>					
都市デザイン・交通・マネジメントに関する国際ワークショップ					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年09月20日 ～2019年09月28日	日本	ウィーン工科大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境システム学科、建設工学専攻、土木工学科</li> <li>修士1年生、学部3年生、学部1年生、学部4年生、修士1年生</li> </ul>	(芝浦工業大学) 学生23名、TA5名、教員3名 (ウィーン工科大学) 学生17名、教員5名	鈴木 俊(環境システム学科)、 中村 仁(環境システム学科)、 遠藤 琢(土木工学科)、 修士課程学生(建設工学専攻)、 環境システム学科学生、 土木工学科学生



図1 計画対象地の調査～大塚駅周辺

2019年9月20日～28日の9日間、ウィーン工科大学都市建築系の教員5名、学生17名(学部生及び大学院生)を芝浦工業大学にお迎えし、gPBL(Global Project Based Learning)として国際ワークショップを実施した。本学では環境システム学科、土木工学科、大学院建設工学専攻の合同プログラムとして実施し、参加した学生の総数は23名(うち最終発表を含めた過半のプログラムに参加した学生は17名)であった。また、教員は環境システム学科の鈴木が主担当としてほぼ全日程に参加し、土木工学科の遠藤、建設工学専攻の中村仁(環境システム学科)が中間発表会、最終発表会を含め部分参加した。大学院生のTAは5名が参加した。基本的に、全てのプログラムは英語を用いて実施した。

ワークショップのテーマは「都市デザイン・交通・マネジメント」であり、本学とウィーン工科大学の学生が5つの混成チームを編成し、5つの対象地域において現地調査と提案作成を行った。対象地域はA. 大宮・さいたま新都心、B. 赤羽、C. 大塚、D. 神楽坂、E. 深川である。

日程の前半は計画地の観察、調査を重点的に行い、多くの学生が自分の担当地区を含めて複数の計画地を歩き観察し、対象地の特徴分析及び計画方針の立案を行った。その時点で中間発表会を実施し、提案の方向性を確認し、その後は各チームにおいて地域分析の深度化、提案作成の作業を行った。

最終発表会では5チームがそれぞれ個性的な提案を行い、短期間にしては十分な成果が得られた。検討の過程において、学生たちはよく交流し、最終発表会後のお別れパーティーは大盛況となった。本学の学生には英語の語学力が不足している学生も少なくないが、彼らなりに努力し、よい経験を得たようである。今後の継続的な努力、積極的な国際交流への参加に期待したい。

ウィーン工科大学との交流プログラムは今年で3回目であるが、年々参加者が増え、質も向上している。双方にとって有意義なプログラムであり、今後とも交流を続けることで両校の担当教員は一致しており、来年度は本学がウィーンを訪問する方向となっている。



図2 チームに分かれて討議、計画作成



図3 中間発表会



図4 最終発表会



図5 お別れパーティー

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。

## 受入グローバルPBL②

 <b>2019年度グローバルPBL(受入)実施報告</b>					
<b>数理科学に関するSIT-ITSグローバルPBL</b>					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年11月09日 ~2019年11月16日	日本	スラバヤ工科大学	・数理科学科 ・学部2年生、学部3年生、学部4年生、学部1年生、修士1年生、修士2年生	(芝浦工業大学) 学生40名、TA4名、教員12名、職員1名 (スラバヤ工科大学) 学生15名、教員5名、職員1名	サイ 貴生(数理科学科)、竹内 慎吾(数理科学科)、福田 亜希子(数理科学科)、中津 智則(数理科学科)



図1 オープニング

2019年11月9日(土)から16日(土)までの8日間、芝浦工業大学大宮キャンパスにおいて数理科学に関するグローバルPBLを実施した。インドネシアのスラバヤ工科大学(ITS: Institut Teknologi Sepuluh Nopember)の学生15名、数理科学科の学生19名が参加した。ITSからは教員5名と職員1名が訪問し、数理科学科からは担当教員4名、TA4名に加え、数理科学科の21名の学生が本グローバルPBLの運営スタッフとして司会進行や各種アクティビティーの企画を行った。

本グローバルPBLにおいて2回のグループワークを行った。1回目のグループワークはITSの学生が将来的に短期もしくは長期で交換留学や正規の学生として本学に留学することを見据え、本学の環境や本学でできる研究テーマ等を調べて発表し情報をシェアするというものである。5つのグループに分かれ、日本人学生のサポートのもと、大宮キャンパスの環境の調査や、数理科学科の教員や留学生にインタビューなどを行った。ITS学生のそれぞれの視点で調べた「芝浦工業大学」についてプレゼンテーションを行い、知識を共有した。2回目のグループワークは数学の最適化問題に関する内容で、A4サイズの段ボールを用いて、体積が最大となるような容器を作成する、というものである。これは表面積に関する制約付きの最適化問題である。この問題は、理論的に最適な容器の形状をデザインするだけではなく、実際に段ボールを用いて容器を作成することができるかどうかも考慮しなければならず、そのバランスを考えるのが難しいところである。ITSとSIT学生の混成チームで5つのグループに分かれてそれぞれ検討を行った。それぞれのグループにおいて、問題の定式化や実際の容器の制作の工程などの詳細を議論した。16日(土)のプレゼンテーションにおいてそれぞれのグループが作成したオリジナルの容器を紹介し、そのアイデアや数学的に厳密な解析結果などを発表した。

本グローバルPBLの期間中、数理科学科の学生の運営スタッフが中心となり、日本の武道(空手)や浴衣の着付け体験、折り紙ワークショップも行った。また、東京理科大学にある数学体験館も訪問した。本プログラムを通じて、ITSとSITの学生同士の親交はかなり深まったようである。



図2 グループワーク



図3 グループワーク



図4 プレゼンテーション



図5 数学体験館



図6 浴衣体験



図7 折り紙体験

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。

## 受入グローバル PBL③

 <b>2019年度グローバルPBL(受入)実施報告</b>					
<b>モデル思考ワークショップgPBL(タイ PSU 受入)</b>					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年07月17日 ~2019年07月29日	日本	プリンスソングラ大学	・デザイン工学科 ・学部1年生、学部2年生、学部3年生	(芝浦工業大学) 学生22名、TA10名、教員3名 (プリンスソングラ大学) 学生20名、教員2名	野田 夏子(デザイン工学科)、山崎 憲一(デザイン工学科)、櫻木 新(デザイン工学科)


図1 ドラムサークル

本学デザイン工学科1~3年生、タイ Prince of Songkla University, Phuket Campusの学生が参加し、ソフトウェア開発で用いられるモデリング技術を使って、「Friend Robotを作ろう」というテーマで、ロボットの企画、ロボットを制御するソフトウェアの設計を行い、さらに実装を行うワークショップを実施した。それぞれの大学から3名ずつ計6名の学生でチームを組み、チーム毎にオリジナリティあふれるロボットの製作を行った。モデリング技術やプログラム言語について既修の学生とほとんど知識のない学生がチームを組むことになったが、それぞれの得意分野を生かして互いに教え合い、知識を補いあって、ひとつの作品を完成させることができた。参加学生は、チームでの作業を通して実践的な英語力の向上を図るとともに、モデルという別の形の言語を使って考えを表現し説明する力をつけることができたと考えられる。

また、ワークショップ開始時にはアイスブレイキングのために、学外講師によるドラムサークルを実施したが、初対面の参加者と打ち解け、よい雰囲気の中でワークショップをスタートさせるために有効であった、と好評であった。英語力、技術力、コミュニケーション能力の向上のために、総じてよい効果をもたらしたプログラムであったと考える。





図2 グループワーク:モデリング    図3 グループワーク:ロボット製作    図4 成果発表

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。



## 受入グローバルPBL④


 <b>2019年度グローバルPBL(受入)実施報告</b>					
メガシティにおける建築的緑化手法の研修					
実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年07月30日 ～2019年08月08日	日本	ラジャマンガラ工科大学 (タイ)、ラオス国立大学 (ラオス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設工学専攻、建築工学科(修士2年生、学部3年生)</li> <li>・建設学部、建築学科(学部2年生、学部3年生)</li> </ul>	(芝浦工業大学) 学生13名、TA2名、教員1名 (ラジャマンガラ工科大学) 学生6名、教員1名 (ラオス国立大学) 学生7名、教員1名	清水郁郎(建築学科)



図1 本学及び参加校の参加者一同(GINZA SIXの屋上庭園で)

ラオス国立大学建築学部とタイ国立ラジャマンガラ工科大学プラナコン校建築デザイン学部を招聘して、国際交流プログラム「メガシティにおける建築的緑化手法の研修 Greening Tokyo」を実施しました。日・タイ・ラオス混成のグループ単位で都内の緑化先進事例を数多く実見し、植生の把握、植物管理の仕方、壁面緑化方法、屋上緑化方法、街路緑化方法をサーベイしました。それらから得た知見をもとに、豊洲キャンパスの緑化を3Dでデザインするという課題にチャレンジしました。タイ、ラオスの学生のCADのスキルはレベルが高く、日本人学生にはよい刺激となりました。新たな緑化案を提案するという作業では共通言語の英語を使いながら、どの班でも積極的に自分の意見を述べ、また、相手の意見を聞き、ディスカッションする光景がみられました。



図2 日・タイ・ラオス混成のグループワーク



図3 壁面緑化サーベイ



図4 グループ内でのディスカッション

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。

## 2.2.2 交換留学

### 学生体験談①

#### Course-Taking Sandwich Program

Institut Teknologi Sepuluh Nopember (ITS),

Indonesia

Study in SIT is the best decision I've taken in my life.

I chose to join the student exchange sandwich program for 2 semesters because initially, I want to learn a lot from Japan education and urban life. It turned out that I was exposed to many experiences and opportunities to interact with various students from all over the world that have different field than mine. The mix of new perspective yet the adaptation are the most common things in SIT: trying to understand the diversity, sharing our thoughts, doing surveys and presentations together, discussing and discovering whole new ideas, and many more. By the interactive classes that concluded the students and professors to exchange the information altogether, we can develop the way we think and how we see the world in better vision.

Besides the academic life itself, the novel every-day life in SIT and Japan can be very exciting. I wake every single day; wondering what can I do for 24 hours ahead. Meeting friends? Searching for new restaurants? Visiting the heritage museum? Learning Japanese culture? All of that is possible to be experienced, here in Japan. In fact, the Tokyo Metropolitan Area is offering infinite possibilities; although we just strolling around with no destination and seeing people passing by the streets. I recommend you joining SIT study programs with a bunch of reasons that I can't mention it all. By studying here, you will not only learn your major; but also learn to appreciate the global life.



図 1



図 2



## 学生体験談②

## Research Exchange Program

Federal University of Technology – Paraná (UTFPR)

Brazil.

Because I was born in Japan and lived here until my 9 years old, I always felt a strong sensation of nostalgia and curiosity regarding to here. I heard about the exchange program from one of my best friends in UTFPR, and from that day, my biggest objective became to come to SIT and experience the Japanese student lifestyle, that I admired so much.

After being introduced to my laboratory, even though shy at the beginning, they were very receptive and slowly I became friends with all the members. We communicated in a mix of Japanese and English, and they were always willing to help me and give suggestions about my troubles in the research and daily life.

Thanks to my laboratory, the Global Learning Commons and the SIT itself, I had the opportunity to participate in many events, such as the Global PBL (other intensive program held on SIT), Ski Trip, Halloween Party and many others, and make many Japanese and international friends.

I feel like I was able to improve in this one year of exchange more than I was ever able to. Having to adapt myself to a completely different culture, in a language that is not your main one, provided me many experiences that is not only valuable in academic perspective but also in life itself.

I recommend anyone, which has the opportunity, to come to SIT. It will definitely change your perspective of life and provide you with many experiences that only Japan is able!



図 1



図 2

## 2.3 英語学習の展開

本学では、グローバルに活躍する技術者に必要な英語コミュニケーション能力を備えた人材育成のために、多彩なプログラムを設けている。入学時、プレイスメントテストや正課英語授業の定期テストの一環として TOEIC IP テストを実施し、TOEIC スコアを英語科目の成績評価に算入することなどを通じ、学生が TOEIC に積極的に向き合うことができるように取り組んでいる。2019 年度に TOEIC 対策を行った学部正課科目及び TOEIC スコアを成績評価に算入した科目は、工学部 3 科目 88 コマ、システム理工学部 7 科目 107 コマ、デザイン工学部 7 科目 30 コマ、建築学部 9 科目 47 コマ、計 234 コマとなった。

No.	学部	科目	開講コマ数		時期	単位数	単位区分
			前期	後期			
1	工学部	Listening&Speaking I	2	43	前期・後期	2	必修
2	工学部	TOEIC I	18	17	前期・後期	2	選択必修または選択
3	工学部	TOEIC II	4	4	前期・後期	2	選択必修または選択
4	工学部	学外英語検定			不定	2	選択または自由
5	システム理工学部	語学検定対策講座	1	1	前期・後期	2	選択
6	システム理工学部	English Basic Skills I	21		前期	2	選択
7	システム理工学部	English Basic Skills II		18	後期	2	選択
8	システム理工学部	English Advanced Skills I	6		前期	2	選択
9	システム理工学部	English Advanced Skills II		9	後期	2	選択
10	システム理工学部	English for Science and Technology I	26		前期	2	選択
11	システム理工学部	English for Science and Technology II		25	後期	2	選択
12	システム理工学部	学外英語検定 I			不定	2	選択
13	システム理工学部	学外英語検定 II			不定	2	選択
14	デザイン工学部	総合英語	6		前期	2	選択
15	デザイン工学部	英語表現		6	後期	2	選択
16	デザイン工学部	英語講義1	6		前期	2	選択
17	デザイン工学部	英語講義2		6	後期	2	選択
18	デザイン工学部	英語プレゼンテーション	2		前期	2	選択
19	デザイン工学部	ビジネス英語		1	後期	2	選択
20	デザイン工学部	ライティング	1	2	前期・後期	2	選択
21	デザイン工学部	英会話1			不定	2	選択
22	デザイン工学部	英会話2			不定	2	選択
23	デザイン工学部	英会話3			不定	2	選択
24	デザイン工学部	英会話4			不定	2	選択
25	建築学部	学外英語検定			不定	2	選択
26	建築学部	Listening and Speaking	8		前期	2	選択
27	建築学部	Reading and Writing		10	後期	2	選択
28	建築学部	Reading	2	2	前期・後期	2	選択
29	建築学部	Writing	2	2	前期・後期	2	選択
30	建築学部	Presentation I	3	2	前期・後期	2	選択
31	建築学部	Presentation II	1	1	前期・後期	2	選択
32	建築学部	English Communication	5	5	前期・後期	2	選択
33	建築学部	TOEIC 1	1	1	前期・後期	2	選択
34	建築学部	TOEIC 2	1	1	前期・後期	2	選択

※罫線の斜め横棒は、カリキュラム上設定無し

表 1 TOEIC 対策科目又は TOEIC スコアを成績評価に算入する科目一覧

### 2.3.1 工学部正課教育での英語力向上に対する取り組み

工学部英語科目運営会議 教授 村上嘉代子

#### (1) 目的・狙い

工学部の英語正課教育は、グローバルに活躍する技術者に必要な英語コミュニケーション能力を備えた人材育成を教育研究の目的としている。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、工学研究や実務につながる応用力をつけるために、カリキュラムが組まれている。

工学部は 9 学科から構成され、各学科の学生の専攻は多様ではあるが、グローバルな工学系人材に共通した必要な基礎的な英語力を養うことができる。そのため、基礎英語力を養う 4 技能を中心とした科目、工学の基礎的な英語表現を学ぶ科目、そして TOEIC スコアを伸ばすことを目的とした科目の 3 系統の科目があり、レベルの異なる科目も提供している。(図 1 を参照)。

#### (2) 工学部独自の取り組み内容

2019 年度より工学部全体で「単位の実質化」を目指す新カリキュラムがスタートした。工学部の英語カリキュラムは、従来の学生の選択を重視した多様な科目から構成されるカリキュラムから、グローバルなエンジニアとして活躍するために必要な英語を身につけるためのスリム化したカリキュラムへと移行した。また同時に、工学部では共通基礎教養教育を担ってきた共通学群が廃止され、各共通系教員は専門学科に所属する新体制が始まった。英語教員は、それぞれが各学群を担当することにより、基礎教育と専門学科との連携がさらに深まっている。英語必修科目は各学群・学科ごとに用意し、カスタマイズした内容を組みやすくなっている。

また、公正な評価、授業の質保証のため、統一シラバスを使用し、必修科目では定期試験の 40%と課題を統一している。また、多くの英語担当者が工学部の正課教育を担っているため、講師室に共通教材を入れた USB やフォルダーを置き、授業アイデア等を共有し、授業の質向上を図っている。

##### (2-1) 1 年次必修科目

「Reading & Writing I」「Listening & Speaking I」では、入学時プレイスメントテスト(TOEIC L&R IP)のスコアに基づき、学群・学科別・レベル別にクラス編成を行い、学生の英語レベルに応じた指導法で英語力の伸長を図っている。

1 年次年度末には TOEIC L&R IP テストを実施し、スコアを後期の必修英語科目の最終成績に算入している。

「Listening & Speaking I」では e-learning(スーパー英語)を取り入れ、学生の課外学習時間を成績に算入している。

##### (2-2) 必修科目以外の選択必修科目について

上述したように、工学部では必修科目以外は、グローバルなエンジニアとして活躍するために必要な英語を身につけるための科目が開講されている。

図 1 のカリキュラム図にあるように、必修科目で習得した基礎的な 4 技能をさらに応用させることを目的とした「Listening & Speaking II」「Reading & Writing II」、理工系で必要な基礎表現などを学ぶ「工学英語 I」「工学英語 II」、理工系の企業の採用や昇進・昇格にも使われている TOEIC のスコアを伸ばすことを目的とする「TOEIC I」「TOEIC II」、を開講している。

「Listening & Speaking II」「Reading & Writing II」「TOEIC II」は、より英語力の高い学生のための科目として開講しており、TOEIC500 点前後以上の英語力のある学生に履修を推奨している。

## (2-3) 大学が提供する短期語学研修プログラムや TOEIC L&amp;R IP 受験の推奨

学内で行われる TOEIC L&R IP の任意受験や春・夏の海外短期語学研修プログラムについて英語授業全クラスで授業担当者がチラシを配布し、アナウンスして推奨していることで、参加学生が増加している。

## (3) 英語学習サポート室の活動

月～金曜日の 4,5 時限に英語教員 1 名が大宮キャンパスに常駐し、正課授業や一般的な英語学習、TOEFL や IELTS 受験に関する相談に応じている。今年度は 2018 年度同様、必修の英語授業とリンクさせ、語彙テストを希望者に実施した。取り組みを実施していなかった 2017 年度以前と比較し、利用者が大幅に増加している。

## (4) 今後の取り組み

学生の成績分布やアンケート結果、英語担当教員からの意見などを基に、新カリキュラムを評価し、各授業内容の改善に取り組む必要がある。

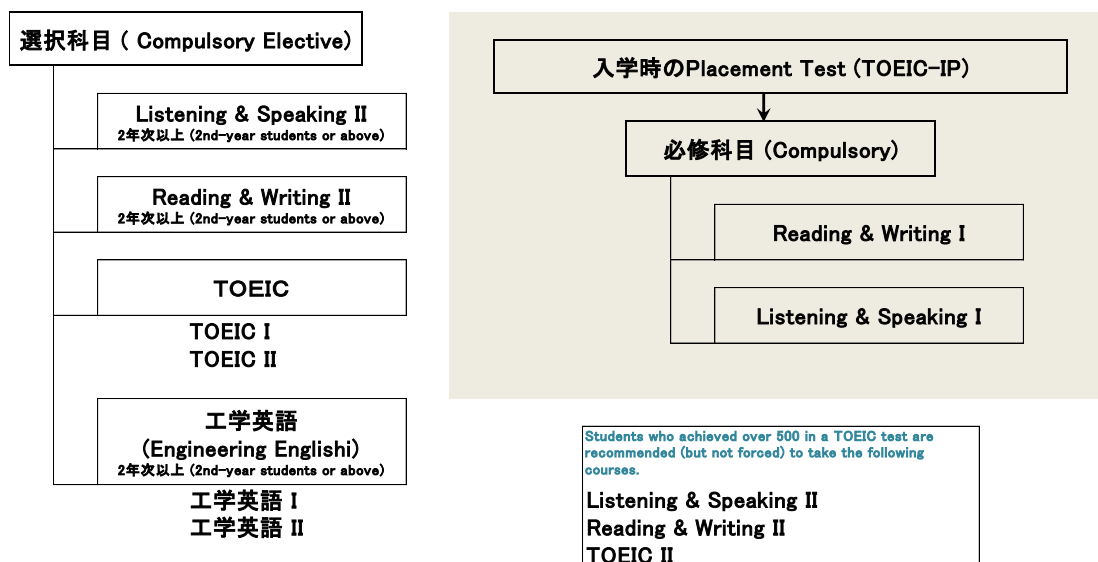


図1 工学部英語カリキュラム (2019 年度より改定)

## 2.3.2 システム理工学部正課教育での英語力向上に対する取り組み

システム理工学部機械制御システム学科 教授 吉村建二郎

## (1) 目的

グローバル化が進む中で活躍できるような実践的な英語力を学生が身につけることを教育目標として、英語科目の正課教育を行っている。特に、理工系の専門力をつけた本学部学生が卒業後に遭遇する英語が必要とされる場面を想定して、理工系の英語力を身につけることを目的としている。

理工学分野での実践的な英語力とは、理由や根拠にもとづく議論や発表ができる論理的な英語力である。また、具体的な作業や指示を正確かつ簡潔に表現できる英語力である。学部での英語教育では、社会や現場でのさまざまな場面に必要な表現力の土台となる英語力を養う。

## (2) 学部独自の取り組み内容

## (2-1) 英語カリキュラム



システム理工学部では、理工学人材としての英語力の涵養を目的とした新カリキュラムを 2015 年度よりスタートさせ 2018 年度に完成している。カリキュラムは、以下のように一般英語から理工学英語へと進むようにデザインされている。

1 年次「基礎英語力養成期」:客観的・批判的な議論ができるアカデミックな英語力を養う。英語の表現力の蓄えが豊かとは言えないという本学部学生の実体に即し、「読む・聞く」を中心とし、アカデミックな英語の表現力を蓄えることに注力する。

2 年次「理工英語力養成期」:理工系分野で必要な英語の表現力を養う。理工系英語を話す・書くことを通じて自己表現をする力をつけることに力を入れた。授業ではグループワーク・ペアワークなどのアクティブ・ラーニングを活用してコミュニケーション能力を養う。

3 年次「理工英語実践期」:プレゼンテーションなどの理工英語の実践的な力を養う。また、語学検定対策講座で就職時に有利と成るような語学検定のスコアを獲得する。

4 年次「理工専門分野英語実践期」:各研究室で専門的な理工系英語を使う。

1 年次、2 年次の英語の授業では、TOEIC 試験によるプレースメントを行い、レベル別クラス編成を行う。さらに、学期末に行われる TOEIC 試験の受験を必須とし、そのスコアを各授業の成績 20%にして組み込む。TOEIC 試験の前に、TOEIC 試験対策を行う。

## (2-2) 授業外学習の促進

授業時間外での英語学習を促すため、各英語授業で e-learning(スーパー英語)を組み込んでいる。授業で小テストを行い、学期末に進捗状況を調べ、成績に反映させる。その中に TOEIC mini テストも含め、TOEIC 試験対策を行う。

## (2-3) 英語力が芳しくない学生の支援

1 年次に TOEIC スコアが基準点に達しない英語を苦手とする学生に対しては、通常のクラスに加えてレメディアルクラスを履修することを必須とする。レメディアルクラスでは中学・高校の英文法や単語・熟語を総復習し、英語の基礎力に自信がない学生の解消を図る。レメディアルクラスは、教育イノベーションセンターの特任教員 2 名が担当した。

## (2-4) 進級時の英語力の目標の設定

4 年への進級時までには、TOEIC スコアで 470 点以上をとっていることを学部の目標としている。達成していない学生には 4 年次に e-learning(スーパー英語)を課し、英語の補習を行い、前期の TOEIC 試験の受験を義務化している。きめ細かくサポートするために、各学科から選ばれている語学ワーキンググループ教員が学生に指導する。

## (2-5) 英語学習サポート室の活動

英語学習サポート室を開室し、いつでも英語の勉強のサポートができる体制を整えている。火曜日から金曜日の昼休みから 3 時間ほど開室し、教育イノベーションセンターの特任教員 2 名のうち 1 名が曜日ごとに常駐した。正課の英語授業とリンクさせ、きめの細かい指導を行っている。担当特任教員はレメディアルクラスの授業も受け持っており、受講学生のレポートの指導などに活用している。

## (2-6) 海外語学研修の拡充

夏季休暇と春期休暇の間に開催される 2 週間または 4 週間の海外語学研修プログラムに参加した学生は、修了証が発行されるなどの条件をつけて、語学科目としての単位認定をしている。海外語学研修は、1 年生を中心に参加者が毎年増加している。

## (2-7) 専任教員の拡充

2018 年度までは専任教員 2 名、特任教員 1 名の体制であったが、2019 年度からは専任教員 3 名の体制に拡充した。このことにより、よりきめ細かい語学教育の運営が可能になった。

## (3) 今後の取り組み

2015 年度にスタートしたシステム理工学部の英語新カリキュラムは 2018 年度で 4 年目が終了し計画がすべて実行されている。その間に、TOEIC スコアでも、システム理工学部学生の英語力は飛躍的に上がっている。上がった英語力にあわせて 1 年次の英語科目の教科書のレベルを上げているが、2 年次の英語科目の教科書もレベルアップさせるなど、より高度な英語の習得が可能となるようにする。

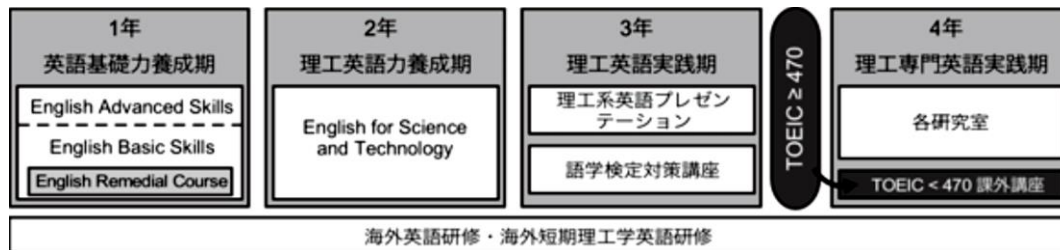


図1 システム理工学部の新カリキュラム(2015~)

## 2.3.3 デザイン工学部正課教育での英語力向上に対する取り組み

デザイン工学部デザイン工学科 准教授 櫻木新

## (1) 目的・狙い

デザイン工学部デザイン工学科では、学習・教育目標の「論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」の一環として、英語等の外国語を用いたコミュニケーション能力の育成を明記している。同学科における英語科目はすべてこの目標の達成のために開講されており、これら正課授業と連携した課外での様々な英語力育成への取り組みも同様にコミュニケーション能力の育成を第一義としている。

## (2) 学部独自の取り組み内容

## (2-1) TOEIC スコアの成績への参入と受験機会の確保

1 科目(Technical English)を除き、デザイン工学部開講の英語科目は各学期末に実施される TOEIC-IP のスコアと、宿題・小テスト・教場テスト等の授業内の評点を合計したものを最終的な成績としている。これらの科目では TOEIC-IP で達成度を測ることを念頭に、TOEIC を主題とした教科書の採用や e-learning 教材の積極的な活用を図るなど、実践的な英語力の育成に力点を置いている。また年次が進むにつれて上昇する TOEIC-IP 平均スコアに応じて教場における評点の割合を減じることで、年次ごとに学生の TOEIC-IP スコア上昇への意識付けを図っている。

1-2 年次の各期ではこれらの英語科目が履修推奨されているため、ほぼ全学生が年間 2 回以上の TOEIC-IP 受験を促される。この期末テストとしての TOEIC-IP 受験に加え、3 年次学生には年 1 回(通常は年度末)の TOEIC-IP 受験を必須化している。また、学内で行われている英会話(毎日学べる英会話)の単位認定の際にも、期間内に一定以上の TOEIC スコアの記録をすることを義務づけている。さらに TOEIC L&R の他にも、2018 年度より一部の科目で TOEIC Speaking テストの受験と評価への参入を実施している。

## (2-2) 学部国際化への取り組み

デザイン工学部では一定条件を満たしたグローバル PBL への参加による単位認定科目(グローバル PBL1-3)を設置し、学生に対して国際化への積極的な取り組みを促している。グローバル PBL1-3 では英語プレゼンテーション指導を中心とした英語カリキュラムを科目内容に取り入れ、各グローバル PBL の担当教員と英語担当教員が連携して指導に当たっ

ている。これによってグローバル PBL 参加者に対して英語でのアウトプットへの意識付けと課題の自覚を促している。

同様にデザイン工学部では海外語学研修に参加した学生に対して単位認定を行っているが、こちらは英文エッセイの提出を認定条件としている。英文エッセイの提出に当たっては、事前に英語担当専任教員が添削指導を行っており、英語での記述力の向上を図っている。

これらグローバル PBL や海外留学への意識付けのために、所属学生を対象に学部国際化の取り組みを周知するためのイベント（International Day）を 2018 年より年に 1 度開催している。2019 年度は 7 月 29 日に開催、グローバル PBL の見学、短期・長期留学の体験談や説明会、およびグローバル PBL に参加している海外学生との交流イベントを実施した。

### (2-3) 英語学習サポート室の活動

デザイン工学部では、課外の英語学習サポート室の活動を通じて、様々な課外学習の支援を行っている。1-2 年次開講の正課授業の一部で実施している小テストの成績不良者を主たる対象に、正課授業の内容を踏まえた補習への参加を促している。課題に適切に取り組んだ学生については正課授業担当者へのフィードバックを行っており、学生の参加への意識は高い。これによって、英語学習への意識の低い学生に対して日常的な学習の必要性や、学習への意識向上を図っている。

また、TOEIC スコアアップのための課外講座について学期ごとに希望者を募り、授業の形式で指導を行っている。そのほかに、海外留学の希望者に対する指導や英語学習に関する相談など、希望者を対象にした個別指導を実施している。

### 2.3.4 建築学部正課教育での英語力向上に対する取り組み

建築学部 建築学科 准教授 恒安 眞佐

#### (1) 目的・狙いー建築を学ぶ学生に必要な言語能力の育成と「考える」学習

建築学部の掲げる「専門科目と教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生む」カリキュラムの設計に応える英語教育を目指している。英語運用能力の向上に加えて建築についてディスカッションを通して「考える・調べる」要素を英語授業に取り入れている。暗記学習でテストの点数を取ればよいという学習方法に慣れてきている学生の言語学習に対する考えを変えてもらう英語教育を目指し、テキストで触れた内容を自らが疑問や興味を持って「考える」そしてそれを他の学生と共有することを授業に組み込んでいる。

#### (2) 学部独自の取り組み内容ー建築に特化した英語教材の開発と授業運営

##### (2-1) テキストの開発

設計・都市計画・環境・構造・その他に関連する 12 ユニット構成の建築系学生を対象とする英語学習テキスト、Basic English for Architecture: Listening & Speaking と Basic English for Architecture: Reading & Writing の 2 冊を開発した。Listening & Speaking では、語彙・発音・文法・会話練習・聴解練習で、Reading & Writing では語彙・読解・パラグラフライティングを通して建築分野に関連する内容を扱う中で、基礎的な英語力を育成することを目的としている。Listening & Speaking および Reading & Writing はどちらも、授業内でのディスカッション等の活動で「教えあい」や「考える・調べる」ことを組み込んでいる。2018 年度前期には Listening & Speaking テキストを、後期には Reading & Writing テキストを試用し、2019 年度より本格的に使用した。

開発にあたっては建築学部専門科目教員とのコラボレーションで、1 年生に適切な難易度の内容のテキストにすることに留意した。建築の専門的観点からはごく入門的な内容にとどまらざるを得ないが、英語教材として学習者が興味を持てる内容とすることに重点を置いて開発した。

##### (2-2) 教員による授業内容の統一

担当教員間でのばらつきをできるだけなくすように、1)全ユニットの授業用パワーポイントを作成し非常勤講師に提供、2)毎週の **Reading Assignment Sheet** を作成しシェアフォルダで L&S および R&W の全履修者に配布し授業で使用、3)非常勤講師への教材使用方法の確認、4)期末試験を複数バージョン作成して形式・難易度を統一、5)定期的に非常勤講師に状況確認を行うなどして、授業運営のマネジメントを行っている。

### (2-3) カリキュラムの整備と TOEIC Test スコアの成績への算入—英語カリキュラムのシンプル化

建築学部では英語科目は全て選択科目であり、卒業要件では外国語科目は 8 単位となっている。**Listening & Speaking** と **Reading & Writing** 科目以外は全て 2 年生以降の開講科目に変更した。それは、1 年生にはできるだけ前述のように様々な観点から建築に触れることを目的の一つとする **Listening & Speaking** および **Reading & Writing** 科目を履修してほしいからである。また、カリキュラム構成をシンプルにして、**Listening & Speaking** と **Reading & Writing** 科目以外は全て前後期で開講し、学生自身の履修計画に従って受講しやすいようにした。

1 年次:**Listening & Speaking**(前期)、**Reading & Writing**(後期)

2 年次以降:**Reading**、**Writing**、**English Communication**、**Presentation 1**、**Presentation 2**、**TOEIC 1**、**TOEIC 2** (全て前後期で開講)

### TOEIC スコアの算入

2018 年度からは、建築学部の全ての英語科目で TOEIC-IP スコアを学期末試験の一部として受験を課している。1・2 年生のほぼ全員が毎学期 TOEIC を受けることは、学生の TOEIC Test に対する認識を高め、自身のスコアを意識することにつながると考える。

### (3) 英語学習サポート室の活動

建築学部英語学習サポート室では、授業の学習に関する支援だけではなく、留学を考える学生の相談や英語によるポスター発表の練習などにも対応している。学習サポート室担当教員は本学の工学部建築学科を卒業後、米国で修士号(建築)を取得し、米国その他の海外で建設業務に従事した経験を持つ。現在は国内の大手建設企業に勤務している。

2019 年度の利用者数は、延 41 名である。昨年と同様、他学部の学生も利用しており、主に TOEIC に関しての問い合わせが多かった。建築学部では、プレゼンテーション前の最終確認やライティングの原稿に関しての質問があった。

### (4) 今後の取り組み等

#### (4-1) **Reading** 科目の教材開発

2 年次以降の開講科目の一つである **Reading** 科目に関しては、建造物あるいは建築家に関する内容の教材開発を計画したいと思っている。1 年次の L&S(前期)および R&W(後期)は建築に関連する内容のテキストが学生の学習動機を高めていることがうかがえるが、どこまで建築に特化した内容の授業を準備すべきか否かは考えなければならないところである。建築だけではなく他の工学系の内容および人文系内容に触れることも重要である。その観点から、すべての科目の教材を建築に特化したものにする必要はないと考えている。他の科目では一般的な英語教材(EGP:English for General Purposes / EAP:English for Academic Purposes)を使用する中で、**Writing** や **Presentation** 科目等では学生が建築関連のトピックを選び、書く・プレゼンテーションをするといった活動を組み込むことが望ましいと考えている。

#### (4-2) 英語科目と学習サポート室の連携

学習サポート室利用者は前年に比べて増加している。しかし、建築学部の英語科目のサポート室の利用を更に促進するためには、授業における評価に工夫が求められる。サポート室



の利用自体を授業の成績評価に組み入れることはできないが、例えば、文法の確認やプレゼンテーションの練習をサポート室で受けることが評価につながるような仕組みも必要である。単に学習サポート室の利用者数を増加するというよりも、学生の学習をサポートすることでより良い学びにつながることを重要であると考えている。

#### (4-3) 英語資格試験対策クラスの増設

建築学部では、入学時に比べて TOEIC の点数が下がってきているという現象がみられる。この対策として TOEIC クラスの増設を考えている。前述したように、一般的な英語 (EGP: English for General Purposes / EAP: English for Academic Purposes) も重要であるが、学生の方向性に見合う英語資格の対策を支援できればと考える。

#### (4-4) その他 ―学生からのコメント―

2019 年度前期(Listening & Speaking)と後期(Reading & Writing)授業において、学生との会話やリフレクションで得たコメントを記載する。「台所ひとつとっても色々な名称があると知った。今、自分の家は In-line Kitchen だが、将来、家を設計するときには L-shaped Kitchen にしたい。」「”Good to Know”のセクションで、文化の違いがわかって楽しい。今回は Bathroom に関してだったが、日本はお風呂とトイレが別々で良かったと改めて思った。」「今日は構造に関して学んだ。RC は日頃から目にしていたが、Reinforced Concrete だとは知らなかった。」これらを踏まえ、専門科目と英語科目で知識を共有できているのではと考える。

### 2.3.5 正課外英語強化プログラムと学生語学力の測定

本事業では、グローバル環境におけるコミュニケーション運用能力を測る指標として、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages : Learning, Teaching, Assessment) と英語の汎用試験としては、主に TOEIC®L&R のスコアを採用している。学生の語学レベルの目標値を卒業時 CEFR B1 (TOEIC®L&R550 相当) に設定し、その達成に向け以下で示したような正課外英語強化プログラムと学生語学力の測定に関する様々な取り組みを行っている。

#### (1) 毎日学べる英会話 【語学力強化プログラム】

- 内容：英会話レッスン
- 対象：全学生
- 学生個人負担：年間 107,800 円
- コマ数及び開講時期：年間 100 コマ（前期 50 後期 50）
- 2019 年度実績：370 名受講
- 開催場所及び受講者内訳：大宮 282 名、豊洲 88 名
- 委託先：株式会社ウエストゲイト
- CEFR 評価：有、カウントとして参入済



図 1

#### (2) プレゼン英語修得講座 【語学力強化プログラム】

- 内容：学会や国際会議向けプレゼンテーションレッスン
- 対象：学部 4 年生以上
- 学生個人負担：無料 (SGU 予算にて負担)
- コマ数及び開講時期：後期のみ 10 コマ
- 2019 年度実績：22 研究室 153 名受講
- 開催場所及び受講者内訳：大宮 56 名、豊洲 88 名、芝浦 9 名（各研究室単位で開講）



図 2

- 委託先：全研本社株式会社 リンゲージ事業本部
- CEFR 評価：有、カウントとして算入済

(3) TOEIC 対策講座 【語学力強化プログラム】

- 内容：TOEIC®L&R 対策講座（500 点コース、600 点コースの 2 コース）
- 対象：全学生
- 学生個人負担：無料（SGU 予算にて負担）、テキスト代（3,000 円＋税）のみ学生自己負担
- コマ数及び開講時期：前期 10 コマ、後期 10 コマ
- 2019 年度実績：延べ 357 名受講
- 開催場所及び受講者内訳：大宮 200 名、豊洲 133 名、芝浦 24 名
- 委託先：全研本社株式会社 リンゲージ事業本部
- CEFR 評価：有、2019 年度は未算入

(4) TOEIC® S&W 実施 【語学力測定】

- 内容：IP 試験の受験料補助
- 対象：全学生
- 学生個人負担：無料（SGU 予算で 8,115 円分/名を負担）
- 2019 年度実績：第 1 回（12/9, 12/13、計 46 名）、第 2 回（1/29, 2/1、計 20 名）
- 開催場所：赤坂テストセンター
- 委託先：国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）
- CEFR 評価：有、カウントとして算入済

(5) TOEFL Online Preparation Course (TOPC) 【語学力強化プログラム】

- 内容：TOEFL 4 技能を伸ばすためのオンラインでの自学自習
- 対象：全学生（システム理工学部国際プログラム、大学院生、留学予定者の順に受付を優先）
- 2019 年度実績：2019 年 8 月～2020 年 2 月、60 名
- 学生個人負担：無料（SGU 予算で 6,100 円/名を負担）
- 委託先：国際教育交換協議会（CIEE）
- CEFR 評価：無

(6) TOEFL ITP®実施 【語学力測定】

- 内容：TOEFL ITP®のデジタル版パイロットテストを実施（L&R2 技能）
- 対象：全学生
- 学生個人負担：無料
- 実施時期：2020 年 3 月 11 日（水）10:00～12:30、14:00～16:30（試験時間は 115 分）
- 開催場所：豊洲キャンパス PC 実習室 6
- 2019 年度実績：12 名（内教員 1 名）
- 委託先：国際教育交換協議会（CIEE）
- CEFR 評価：有、カウントとして算入済



図 3

(7) スーパー英語 【語学力強化プログラム】

- 内容：e-learning（Academic Express 3）入学前教育、正課英語の授業外学習支援、英検、TOEIC®、TOEFL®、IELTS 等の英語検定試験のスコアアップ、留学や就職支援等、4 年間を通じての学生の英語力強化を目的に活用。

- 対象：全学生、教職員
- 学生個人負担：無料（SGU 予算にて負担）
- 委託先：エル・インターフェース（教育イノベーション推進センターにより運用）
- CEFR 評価：無 \*学習レベルが CEFR に対応  
[\(https://www.supereigo.com/academic3/contents/\)](https://www.supereigo.com/academic3/contents/)

(8) その他の取り組み（学生主体の学年・学科横断型英語学習会、研究室主体の取り組み）

2016 年春に豊洲図書館で発足した、学科・学年横断型の学生主体の勉強会「TOEIC もくもく会」は、2019 年度は大宮 GLC（月・金）と豊洲 GLC（火・水・木）の 2 箇所で開催した。1・2 年生中心の大宮 GLC では、「スタディサプリ TOEIC 単語」とショートストーリーのスピードリーディング学習を。上級生中心の豊洲 GLC では、瞬間英作文とスピードリーディング学習を中心に活動している。コミュニティを作ることで、内発的動機づけに成功し、従来の「続かない・定着しない」を克服した。メンバーの TOEIC スコアは平均 150 点以上アップしている。「TOEIC もくもく会」の活動内容は単純で、研究室内での展開が容易なことから、各研究室にも伝播している。

また、工学部情報通信工学科の上岡研究室では、卒研発表を英語で行うことを目的に、研究室内の大学院留学生（マレーシア）が講師を担当し、週に 1 回研究室英語を開催した。工学部電気工学科では、プレゼン英語習得講座のフォローアップとして英語によるポスター形式の卒業研究中間発表を行っており、学生だけでなく教員自身の国際会議発表への動機付けにも繋がっている。



図 4

(9) 定期的な TOEIC IP テストの実施（年 4 回） 【語学力測定】

学生の TOEIC 受験サポートとして、学内で年 4 回 TOEIC IP テストを実施するとともに、全学生に年 1 回無料受験の機会を付与している。これに加えて、TOEIC スコアを成績評価の一部とする科目の履修者は、学期末試験として IP テストを無料受験できる。実施直後には「TOEIC IP 速報」を作成し、教学会議等で共有するとともに、その分析結果も対策資料としている（TOEIC スコアを成績の評価に算入している科目リストについては、2.3 冒頭を参照）。

(10) TOEIC®表彰 【英語学習インセンティブ】

2015 年度より TOEIC 表彰を年 3 回（大宮祭、芝浦祭、卒業式）実施している。表彰区分は、学長賞（900-990 点）、学長奨励賞（800-895 点）、優秀賞（700-795 点）、達成賞（550-695 点）の 4 種類があり、累計受賞者は 3,500 名以上ともなっている。表彰式では過去の TOEIC 表彰者で、長期留学経験者によるプレゼンテーションも含める工夫をすることで、学生の語学力だけでなく、グローバル意識の向上にも努めている。表彰の実施は大学全体の語学力調査も兼ねており、学内対策資料として活用している。



図 5

## 2.4 GTI(Global Technology Initiative)コンソーシアム

GTI コンソーシアムとは、日本と東南アジアに軸足を置いた産学官連携アライアンスであり、本学が提唱し、2015年12月に設立された。このコンソーシアムは、グローバル人材の育成とともに理工学教育の質の向上、産業競争力の強化、イノベーションの創出を目的としており、2020年3月末の加盟期間数は221である。主な活動はグローバルPBL、国際インターンシップ、国際共同研究、政府間協力プロジェクト、大学間国際連携、シンポジウムの開催である。

具体的に、本学はGTI コンソーシアム加盟機関と連携してグローバルPBLを実施している。企業が抱える課題をグローバルPBLのテーマとして設定し、日本人学生と海外学生が協力してその課題解決に取り組み、中間レビューや最終レビューでは企業による講評を受ける。これにより、プログラムがより実践的なものとなり、教育の質保証にもつながるといったメリットを享受できる。一方で、企業は、学生に自社やその事業内容を認知してもらい、優秀な人材との出会いの場となるメリットがある。特に、東南アジアに進出している日系企業では、現地のオペレーションを任せられる優秀な人材を望む声が多く、GTI コンソーシアムに対する期待も大きい。2019年度に実施した産学官連携で実施したグローバルPBLは32件であった。今後、その拡充に努めていくとともに、国際産学官共同研究への発展にもつなげていく。

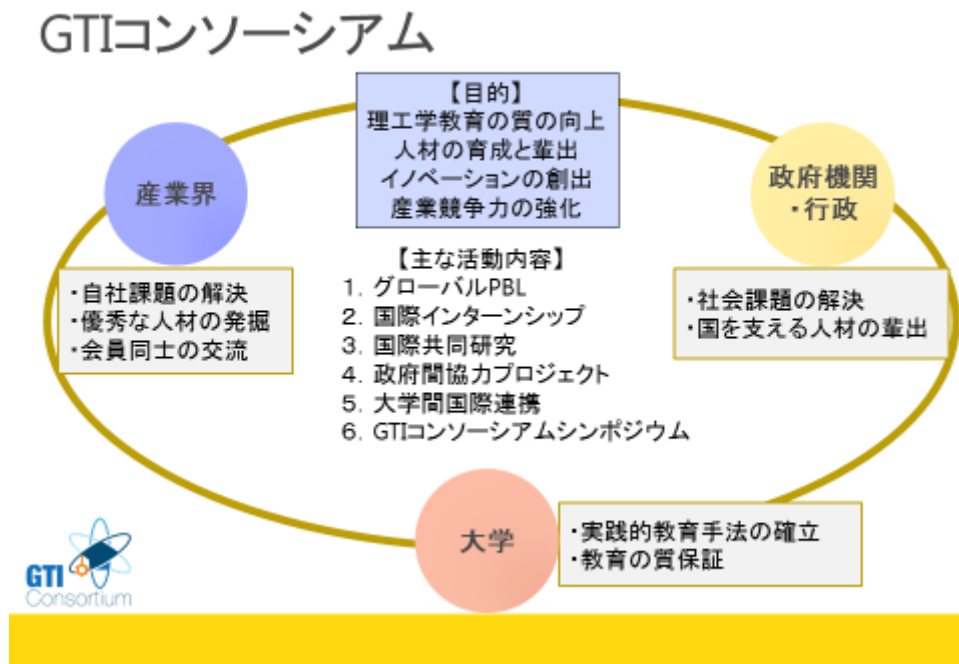


図1 GTI コンソーシアム

上述した教育モデルや仕組みを本学が連携している国内大学へ共有することで、グローバル理工学人材育成を共に行う全国的な工大連携へとつなげていくことを企図している。



## 2.4.1 活動ダイジェスト

2月～3月	グローバルPBL	
5月24日	【BOSCH特別講義】 「電動車パワートレインの開発状況」(技術や製品、戦略について)	芝浦工業大学 豊洲キャンパス
6月22日	【PIITs & GTIコンソーシアム】異文化PBL2019 「Is Artificial Intelligence Dangerous?」 インターンシップで来日中のIIT学生を中心としたインド人学生と、GTIコンソーシアムに加盟する大学の学生との交流。 IIT、インド情報技術大学、バナラス・ヒンドゥ大学、工学院大学、東京大学、東京理科大学、獨協大学、芝浦工業大学の学生とGTIコンソーシアム加盟の複数機関が参加。	芝浦工業大学 豊洲キャンパス
8月～9月	グローバルPBL、国際インターンシップ	
11月11日	【BOSCH特別講義】 「自動運転・駐車セミナー」	芝浦工業大学 大宮キャンパス
12月6日	【GTIコンソーシアムシンポジウム2019】 「産学官連携による人材育成の取り組み」をテーマに、GTIコンソーシアムの活動を紹介。280名が参加。	芝浦工業大学 芝浦キャンパス



## 2.4.2 インターンシップ体験談

受け入れ企業

## カネパッケージ株式会社

海外で働くことへの憧れを  
改めて実感

芝浦工業大学 工学部 応用化学科 3年

カネパッケージ株式会社の  
国際インターンシップ概要日程 2019年9月9日～9月20日  
実施国 ベトナム

## インターンシップ参加の動機、経緯等

## 海外で活躍できるエンジニアを目指す

海外で働くために必要なスキルと、そして世界で今求められている人材および社会貢献のイメージが明確でなかったことが、参加を決めた動機でした。

自分には2年半の留学経験があり、それを活かして将来は海外で活躍できるエンジニアを目指して就職活動を展開しようと考えています。その一方で、アルバイトという限定的な環境でも協調して働くことの難しさを感じることも多い中で、異なる文化的背景を抱えた人々と日本のハイクオリティな仕事を遂行する能力を学ぶ必要を強く感じていました。それに加え、教授の主催したグローバルPBLでカネパッケージ様の設計部の方と面識があったことや、東南アジアを中心に海外に多くの拠点を持っていることが参加の決め手となりました。

## インターンシップの感想

## ベトナム人スタッフのプロ精神に感動

2週間という限られた期間であるにも関わらず、大変多くの経験をさせていただきました。

業務については基本的にベトナム人スタッフの方々から教えていただきましたが、その中にはいつも強いプロフェッショナル精神を感じました。お客様のほとんどが日系企業であることも一因ではありますが、ベストクオリティへのこだわりが随所であふれており、仕事への熱意が隔々まで行き渡っていることに感動しました。

また、お客様へのご訪問に帯同させていただいたことも貴重な経験でした。実際に駐在されている社会人の先輩方から、他では聞けない多くの体験談やアドバイスをいただき、より一層海外で働くことへの憧れが強くなりました。

## 成果・自身の成長した点・今後の抱負等

## 途上国の発展に寄与する仕事をやりがいに

文化の違いを乗り越えて働く人々に出会えたことが、一番の成果であると思います。

駐在されている先輩方が口をそろえて「問題は多いがその分やりがいも大きい」と仰っていたことに海外で働くことへの憧れを改めて実感するとともに、残りの大学生活では自分もそのような環境に身を置いて仕事ができるよう邁進しようと決意しました。

また、ベトナム人の方々とは生活や仕事などのお話をする中で、途上国の発展に自分がどのように寄与できるかを改めて考えるようになったことも、本インターンシップで得られた成果ではないかと思っています。

### 2.4.3 GTI コンソーシアム シンポジウム 2019

#### (1) 目的

国際的な産学官の連携を強化・加速し、グローバル理工系人材の育成やイノベーションの創出を目的とする GTI コンソーシアムの構想を広く周知する。

GTI コンソーシアムの活動を振り返りその後の活動の活性化を図る。

#### (2) テーマ

産学官連携による人材育成の取り組み

#### (3) 日時

2019年12月6日（金）15:00-17:30

#### (4) 場所

芝浦工業大学 芝浦キャンパス 801/802 教室

#### (5) 参加者数

274名

#### (6) 本シンポジウムに関連して行ったイベント

12月6日（金）14:00-14:25 GTI コンソーシアム運営委員会

12月6日（金）17:45-19:00 懇親会

12月7日（土）、8日（日）グローバル人材育成教育学会

### 2.4.4 PIITs&GTI コンソーシアム異文化 PBL 実施報告

#### (1) 目的

- ・インド工科大学（IIT）学生と日本在住学生の交流
- ・PIITs<sup>※</sup>及びGTI コンソーシアムのプロモーション
- ・異なる背景を持つ人たちと上手に討議すること

※（株）Willings が事務局を務め、IIT の3年生を2か月間、日本で就業体験させるプログラムを提供。

#### (2) テーマ

Is Artificial Intelligence dangerous?

#### (3) 日時・場所

6月22日（土）11:00-16:00

芝浦工業大学豊洲キャンパス3階グローバル・ラーニング・コモンズ

#### (4) ファシリテーター

橘 雅彦教授（芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター）

Ned Loader 教授（芝浦工業大学 SIT 総合研究所）

#### (5) 審査員

小川 一氏

毎日新聞グループホールディングス 取締役コンテンツ・デジタル総合戦略担当

町田 豊明氏（株）Willings 代表取締役

ムラリダ・ミリアラ氏 芝浦工業大学 学長補佐

## (6) 参加者

54名（学生 52名、社会人 2名、男性 48名、女性 4名）

## ①学生

IIT27名、インド情報技術大学 1名、バナラス・ヒンドゥ大学 1名、工学院大学 2名、芝浦工業大学 11名、東京大学 1名、東京理科大学 8名、獨協大学 1名

## ②社会人

(株) システムイオ 1名、PwC あらた有限責任監査法人 1名

## (7) オブザーバー

20名

Coingate (株) :1名、ConnectEd U 株式会社: (株) 1名、(株) TOP ASIA:2名、(株) Willings:2名、ウェブスタッフ (株) 2名、(株) スペースデザイン:1名、(株) スポーツニッポン新聞社:1名、(一社) 外国人材・留学生支援機構:1名、芝浦工業大学:3名 (株) 新聞情報社:1名、東京大学:1名、東日印刷 (株) :2名、その他 1名

## (8) 協賛

(株) スペースデザイン・・最優秀賞としてビューロー品川食事券 5,000 円を人数分  
(株) 株式会社学研ホールディングス・・優秀賞としてオンライン英会話を日本人学生分  
(株) Willings・・昼食 85 食

## (9) 内容

インターンシップで来日中の IIT を中心としたインド人学生、GTI コンソーシアムに加盟する大学の学生を中心に「Is Artificial Intelligence dangerous?」をテーマにディベート形式にて異文化 PBL を実施した。

国籍・性別・所属大学・英語レベルを基に 5-6 人のグループを 10 作り、5 つのテーマ (SNS instant networking, shared info, Screening for hiring, promoting, Convenient consuming, IoT, navigation, Autonomous cars & other transportation, Deep learning for new discoveries) について、それぞれ Pros、Cons の立場から議論を行った。

最終発表、チームワークまたディベート時の反論内容に対してループリックを用いた審査を行い、チーム A が最優秀チームとなった。

IIT 学生は日常的に AI に近い分野を専門的に学修していることや英語でのディベート形式の議論にも慣れている中、社会人学生や日本人学生も事前に与えられた情報や当日の相手チームからの想定質問を論理的に組み上げ、活発に議論に参加している様子が伺えた。



図 1 グループワークの様子



図 2 終了後





図3 ディベートの様子



図4 集合写真

2.4.5 GTI コンソーシアム加盟機関一覧

表 1

GTIコンソーシアム加盟機関一覧		
加盟機関総数:221機関(政府・行政関係機関:9、民間機関:175、高等教育機関:37)		
2020.3.31現在		
<b>運営委員会</b>		
行政・政府関係機関		
(独)国際協力機構	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	(独)日本貿易振興機構
産業界		
(株)III	(株)フジクラ	三菱電機(株)
(株)NTTデータ	ポッシュ(株)	
東京東信用金庫	(株)三井住友銀行	
トヨタ自動車(株)	三井住友建設(株)	
高等教育機関		
工学部大学	東京電機大学	福岡工業大学
芝浦工業大学	東京都市大学	
<b>アドバイザーメンバー</b>		
高等教育機関		
ハノイ理科大学	キングモンクット工科大学トンブリ校	泰日工業大学
ホーチミン市工科大学	マレーシア日本国際工科院	ガジャマダ大学
パンドン工科大学	スラナリー工科大学	マレーシア工科大学
<b>一般会員</b>		
行政・政府関係機関		
(一財)海外産業人材育成協会	埼玉県	(一社)首都圏産業活性化協会
(公財)川崎市産業振興財団	(地独)東京都立産業技術研究センター	港区産業・地域振興支援部国際化・文化芸術担当
産業界		
AAM International Holdings Inc.	(一社)国際人育成支援協会	日本航空(株)
SuperOx Japan LLC	小島袋輪工業(株)	(一社)日本国際化推進協会
Manufacture Overhaul Rapid and Optimal Co.,Ltd.	(株)コステム	(一財)日本情報経済社会推進協会
Apple Japan	コスモリサーチ(株)	(一社)日本船用工業会
COPRONA(株)	(株)サーマス(千葉大学発ベンチャー)	日本ビストン(株)
(株)アートランド	(一社)さいしんコラボ産学官	日本ベース(株)
アイシン精機(株)	(株)サイサン	日本ユニシス・エクセリュージョンズ(株)
(株)アルティ	埼玉職信用金庫	(社)日本ワーキングホリデー協会
E-Nex(株)	(株)Sun Asterisk	(株)乳糖製菓
(株)アイバック	(株)栄精機製作所	(株)ネクステージホームステイインジャパン
あおみ建設(株)	(株)三技	(株)ネットラーニング
(株)アキュエル・コーポレーション	三信建設工業(株)	(株)乃科工業社
(一社)アクトピア・ラーニング協会	三報社印刷(株)	(株)長谷川機械製作所
朝日新聞社メディアラボ	三裕製菓(株)	(株)ハセツバー技研
(特非)アジア高等教育支援機構	サンワテクノス(株)	(株)浜野製作所
アトーテック(株)	芝信用金庫	浜松信用金庫
アドバンス・ソフトマテリアルズ(株)	島村金属工業(株)	(株)パチルテクノ・コーポレーション
(株)アロー・コーポレーション	情報セキュリティ(株)	ハレイキャンパスジャパン
道路マテリア(株)	(有)シルヴァーウィング	(有)ヒューマンリンク
アテナ技研(株)	(株)進言	(一社)PMI日本支部
石川金網(株)	(株)JTB・コーポレートセールス	ファースト電子開発(株)
(株)石川工場	GEヘルスケア・ジャパン(株)	ブレインストームワールドワイド(株)
伊藤忠マシテクノス(株)	住友建機株式会社	ブーラック(有)
インターナショナルマネジメント教育&コンサルティング	住友重機建機クレーン(株)	(株)フコク
(有)ウイズ	住友林業(株)	(株)ブロードバンドタワー
(株)Willings	セイコーホールディングス(株)	(株)バルニクス
(株)エイ・エス・エイ・ピー	西武信用金庫	ポーライト(株)
ABK学館日本語学校	(株)ゼオシステム	(株)松田電機工業所
SHコンサルティング(株)	(株)パジエ	松山油脂(株)
SOSK(株)	タイ セムコン	マニシス情報サービス(株)
(株)エクスル	太平洋セメント(株)	マレリ(株)
(株)エスティートーニチ	太平洋セメント(株)	三井住友ファイナンス&リース
NEOマネジメントパートナー(株)	(株)高見沢サイバネティクス	三島光産(株)
(株)エヌエスセミコン	(株)タニタ	(株)三菱ケミカルホールディングス
(株)エノモト	中芥テクノス(株)	三菱東京UFJ銀行
エムアンドケー(株)	(株)Teman	三菱ふそうトラック・バス(株)
(特非)M2M研究会	(株)デンソー	(株)メトロー
達磨工業(株)	(株)トウ・フリティー	森村商事(株)
織プラットフォーム(株)	東亜道路工業(株)	(株)茂呂製作所
大森機械工業(株)	東京産学交流会(サザンクロス)	(株)安川電機
岡本車輛(株)	(株)東京チタニウム	大和電機工業(株)
荻野工業(株)	東京電力(株)	(株)山之内製作所
(株)オリジネーター	東亮(株)	ユニクラフトナグラ(株)
(株)オムテック	東日印刷(株)	横河電機(株)
(株)華光	東洋工学(株)	ライノジャパン(株)
鹿島建設(株)	東洋電子工業(株)	(有)ラウンドテーブルコム
(株)金子製作所	(株)ドコモ・バイシユア	(株)リアセック
カネパッケージ(株)	(株)トプシステムズ	LDXL
(株)きもと	ナブチン(株)	(株)Link-up
キャノン(株)	(一社)日・タイ経済協力協会	リングアンドリンク(株)
(株)キャメル鉛筆製作所	ニッカ電測(株)	(株)ルミナス
共進エンジニアリング(株)	(株)日刊工業新聞社	(株)レオパレス21
共和レザー(株)	日昭電器(株)	(有)ローバック
(株)クレスコ	日東化工機(株)	(株)YSパートナー
(株)コウエール	(一社)日本オープンオンライン教育推進協議会	
(株)興電舎	日本カーゼン(株)	
高等教育機関		
Department of Metallurgical Engineering, Faculty of Engineering, Chulalongkorn University	University of San Jose-Recoletos	中央大学理工学部
Faculty of Electronic and Telecommunication Engineering, Danang University of Science and Technology	University of Brawijaya	中京大学
FPT University	愛知工業大学	津田塾大学
Hanyang University College of Engineering Sciences	愛媛大学	東京女子大学
Institut Teknologi Sepuluh Nopember	岡山理科大学	東京理科大学
Institute of Engineering and Technology, Mongolia	香川大学	東北工業大学
Science and Technology Park Chiang Mai University	サレジオ工業高等専門学校	和歌山大学
	東洋大学大学院理工学研究科	
	千葉工業大学	

## 2.5 その他特徴的な取組み

### 2.5.1 国際プログラムの展開

芝浦工業大学では、平成 29 (2017) 年度に学士課程 (システム理工学部) と修士課程 (大学院理工学専攻) にそれぞれ国際プログラム (Global Program) を開設した。ここでは、その取組みを紹介する。

#### 【学部】

平成 29 (2017) 年度システム理工学部の電子情報システム学科、機械制御システム学科、生命科学科の 3 学科の中のコースとして、国際プログラムをスタートさせた。

本プログラムでは、卒業に必要な総単位数の 1/4 以上の科目を英語で履修することや、3 年次の半期以上の留学の必修化などを行っている。さらに、4 年次には英語で研究指導を行い、学生は論文執筆および発表を全て英語で完成させることが要求される。また、1 年次から専門科目の英語講義を配置している点もこのコースの特徴となっている。初年次から海外に対する意識および高い英語力の醸成を図り、海外経験や英語による専門分野の高度な知識を備えることで、国際社会で通用する実践力を身に着けたグローバル理工系人材の育成を図ることを目的としている。

上記 3 学科に加え、令和元 (2019) 年度には新たに環境システム学科、数理科学科の 2 学科が加わり、システム理工学部全学科において国際プログラムが開設された。

令和元 (2019) 年度には、一期生 12 名が 3 年次での留学を終えた。志願者については、年度によっては各学科の 1 割を上限としている定員以上の応募があることもあり人気のプログラムとなっている。運営については、システム理工学部内で月に一回開催される教育研究体制検討委員会で議論が行われ、学科を超えた運営が行われている。

### 【大学院】

平成 29（2017）年度に、大学院理工学研究科において国際理工学専攻を設置した。

国際理工学専攻の教育目標は、高度な専門知識及び高度な教養を備え、さらにメタナショナル能力を備えた理工学人材を育成することとしている。具体的には、地球規模課題の解決に他国の技術者・研究者と協働して参画するために、以下の 4 つの能力を身に付けさせることとしている。

- ① 異文化を理解し、国際的な環境下で相互理解し、コミュニケーションできる能力
- ② 問題を発見し、解決できる能力
- ③ 自国の利点をよく理解し、グローバルな視点で行動できる能力
- ④ 技術開発の社会的、経済的価値を理解し、創造できる能力

本専攻は、日本人学生・外国籍学生の双方を対象とし、語学を除く授業および研究指導は全て英語で行なうこととしている。日本人学生には 3 ヶ月以上の海外に留学、外国籍学生は日本国内におけるインターンシップを課している。前述の国際プログラムから進学する学生も多く海外志向の学生にひとり魅力的な専攻となっている。

#### 2.5.2 先進国際課程(学部英語学位プログラム)

芝浦工業大学では、学部教育をすべて英語で提供する課程を全学部に展開することを念頭に、2020 年10月より工学部にて先進国際課程を開設する。本課程では、「国際化が進む社会において、リーダーシップを発揮し、複雑化する理工学の問題を解決できる人材」の育成を目指すこととし、以下の能力を身につけ卒業要件を満たしたものに学位を授与する。

- ① 理工学の分野において幅広い知識と俯瞰的視野をもって判断できる能力（俯瞰的視野）
- ② 国際社会における多様性を理解、尊重し、受容して、協調・協力できる能力（ダイバーシティ）
- ③ 社会に貢献する技術者としての倫理観に基づき判断・実践できる能力（倫理観）
- ④ 問題解決のためにリーダーとしてチームを率いることのできる能力（リーダーシップ）
- ⑤ 持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決できる能力（社会貢献）

先進国際課程では、グローバル化した社会を意識し、すべての科目を英語で提供する。そして、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修・教育目標を達成するため、機械工学、機械機能工学、材料工学、応用化学、電気工学、電子工学、情報通信工学、情報工学、土木工学にまたがる工学分野において、次の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を行い、学修成果を評価する。

- ① 研究を実践する科目では、入学時から主担当の指導教員（supervisor）を置き、学生はその教員の研究室に1年次から所属し、教員ならびに大学院生の指導を受けながら、最先端の研究に従事できる機会を与える。また、他分野を専門とする副指導教員（advisor）も数人配して、学生は学習・研究についてのアドバイスを受けられる。このような環境のもと、研究活動を通じて、社会の諸問題を解決できる能力を身につける。
- ② セミナーにおいては、様々な国の出身者がいる課程所属教員の前で研究室実習の内容について英語でプレゼンテーションと質疑応答を行い、アドバイスを受けることを通じて、国際性と多様性の醸成を図る。

学年別では、

- ③ 1年次には、与えられた研究課題に対して、高学年の学部学生や大学院生の指導を受けながら、課題解決のための具体的な手法を学ぶ。



- ④ 2年次には、異なる研究分野の研究室を、lab rotationのかたちで、1研究室において2ヶ月程度の長さで学習・研究に従事する体験を通じて、分野毎に特色のある課題解決の方法論を学びながら、幅広い知識と俯瞰的な視野を身につける。
- ⑤ 3年次には、卒業論文研究を実施する研究室ならびに指導教員を決定し、大学院生とともに先端研究に従事し、研究分野の概要を把握したうえで、自らの研究テーマを設定し、主導的に研究を進める。これを通じて、自身の倫理観に基づいて判断・実践できる能力を育む。
- ⑥ 4年次においては、自らの研究を進めるためにチームを形成し、研究室の低学年の学部学生とともに研究を完遂するとともに、その成果を社会に発信する。これを通して、リーダーシップについて学ぶとともに、それを実践する。

以上の国際先進工学研究を補完するために、

- ⑦ 1年次から2年次にかけて、工学部教員の先進的研究をオムニバスで紹介する先進工学研究概論を履修し、様々な先進的研究の概要を学ぶことで工学に対する興味を喚起する。
- ⑧ 研究実施に必要な数理基礎・情報科目を、主に1年次から2年次にかけて履修する。また、研究の参考になるより高度な専門科目を、2年次から3年次を中心に履修し、幅広い知識を獲得する。
- ⑨ 低学年から高学年にむけて、人文社会科目を中心とする教養科目の履修を増やしていくことで、自らの研究の社会的意義を確認するとともに、社会の諸問題に挑戦する意欲を引き出す。

そして学部教育と大学院教育（国際理工学専攻）をシームレスに接続するために、

- ⑩ 大学院進学を目指す学生においては、4年次から大学院の高度な専門科目を学ぶこと（先取り授業）ができる。また、4年後期からは、M1前期での海外留学に向けた準備をする。

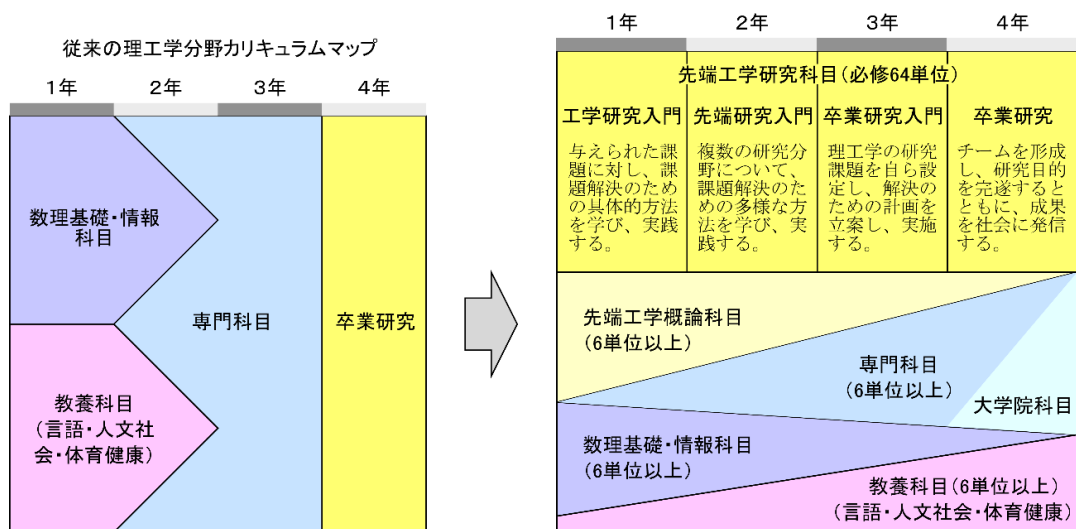


図1 カリキュラムマップ概要 - 従来の理工学分野との比較 -

本課程で対象となる学生は、国内のインターナショナル・ハイスクールおよび国外の高校生、先進的な国際教育を実施している国内の高校からの学生である。さらに、国内外を問わず、本学の夏季ハイスクール・インターンシップに参加経験のある高校生で、本学の指導教員の推薦があった学生も募集対象としている。

2020年度の募集については2019年12月～2020年1月、同3月～5月の2回に分けて募集および選考を行った。

### 2.5.3 外国籍教員の戦略的採用

大学のグローバル化推進に伴い「外国人教員等（海外での高等教育修了者や一定期間以上の海外勤務経験者等を含む）」の数は、2019年度には120名に達した。

また、英語のみで卒業できる学士課程「先進国際課程(Innovative Global Program)」の2020年10月設置に向け、外国籍教員の従来の教員人員枠にとらわれない戦略的採用を実施しており、2019年度の在籍者数は37名となった。

表1 外国籍教員数（国籍別）

	国籍	2016	2017	2018	2019
アジア	インド	1	1	3	3
	インドネシア	1	1	1	1
	タイ	3	3	5	6
	ベトナム	1	1	1	3
	マレーシア	2	2	4	5
	大韓民国	2	2	1	2
	中国	2	2	2	3
オセアニア	ニュージーランド			1	1
欧州	イギリス				1
	イタリア			1	2
	ウクライナ			1	1
	ドイツ	1			2
	フランス			2	2
	ポーランド	1	1	1	2
	ルーマニア			1	1
北米	アメリカ			1	2
	カナダ		1		
総計		14	14	25	37

#### 2.5.4 グローバル・ラーニング・コモンズ(GLC)の活用

学生のグローバル意識醸成の環境作りの一環として、多言語・多文化環境を提供する施設であるグローバル・ラーニング・コモンズ（以下 GLC）を、2016年4月に大宮キャンパス、2017年4月に豊洲キャンパスに設置した。

各 GLC では常駐の大学職員に加え留学生と日本人学生が学生スタッフとして常駐し、学生サポートや GLC の運用、イベント実施を行っている。豊洲キャンパスの GLC では日本人学生と留学生のスタッフがペアで働いており、多方面のニーズに応えることができる。また日本人学生と留学生と一緒に働くことで価値観の相違を体験し、意見を出し合いながら仕事もでき、スタッフ自身のグローバル意識向上につながっている。大宮キャンパスの GLC は、同キャンパスに国際部がないことから、国際部としての機能も備えており、常駐の大学職員が留学プログラムの説明会やオリエンテーションなどを行っている。通常1名の学生スタッフが常駐している（夜間のみ2名体制）。また、大宮キャンパスは1,2年生も多く在籍することから、研究室などの居場所がない学生の自習室や談話室としての機能も果たしており、そのため利用時間も20時までと遅い時間に設定されている。

施設内では学生同士の交流に加え、留学プログラムの相談や留学生に対する学習・生活上のサポート、留学生による英語学習サポートなど相互学習を促進している。また、七夕やハロウィン、書道ワークショップなどの文化体験イベントを多く実施することで、学生の利用促進および学生同士の交流の場を提供している。

##### (1) 留学経験者（主に日本人学生）による留学体験ポスターの制作（図1参照）

- －留学生による日本留学体験ポスターの制作（図2参照）
- －SNS(Facebook, Instagram)による情報発信（図3参照）

GLC 内での日常的な活動を発信することで利用しやすい環境作りを目指す

- －SNS を活用した留学生サポートコミュニティの構築（図4参照）
- －書籍や学習教材ゲームの貸し出し
- －文化体験ワークショップ

主に留学生向けに、書道ワークショップや浴衣着付け体験などを実施

##### －イベント

日本人学生と留学生の交流の場として、七夕、茶道、ハロウィン、ゲームデー、DVD鑑賞会、フォトコンテスト、Book Club などのイベントを開催（図5参照）

##### －外部講師によるセミナー

国際経験豊かな社会人を講師にセミナーを実施し、本学学生の学びの場を提供

##### －学生サポート

来日学生のオリエンテーションのサポート(PCセッティングなど)、語学学習のサポート（会話の練習等）

### 長期交換留学 スウェーデン王立工科大学

デザイン工学科



**スウェーデン王立工科大学**  
スウェーデンの首都ストックホルムにある理工系総合大学です。大学の総称はKTH。交換留学生の数は毎年1000名を超え、日本人学生も多く在籍しています。

**授業形式**  
1年間が4つのピリオドに分割されています。1ピリオドで基本的に2つの授業を取ります。ディスカッション形式の授業が多く、自発的に考え、発表することが求められます。

**言語**  
公用語はスウェーデン語ですが、大学院の授業はすべて英語です。またほとんどのスウェーデン人は英語を流暢に話せるため、コミュニケーションがとりやすいです。

**費用**  
家賃は8万円、食費やその他は月に5万円ほどかかります。交換留学のための授業料が無料であること、またIASGOから月に30万円の給付があったため、実質一年間で60万円ほどでした。

**文化**  
スウェーデンにはフィカというコーヒーを飲みながら、おしゃべりを楽しむ文化があります。そのため市街にはたくさんのカフェがあります。

### グローバルPBL (タイ KMUTT・KU)

**グローバルPBL内容**  
土木工学科で、地盤工学研究室の稲積先生が開催されたもので、参加学生は土木工学科だけです。入学に関して、学年問わず参加できます。派遣に関しては、2年生以上という規定がありました。が、今後に規定が変わるかもしれません。  
PBLはそれぞれ10日間で行われ、その間に現場見学や先生方から英語で地盤に関する講義を受けます。最終的には、与えられた地盤に関するテーマをグループごとに英語でプレゼンを行います。これらの内容は、受入・派遣それぞれ両方で行われます。

工学部土木工学科3年

皆さん、こんにちは！  
私はグローバルPBLでタイの大学である、KMUTTで受入・派遣、KUで受入・派遣の合計4回参加しました。  
6回スタッフとして6回にわたるので、個人的な質問も大歓迎です。

**英語能力**  
635点 環境

TOEIC 環境

**PBL経験**

KMUTT 受入	2年生夏休み	2018年8月
KU 派遣	2年生夏休み	2018年8月
KU 受入	2年生夏休み	2019年2月
KMUTT 派遣	2年生夏休み	2019年2月

**費用について**

**受入 (3万円程度)**

- 交通費 (1~2万)
- 飲食代 (1.5万)

**派遣 (12万円程度)**

- 参加費 (14万)
- おこずかい (3~5万)
- 奨学金 (7万)

受入と比べると、やはり派遣は少し高額になってしまいます。しかし派遣では、学校から奨学金が支給されます。これは国によって金額が変わるため、他のグローバルPBLの派遣に参加する場合は、確認が必要です。  
(\*参加費の中に、現地でのホテル代などの滞在費や飛行機代が含まれています。)

**感想**  
授業後の休日には、タイの学生たちと毎日出かけていました。これによって観光したり、タイの友達を作ったりすることができました。PBLは語学研修と違い、英語を学ぶに行くのではなく、英語を使って専門知識を深めるものなので、少し難易度は高いですが専門知識と英語の両方の力を身につけることができると思います。また、受入・派遣の両方に参加して、それぞれを比較した際によって理解や問題が全く違うことを実感しました。この経験で、さらに海外で仕事をしてみたいと思う様になりました。

図1 学生スタッフによる留学体験ポスター

### Who am I?

I am from Nigeria. I am a 1<sup>st</sup> year Ph.D candidate in SIT. My research is Wireless Communication Networks. My hobbies are playing Scrabble and cooking.

**Why Japan?**  
There was a popular TV advertisement in Nigeria when I was young. The catch phrase was in Japanese 良い品よい考え (Good thinking, good product). So, it was a dream for me to visit Japan. I was very glad when I had the opportunity to come to Japan for a Masters degree through the African Business Education Initiative.

**My life in Japan**  
Mostly, I spend most of my time in the lab doing my research. I like to play English Scrabble, it really helps to improve English vocabulary. Also, I like talking about the rich culture of Africa.

### Who Am I?

I'm from Brazil and I have 21 years old. My major is in Civil Engineering, and I love music, Netflix and having a great time with my friends.

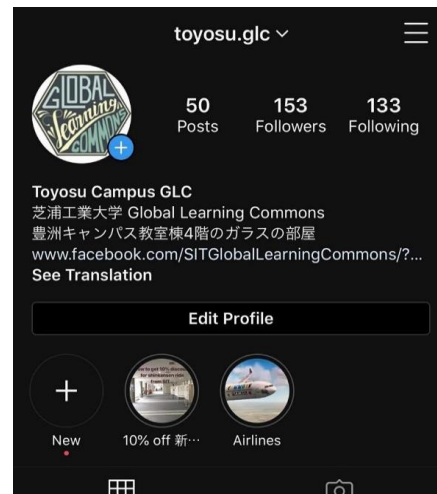
**Why Japan?**  
Since I started college in Brazil, I've always wanted to study abroad but never had the opportunity. When I found out about SIT I was so excited to come to Japan. My great grandparents were from Okinawa Island, so to study in the same country as theirs is an honor. Furthermore, SIT is one of the Top Global Universities, and that is a great platform for my civil engineering studies.

**My Life In Japan**  
I'm loving this experience, meeting new people, getting to know so many different places and different cultures. I've been to Hokkaido, Okinawa, Karasai area and, of course, Tokyo and its surroundings. In SIT I've been taking some civil engineering classes, and it's awesome to see, for example, building structures prepared for earthquakes, because we don't have anything like that in Brazil. Also about the urban transportation, I've studied about the Japanese train system here in Sribaura and amaze me how many lines are in Tokyo and still it always works. This is one of my interests, to study more about urban planning, and there is no better place to do it than Tokyo! Besides all the traveling and studying, I am also working at Hard Rock Cafe Tokyo and it is incredible to work in a Japanese environment.

**My Future**  
In my near future I just want to get back to Brazil and hug my dog Stella 🐶 but my future plans are to graduate in Civil Engineering, and do a masters degree about Urban Planning somewhere out of Brazil, maybe in Japan who knows. Because in my city the public transport, streets and traffic are so unorganized, that's why I want to study that and help the development of São Paulo. I will always be forever grateful for this experience and to everyone involved!

図2 留学生スタッフによる日本留学体験ポスター





<https://www.facebook.com/SITGlobalLearningCommons/>

<https://www.instagram.com/toyosu.glc/>

<https://www.instagram.com/omiyaglc/>

図 3 GLC 運営の Facebook と Instagram

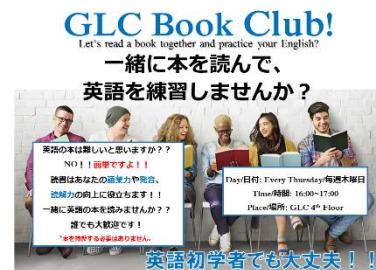


図 5 日本人学生と留学生の交流イベント

## (2) 学生スタッフ

GLC の最大の特徴は主に日本人の留学経験者や留学生が学生スタッフとなっていることで、本学学生や大学のグローバル化促進、学生同士のピアサポートの場となっている。学生スタッフは大学の理念などを理解した上で GLC から発信できること、必要な仕事を、国際部を始め関連部署と連携しながら主体的に行うことが期待されている。

学生スタッフは学業に支障が無いよう、通常週 1 回数時間程度働いている。定期的に行われるスタッフミーティングでは、業務の確認や情報共有の他、普段交流の少ないスタッフ同士の顔合わせの場となっている。

文化的背景や価値観の異なる学生同士と一緒に働くことで、学生スタッフ自身のグローバル意識を向上させることができ、また培った意識が学内や周りの学生にとって良い刺激となることが望まれる。

## (3) SNS の活用

Facebook や Instagram などの SNS を通じた活動紹介や情報発信に加え、主に渡日前後の留学生のサポートを目的に、2017 年より「SIT Student Support Community」(以下 Community) というページを GLC の Facebook 内に立ち上げた。

GLC の学生スタッフがページの管理者となり、本学学生や卒業生、本学入学予定の留学生が Community のメンバーとなっており、日本の生活についての質問に対しては、経験者である留学生や卒業留学生が自身の体験をもとにアドバイスするなど、学生同士の意見交換の場となっている。

学生にとっては、同じ立場の学生から経験に基づいた適切なアドバイスや有益な情報を得ることができ、また卒業留学生にとっては自身の経験を活かすことができ、かつ卒業後も大学とつながることができるなど良い循環を生み出している。

また、本学の国際部にとっては、日々の生活に関する細かな質問を Community に任せすることで、業務を簡略化することができ、増える留学生の対応を適切に行うことができるなど、このページの担う役割は大きい。

主な相談内容：

- －5ヶ月しか日本に滞在しないので宿舎探しが難しい。どんなところにすむのが良いかアドバイスが欲しい。
- －まだ CoE が届かないのでチケットを購入していかかわからない。
- －口座はどの銀行で開くのが良いのか。その開き方。
- －帰国するので乗っていた自転車が必要。引き取り手募集。



<https://www.facebook.com/groups/SITStudentSupportCommunity/>

図 4 SNS 上の学生サポートコミュニティー

(4) 今後の課題

来日後のオリエンテーションや、日常のサポートを GLC スタッフが行うことで留学生への認知度は高まり利用は進んでいる。ただし、日本人学生の利用があまり進んでいない現状がある。英会話レッスン受講者など、語学に関心の強い学生であっても利用には躊躇している様子。日本人学生への認知度向上や利用促進を目指していくために、学生スタッフと問題意識を共有し、その友人などに輪を広げながら積極的に利用を勧めていくことが不可欠である。また、SNS に限らずオンラインでの活動を増やすことで、キャンパスにとらわれず様々な学生同士の結び付きが増えることを促進していきたい。

### 2.5.5 グローバル・ビジョン・ワークショップ

本学では、2013年度より新入生を対象にグローバル・ビジョン・ワークショップを開催している。2019年度も、教職学協働のイベントとして、4月3日(水)に大宮キャンパスおよび豊洲キャンパスで実施した。新入生が各会場に分かれ、教員や先輩学生、留学生の話を聞き、将来のビジョンと、在学時に起こすべきアクションを考え、伝え合い、励ましあうワークを行った。各会場はかなり盛り上がり、成功裏に終了した。

ワークショップ終了後に Web アンケートを実施した。回答数は新入生の 64%にあたる 1259 件であった。

#### 【2019年度アンケート結果】

Q1. あなたの学科を教えてください。(結果省略)

Q2. グローバル・ビジョン・ワークショップに参加してどんな感想を持ちましたか。(選択回答)

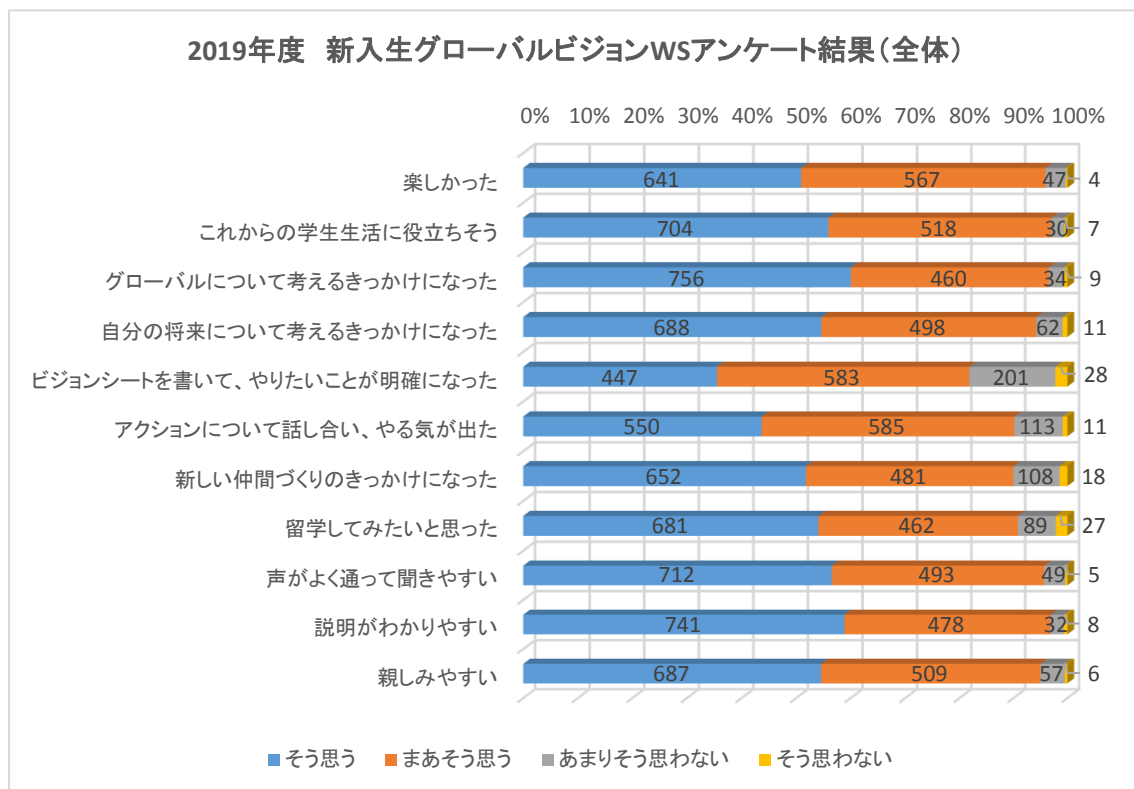


図1 Q2 アンケート結果



Q3. ワークショップで新しく学んだり、気づいたりしたことはありますか。

(記述回答／件数)

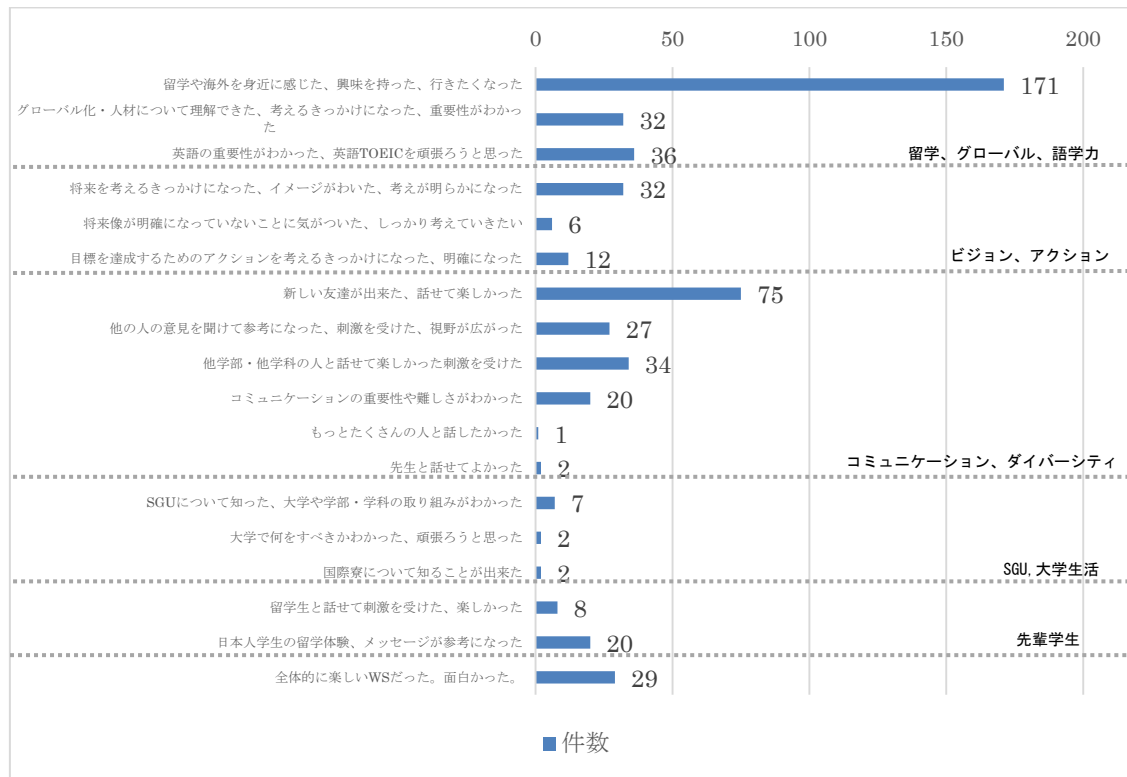


図2 Q3 アンケート結果

Q4. ワークショップをより良いものにするには何を変えればよいと思いますか。

(記述回答／件数)

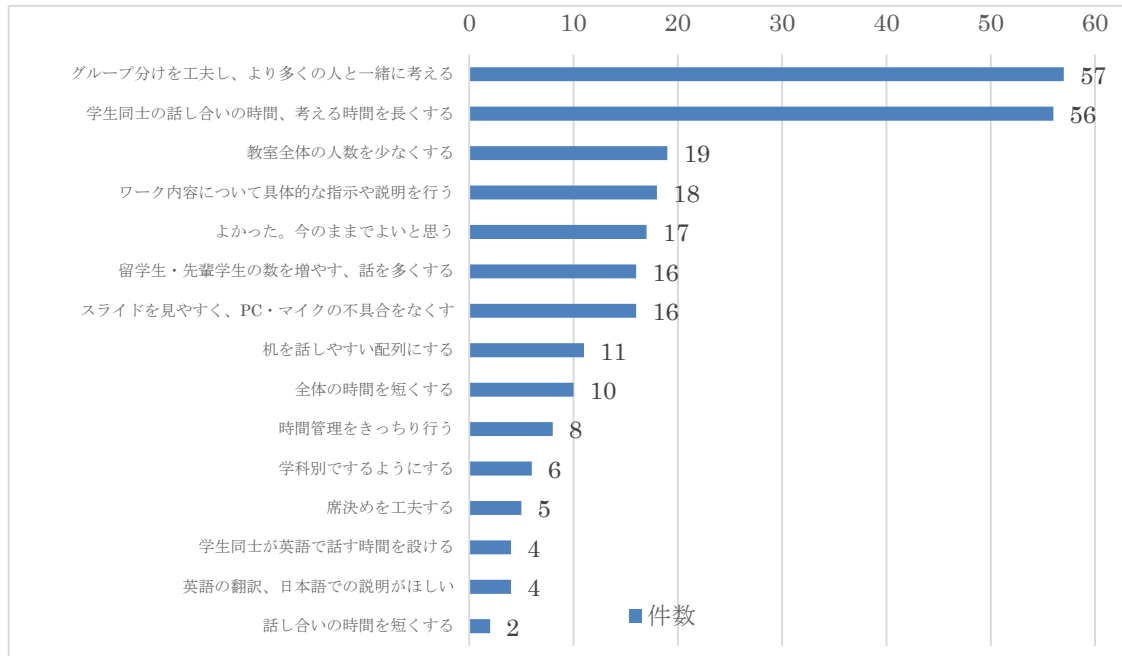


図3 Q4 アンケート結果

Q5. わかりにくかった点、もっと知りたいと思った点は何ですか。(記述回答／件数)

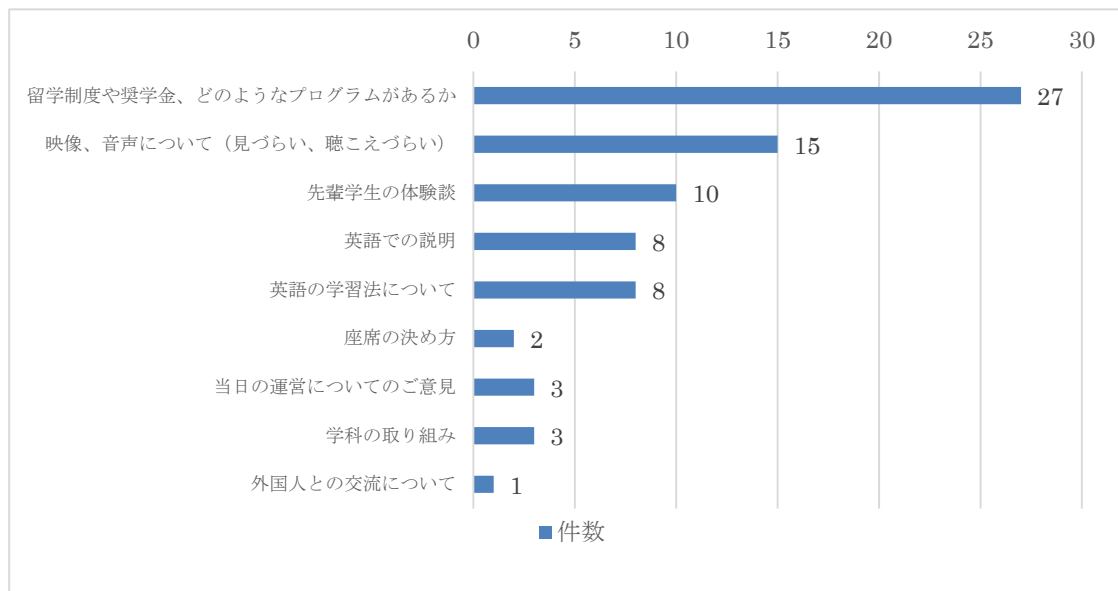


図4 Q5 アンケート結果

### 3 データ集

#### 3.1 派遣・受入学生数

##### 3.1.1 派遣学生数の推移と受入留学生数の推移

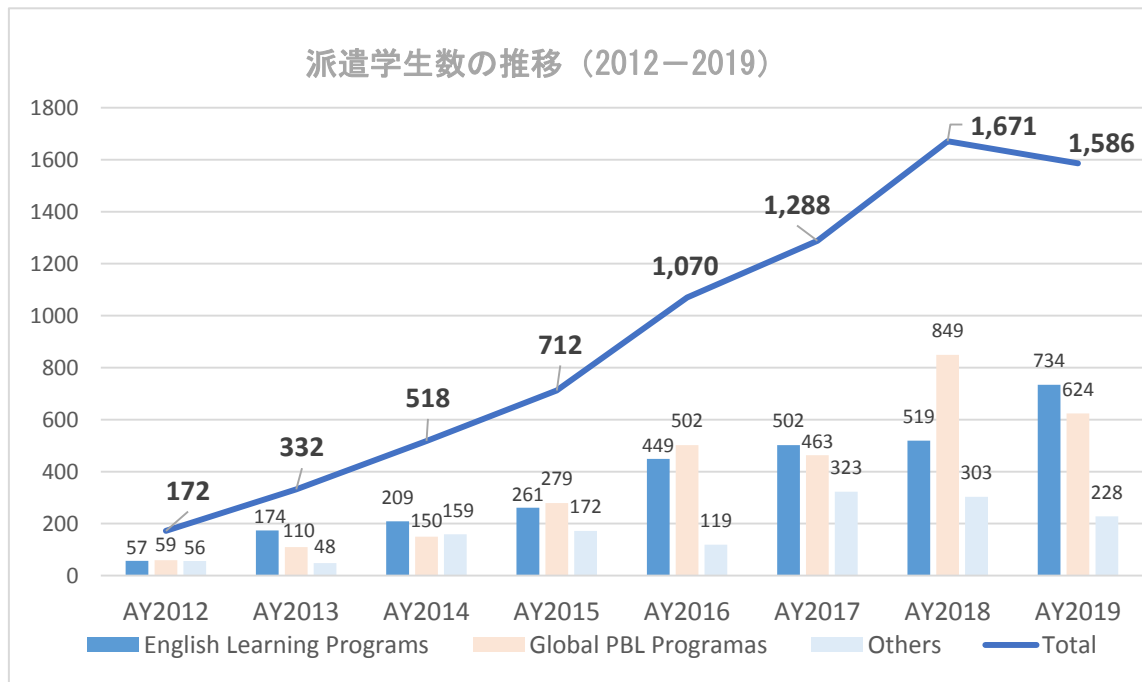


図1 派遣留学生数の推移 (2012-2019)

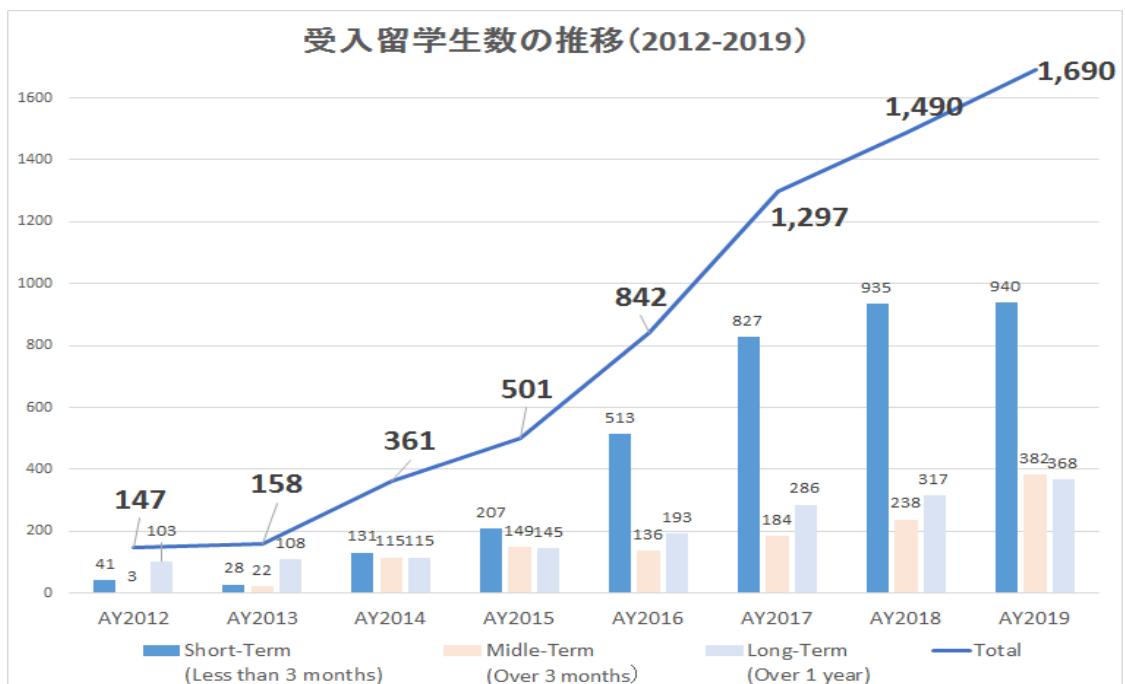


図2 受入留学生数の推移 (2012-2019)

## 3.1.2 海外への派遣学生数

海外への学生派遣人数(2018, 2019)

表 1(1/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019		
語学研修	アジア	インド	工学部				
			応用化学科	3	1		
			機械機能工学科	5			
			機械工学科	1	2		
			材料工学科	1			
			情報工学科		2		
			情報通信工学科		1		
			電気工学科	3	2		
			電子工学科	2			
			土木工学科	3	2		
			システム理工学部				
			環境システム学科	3	3		
			機械制御システム学科		1		
			数理科学科		1		
			生命科学科	1	1		
			電子情報システム学科	1	4		
			デザイン工学部				
			デザイン工学科	1	1		
			建築学部				
			建築学科	1	2		
		<b>インド 合計</b>		<b>25</b>	<b>23</b>		
				タイ	工学部		
					応用化学科	2	1
					機械機能工学科	3	8
					機械工学科	2	3
					材料工学科	2	2
					情報工学科	1	3
					情報通信工学科	4	4
					電気工学科	4	3
					電子工学科	1	3
					土木工学科	3	1
					システム理工学部		
					環境システム学科	3	5
					機械制御システム学科	3	5
					数理科学科	2	1
					生命科学科	1	5
					電子情報システム学科	2	4
					デザイン工学部		
					デザイン工学科	2	2
					建築学部		
					建築学科	2	
				<b>タイ 合計</b>		<b>37</b>	<b>50</b>
				ベトナム	工学部		
					応用化学科	3	3
					機械機能工学科	4	3
					機械工学科	1	3
					建築工学科		1
			材料工学科	1	4		
			情報工学科	1	4		
			情報通信工学科	5			
			通信工学科	3			
			電気工学科	1	12		
			電子工学科	3	15		
			土木工学科	3			
			システム理工学部				
			環境システム学科		4		
			機械制御システム学科	2	5		
			数理科学科		1		
			生命科学科	1	4		
			電子情報システム学科	5	7		
			デザイン工学部				
			デザイン工学科		5		
			建築学部				
			建築学科	1	3		
			修士				
			システム理工学専攻	1			
			機械工学専攻	2			
		<b>ベトナム 合計</b>		<b>37</b>	<b>74</b>		



表 1(2/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019		
語学研修	アジア	マレーシア	工学部				
			応用化学科	13	4		
			機械機能工学科	12	13		
			機械工学科	7	7		
			建築工学科	1			
			材料工学科	5	8		
			情報工学科	3	13		
			情報通信工学科	2	11		
			通信工学科	1			
			電気工学科	8	11		
			電子工学科	4	12		
			土木工学科	3	11		
			システム理工学部				
			環境システム学科	14	5		
			機械制御システム学科	4	23		
			数理科学科		7		
			生命科学科	7	16		
			電子情報システム学科	4	7		
			デザイン工学部				
			デザイン工学科	9	14		
			建築学部				
		建築学科	10	13			
		<b>マレーシア 合計</b>		<b>107</b>	<b>175</b>		
			フィリピン	フィリピン	工学部		
					機械機能工学科		1
					材料工学科		1
					電気工学科		1
					電子工学科		1
					土木工学科		1
					システム理工学部		
			数理科学科		2		
			電子情報システム学科		1		
			<b>フィリピン 合計</b>			<b>8</b>	
		オセアニア	オーストラリア	工学部			
				応用化学科	1	2	
				機械工学科	3	2	
				材料工学科	3	1	
				情報工学科	5	1	
				情報通信工学科		3	
				通信工学科	2		
				電気工学科	1	4	
				電子工学科	1	3	
				土木工学科	1	4	
				システム理工学部			
				環境システム学科	4	4	
				機械制御システム学科	1	5	
				数理科学科		1	
				生命科学科	1	3	
				電子情報システム学科		1	
				デザイン工学部			
				デザイン工学科	2	1	
				建築学部			
				建築学科	1	3	
	修士						
	システム理工学専攻	1					
	<b>オーストラリア 合計</b>	<b>27</b>	<b>38</b>				
	欧州	イギリス	工学部				
			応用化学科	11	3		
			機械機能工学科	7	8		
			機械工学科	5	4		
			材料工学科	6	4		
			情報工学科	8	3		
			情報通信工学科		4		
			通信工学科	4	1		
			電気工学科	7	9		
			電子工学科		1		
			土木工学科	4	9		
			システム理工学部				
	環境システム学科	16	5				
	機械制御システム学科	8	6				
	数理科学科	5	1				
	生命科学科	13	9				
	電子情報システム学科	6	2				

表 1(3/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019		
語学研修	欧州	イギリス	デザイン工学部				
			デザイン工学科	7	14		
			建築学部				
			建築学科	4	12		
			修士				
		システム理工学専攻	2				
		<b>イギリス 合計</b>	<b>113</b>	<b>95</b>			
		北米	アメリカ	工学部			
				応用化学科	9	20	
				機械機能工学科	8	12	
				機械工学科	5	8	
				建築学科	1		
				材料工学科	5	17	
	情報工学科			9	16		
	情報通信工学科			10	16		
	通信工学科			2			
	電気工学科			18	40		
	電子工学科			5	12		
	土木工学科			9	8		
	システム理工学部						
	環境システム学科			10	11		
	機械制御システム学科			10	9		
	数理科学科			8	8		
	生命科学科			16	15		
	電子情報システム学科			10	16		
	デザイン工学部						
	デザイン工学科			20	17		
	建築学部						
	建築学科			15	22		
	修士						
	システム理工学専攻			1	1		
	機械工学専攻			2	2		
	電気電子情報工学専攻				3		
	<b>アメリカ 合計</b>			<b>173</b>	<b>253</b>		
	カナダ			カナダ	工学部		
					応用化学科		2
					機械機能工学科		1
					情報通信工学科		2
					電気工学科		2
					電子工学科		1
					土木工学科		4
		システム理工学部					
		機械制御システム学科			2		
		生命科学科			1		
		デザイン工学部					
		デザイン工学科			1		
		建築学部					
建築学科			2				
<b>カナダ 合計</b>		<b>18</b>					
<b>語学研修 合計</b>			<b>519</b>	<b>734</b>			
グローバルPBL(派遣)	アジア	インド	工学部				
			機械機能工学科	2	8		
			材料工学科	1			
			修士				
			機械工学専攻	3			
			国際理工学専攻	1			
			材料工学専攻	5			
		<b>インド 合計</b>	<b>12</b>	<b>8</b>			
		インドネシア	工学部				
			応用化学科	10			
			電気工学科	8			
			システム理工学部				
			環境システム学科	13	1		
			機械制御システム学科		1		
		数理科学科		21			
		電子情報システム学科		8			
		<b>インドネシア 合計</b>	<b>31</b>	<b>31</b>			
スリランカ	工学部						
	電子工学科	9					
<b>スリランカ 合計</b>	<b>9</b>						

表 1(4/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019	
グローバルPBL(派遣)	アジア	タイ	工学部			
			機械機能工学科	24	14	
			建築学科	1		
			建築工学科	5		
			材料工学科	23	32	
			情報工学科	25		
			情報通信工学科	1		
			通信工学科	3	9	
			電子工学科	11	10	
			土木工学科	63	37	
			システム理工学部			
			環境システム学科	2		
			機械制御システム学科	3	6	
			生命科学科	1		
			電子情報システム学科	1	2	
			デザイン工学部			
			デザイン工学科	62	14	
			建築学部			
			建築学科	1		
			修士			
			システム理工学専攻	16	9	
		機械工学専攻	4	5		
		建設工学専攻	2			
		国際理工学専攻		3		
		材料工学専攻		2		
		電気電子情報工学専攻	4	6		
		<b>タイ 合計</b>		<b>252</b>	<b>149</b>	
			ベトナム			
			工学部			
			情報工学科	62	27	
			情報通信工学科		5	
			通信工学科	15	12	
			電気工学科	13		
			電子工学科	13	1	
			システム理工学部			
			環境システム学科		4	
			機械制御システム学科	31	11	
			生命科学科	11	12	
			電子情報システム学科	14	16	
			デザイン工学部			
			デザイン工学科	6		
			修士			
			国際理工学専攻	6		
			電気電子情報工学専攻	3		
		<b>ベトナム 合計</b>		<b>174</b>	<b>88</b>	
			マレーシア			
			工学部			
	機械機能工学科		3			
	建築工学科	26				
	システム理工学部					
	環境システム学科		18			
	生命科学科	31	27			
	修士					
	システム理工学専攻	1	1			
	機械工学専攻		7			
	建設工学専攻	2				
<b>マレーシア 合計</b>		<b>60</b>	<b>56</b>			
	ラオス					
	工学部					
	応用化学科	3				
	機械機能工学科	2				
	材料工学科	2				
	情報工学科	1				
	通信工学科	2				
	電気工学科	1				
	システム理工学部					
	数理科学科	3				
	建築学部					
	建築学科	9				
<b>ラオス 合計</b>		<b>23</b>				
	香港					
	工学部					
	電気工学科	7				
<b>香港 合計</b>		<b>7</b>				

表 1(5/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019	
グローバルPBL(派遣)	アジア	台湾	工学部			
			応用化学科	9	10	
			機械工学科	5	9	
			建築工学科		4	
			電気工学科	7		
			デザイン工学部			
			デザイン工学科		12	
			建築学部			
			建築学科		6	
			修士			
			応用化学専攻	2		
			<b>台湾 合計</b>	<b>23</b>	<b>41</b>	
			大韓民国	工学部		
		応用化学科		4	4	
		電気工学科		3	8	
		電子工学科		6		
		システム理工学部				
		機械制御システム学科		1		
		電子情報システム学科		7	1	
		デザイン工学部				
		デザイン工学科		33	15	
		建築学部				
		建築学科			10	
		修士				
		システム理工学専攻		1		
		機械工学専攻	3			
		建設工学専攻		1		
		国際理工学専攻		1		
		<b>大韓民国 合計</b>	<b>58</b>	<b>40</b>		
		中国	工学部			
			建築学科	9		
			建築学部			
			建築学科		1	
			修士			
		建設工学専攻	7	2		
		<b>中国 合計</b>	<b>16</b>	<b>3</b>		
		フィリピン	工学部			
			土木工学科		1	
			建築学部			
			建築学科		1	
			建築学部			
		建築学科		7		
		<b>フィリピン 合計</b>		<b>9</b>		
		オセアニア	オーストラリア	工学部		
				機械機能工学科	7	3
				機械工学科		5
				修士		
機械工学専攻				1		
<b>オーストラリア 合計</b>	<b>7</b>	<b>9</b>				
ニュージーランド	システム理工学部					
	環境システム学科	3				
<b>ニュージーランド 合計</b>	<b>3</b>					
欧州	イギリス	システム理工学部				
		機械制御システム学科		5		
		修士				
		システム理工学専攻		8		
		<b>イギリス 合計</b>		<b>13</b>		
	イタリア	工学部				
		建築学科	2			
		建築工学科	8			
		建築学部				
		建築学科		15		
		修士				
		システム理工学専攻	6			
	機械工学専攻	3				
国際理工学専攻	1					
<b>イタリア 合計</b>	<b>20</b>	<b>15</b>				
オーストリア	工学部					
	土木工学科	8				
	システム理工学部					
	環境システム学科	6				
	修士					
建設工学専攻	3					
<b>オーストリア 合計</b>	<b>17</b>					



表 1(6/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019
グローバルPBL(派遣)	欧州	スペイン	建築学部		
			建築学科	25	42
		<b>スペイン 合計</b>		<b>25</b>	<b>42</b>
		ドイツ	システム理工学部		
			環境システム学科	24	20
			数理科学科	10	
			建築学部		
			建築学科	1	
			修士		
		<b>ドイツ 合計</b>		<b>36</b>	<b>20</b>
		ハンガリー	工学部		
			電気工学科	6	6
		<b>ハンガリー 合計</b>		<b>6</b>	<b>6</b>
		フィンランド	工学部		
			建築工学科		2
			システム理工学部		
			環境システム学科		6
			デザイン工学部		
			デザイン工学科		1
			建築学部		
		建築学科		7	
		<b>フィンランド 合計</b>			<b>16</b>
		フランス	工学部		
			建築学科	3	
			建築工学科	9	
			システム理工学部		
			環境システム学科	1	
			デザイン工学部		
		デザイン工学科	1		
		<b>フランス 合計</b>		<b>14</b>	
		ポーランド	工学部		
			機械機能工学科	10	8
		<b>ポーランド 合計</b>		<b>10</b>	<b>8</b>
ポルトガル	システム理工学部				
	機械制御システム学科	1	7		
	生命科学科	1			
	修士				
	システム理工学専攻	9	12		
機械工学専攻	1	2			
<b>ポルトガル 合計</b>		<b>12</b>	<b>21</b>		
ロシア連邦	工学部				
	建築工学科		4		
	修士				
	建設工学専攻		4		
<b>ロシア連邦 合計</b>			<b>8</b>		
北米	アメリカ	工学部			
		機械機能工学科		3	
		情報工学科	8	6	
		電気工学科	22	14	
		電子工学科	4	7	
		システム理工学部			
		数理科学科		11	
<b>アメリカ 合計</b>		<b>34</b>	<b>41</b>		
<b>グローバルPBL(派遣) 合計</b>			<b>849</b>	<b>624</b>	
海外インターンシップ	アジア	インド	工学部		
			電気工学科		1
			電子工学科		1
		<b>インド 合計</b>			<b>2</b>
		インドネシア	修士		
			システム理工学専攻	1	
		<b>インドネシア 合計</b>		<b>1</b>	
		カンボジア	工学部		
土木工学科	1				
修士					
建設工学専攻	1				
<b>カンボジア 合計</b>		<b>2</b>			

表 1(7/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019
海外インターンシップ	アジア	シンガポール	工学部		
			応用化学科	1	
			建築工学科	1	
			材料工学科		1
			電気工学科		2
			土木工学科		1
			デザイン工学部		
			デザイン工学科		1
			建築学部		
			建築学科		2
		<b>シンガポール 合計</b>		<b>2</b>	<b>7</b>
		タイ	工学部		
			建築学科	1	
			電気工学科	1	1
			システム理工学部		
			環境システム学科		1
		建築学部			
		建築学科		1	
		<b>タイ 合計</b>		<b>2</b>	<b>3</b>
		ベトナム	工学部		
			応用化学科		1
			機械機能工学科	1	
			機械工学科	2	1
			情報工学科	2	2
		修士			
		電気電子情報工学専攻	1		
		<b>ベトナム 合計</b>		<b>6</b>	<b>4</b>
		マレーシア	システム理工学部		
			電子情報システム学科		1
		<b>マレーシア 合計</b>			<b>1</b>
		香港	建築学部		
			建築学科		4
<b>香港 合計</b>			<b>4</b>		
台湾	システム理工学部				
	環境システム学科	1			
<b>台湾 合計</b>		<b>1</b>			
中国	修士				
	建設工学専攻	1	1		
	電気電子情報工学専攻	2			
<b>中国 合計</b>		<b>3</b>	<b>1</b>		
ミャンマー	建築学部				
	建築学科		1		
<b>ミャンマー 合計</b>			<b>1</b>		
欧州	イギリス	修士			
		システム理工学専攻	2		
	<b>イギリス 合計</b>		<b>2</b>		
オーストリア	修士				
	機械工学専攻	1			
<b>オーストリア 合計</b>		<b>1</b>			
スイス	修士				
	建設工学専攻	1			
<b>スイス 合計</b>		<b>1</b>			
北米	アメリカ	修士			
		材料工学専攻	1		
<b>アメリカ 合計</b>		<b>1</b>			
<b>海外インターンシップ 合計</b>			<b>22</b>	<b>23</b>	
交換留学プログラム	アジア	スリランカ	デザイン工学部		
			デザイン工学科		1
			修士		
		機械工学専攻		1	
		<b>スリランカ 合計</b>		<b>2</b>	
		タイ	システム理工学部		
			電子情報システム学科	3	2
		<b>タイ 合計</b>		<b>3</b>	<b>2</b>
		ベトナム	修士		
			電気電子情報工学専攻	1	
		<b>ベトナム 合計</b>		<b>1</b>	
		マレーシア	システム理工学部		
			生命科学科		1
電子情報システム学科	2		1		
修士					
建設工学専攻	1				
<b>マレーシア 合計</b>		<b>3</b>	<b>2</b>		

表 1(8/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019	
交換留学プログラム	アジア	台湾	工学部			
			機械工学科	1		
			システム理工学部			
			機械制御システム学科		1	
		<b>台湾 合計</b>		<b>1</b>	<b>1</b>	
		大韓民国	工学部			
			材料工学科			1
			システム理工学部			
			環境システム学科			1
			デザイン工学部			
			デザイン工学科			2
			修士			
			建設工学専攻			1
			電気電子情報工学専攻			1
			<b>大韓民国 合計</b>			<b>6</b>
		アフリカ	タンザニア	工学部		
				材料工学科		1
		<b>タンザニア 合計</b>			<b>1</b>	
		オセアニア	オーストラリア	修士		
				システム理工学専攻	2	
	<b>オーストラリア 合計</b>			<b>2</b>		
	欧州	イギリス	工学部			
			機械機能工学科		1	
			機械工学科		1	
			デザイン工学部			
		デザイン工学科			1	
		<b>イギリス 合計</b>			<b>3</b>	
		イタリア	修士			
			システム理工学専攻	1		
			機械工学専攻			1
		<b>イタリア 合計</b>		<b>1</b>	<b>1</b>	
		オーストリア	修士			
			建設工学専攻	1		
		<b>オーストリア 合計</b>		<b>1</b>		
		オランダ	工学部			
			通信工学科	1		
			システム理工学部			
			生命科学科			1
		<b>オランダ 合計</b>		<b>1</b>	<b>1</b>	
		スイス	修士			
			システム理工学専攻	1		1
	機械工学専攻		1			
	<b>スイス 合計</b>		<b>2</b>	<b>1</b>		
	スウェーデン	工学部				
		建築工学科	1			
		通信工学科	2			
		システム理工学部				
		生命科学科			2	
		電子情報システム学科			1	
		デザイン工学部				
デザイン工学科	1					
<b>スウェーデン 合計</b>		<b>4</b>	<b>3</b>			
ドイツ	工学部					
	材料工学科	1				
	電気工学科			1		
	修士					
システム理工学専攻			1			
<b>ドイツ 合計</b>		<b>1</b>	<b>2</b>			
フィンランド	システム理工学部					
	生命科学科			1		
	修士					
国際理工学専攻	1					
<b>フィンランド 合計</b>		<b>1</b>	<b>1</b>			
フランス	システム理工学部					
	機械制御システム学科			2		
	デザイン工学部					
	デザイン工学科			1		
	修士					
	国際理工学専攻	1				
	材料工学専攻			1		
<b>フランス 合計</b>		<b>1</b>	<b>4</b>			

表 1(9/9)

プログラム	エリア	国	学部・学科	2018	2019		
交換留学プログラム	欧州	ポーランド	工学部				
			応用化学科	1			
			通信工学科	1			
			システム理工学部				
			電子情報システム学科	1			
			修士				
			機械工学専攻	1	2		
			電気電子情報工学専攻	1			
			<b>ポーランド 合計</b>	<b>5</b>	<b>2</b>		
			ポルトガル	工学部			
		通信工学科			1		
		システム理工学部					
		機械制御システム学科		2			
		数理科学科			1		
		修士					
材料工学専攻		1					
電気電子情報工学専攻		1					
<b>ポルトガル 合計</b>	<b>2</b>	<b>4</b>					
アイルランド	システム理工学部						
	生命科学科		1				
<b>アイルランド 合計</b>		<b>1</b>					
北米	アメリカ	修士					
		システム理工学専攻		3			
		国際理工学専攻		1			
<b>アメリカ 合計</b>		<b>4</b>					
<b>交換留学プログラム 合計</b>			<b>29</b>	<b>41</b>			
研究指導	アジア	ベトナム	修士				
			システム理工学専攻	15			
			機械工学専攻	12			
			電気電子情報工学専攻	12			
			博士				
			機能制御システム専攻	10			
			地域環境システム専攻	9			
			<b>ベトナム 合計</b>	<b>58</b>			
			複数国	複数国	修士		
					システム理工学専攻	32	22
	応用化学専攻				10		
	機械工学専攻	18			15		
	材料工学専攻	3			9		
	電気電子情報工学専攻	48			39		
	博士						
機能制御システム専攻	34	24					
短期留学生	2						
地域環境システム専攻	6	9					
<b>複数国 合計</b>	<b>143</b>	<b>128</b>					
<b>研究指導 合計</b>			<b>201</b>	<b>128</b>			
その他	アジア	インドネシア	システム理工学部				
			電子情報システム学科	1			
	<b>インドネシア 合計</b>	<b>1</b>					
	複数国	複数国	工学部				
			建築工学科	7			
			建築学部				
建築学科	43	36					
<b>複数国 合計</b>	<b>50</b>	<b>36</b>					
<b>その他 合計</b>			<b>51</b>	<b>36</b>			
			<b>1,671</b>	<b>1,586</b>			



## 海外への学生派遣人数 (2007~2017)

表2(1/2)

プログラム	協定校等派遣先	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
医学研究	カリフォルニア大学アーバイン校(アメリカ)	17	15	20	44	47	54	77	77	91	104	58	
	グアム大学(アメリカ)	2013年度より実施											
	カリフォルニア大学デービス校(アメリカ)	2015年度より実施											
	クイーンズランド大学(オーストラリア)	2015年度より実施											
	サザンクロス大学(イギリス)	2017年度より実施											
	ハワイスマノア校(アメリカ)	2016年度より実施											
	サリー大学(イギリス)	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リバプール大学(イギリス)	2017年度より実施											
	マックマスタース大学(カナダ)	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャンパスフランス(フランス)	2015年度より実施											
	東華大学(中国)	2010年度より実施											
	南台科技大学(台湾)	2010年度より実施											
	アナス大学(インド)	2013年度より実施											
	インド工科大学マドラス校(インド)	2015年度より実施											
	マレーシア工科大学(マレーシア)	2013年度より実施											
	キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2013年度より実施											
	FPI大学(ベトナム)	2016年度より実施											
ハノイ理工科大学(ベトナム)	2017年度より実施												
APU大学(マレーシア)	2016年度より実施												
		17	32	34	51	55	57	174	209	261	449	506	
グローバルPBL	[A機械系] マレーシア工科大学(マレーシア)	2013年度より実施											
	[A機械系] 台北科技大学(台湾)	2017年度より実施											
	[B機械系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2014年度より実施											
	[B機械系] スラナリー工科大学(タイ)	2016年度より実施											
	[B機械系] ホーランドアカデミー科学技術大学(オランダ)	2013年度より実施											
	[B機械系] サンホセレコレトス大学(フィリピン)	2017年度より実施											
	[C材料系] ブリディッシュ コロンビア大学(カナダ)	2015年度より実施											
	[C材料系] デュラロンコン大学(タイ)	2016年度より実施											
	[C材料系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2017年度より実施											
	[C材料系] インド工科大学マドラス校(インド)	2015年度より実施											
	[D応化系] 忠南大学(韓国)	2013年度より実施											
	[D応化系] 国立台湾科技大学(台湾)	2016年度より実施											
	[D応化系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2017年度より実施											
	[D応化系] サンホセレコレトス大学(フィリピン)	2017年度より実施											
	[D応化系] Max Planck Institute for Polymer Research(ドイツ)	2017年度より実施											
	[E電気系(ロボット)] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2013年度より実施											
	[E電気系(ロボ)] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2013年度より実施											
	[E電気系(電カ)] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2016年度より実施											
	[E電気系] ホーチミン市工科大学(ベトナム)	2017年度より実施											
	[E電気系] エンバシー・インターナショナル(アメリカ)	2016年度より実施											
	[E電気系] バンドン工科大学(インドネシア)	2016年度より実施											
	[E電気系] 台湾科技大学(台湾)	2014年度より実施											
	[E電気系] 釜山国立大学(韓国)	2016年度より実施											
	[F通信系] ウタラ・マレーシア大学(マレーシア)	2015年度より実施											
	[F通信系] マレーシアアプトラ大学(マレーシア)	2017年度より実施											
	[F通信系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2014年度より実施											
	[F通信系] スラナリー工科大学(タイ)	2017年度より実施											
	[F通信系] ホーチミン工科大学(ベトナム)	2013年度より実施											
	[F通信系] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2017年度より実施											
	[F通信系] ヴロツワフ大学(オランダ)	2016年度より実施											
	[G電子系] カリフォルニア州立大学イーストベイ校(アメリカ)	2016年度より実施											
	[G電子系] サバガムワ大学(スリランカ)	2016年度より実施											
	[G電子系] モラチュウ大学(スリランカ)	2016年度より実施											
	[G電子系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2015年度より実施											
	[G電子系] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2017年度より実施											
	[H通信系] スラナリー工科大学(タイ)	2015年度より実施											
	[H通信系] 豊田工業大学(タイ)	2016年度より実施											
	[H通信系] P電子情報系] FPI大学(ベトナム)	2016年度より実施											
	[H通信系] カリフォルニア州立大学イーストベイ校(アメリカ)	2017年度より実施											
	[H通信系] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2017年度より実施											
	[H通信系] ホーチミン工科大学(ベトナム)	2017年度より実施											
	[I建築系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2017年度より実施											
	[I建築系] モスク建築大学(ロシア)	2017年度より実施											
	[I建築系] パリ・ベルヴェール建築大学(フランス)	2010年度より実施											
	[I建築系] 瀧岡大学(韓国)	2010年度より実施											
	[I建築系] ライクラ大学(イタリア)	2016年度より実施											
	[I建築系] トウク・アプトル・ラーマン大学(マレーシア)	2016年度より実施											
	[I建築系] ラオス国立大学(ラオス)	2016年度より実施											
	[I建築系] 東華大学(台湾)	2016年度より実施											
	[I建築系] ボルドー建築大学(フランス)	2017年度より実施											
	[I建築系] 麓山学院(中国)	2017年度より実施											
	[I建築系] Max Planck Institute for Polymer Research(ドイツ)	2017年度より実施											
	[I建築系(デザイン)] バンドン工科大学(インドネシア)	2015年度より実施											
	[I建築系(デザイン)] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2015年度より実施											
	[I土木系] ウィーン工科大学(オーストリア)	2016年度より実施											
	[I土木系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2016年度より実施											
	[I生命系] サラワク大学(マレーシア)	2015年度より実施											
[I生命系] フライブルク大学(ドイツ)	2015年度より実施												
[I生命系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2017年度より実施												
[P電子情報系] ICDP(韓国)	2014年度より実施												
[P電子情報系] リスボン新大学(ポルトガル)	2017年度より実施												
[Q機械系] ハノイ理工科大学(ベトナム)	2015年度より実施												
[Q機械系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2017年度より実施												
[Q機械系] リスボン新大学(ポルトガル)	2017年度より実施												
[R環境系] インターナショナル・イスラミック大学(マレーシア)	2015年度より実施												
[R環境系] フライブルク大学(ドイツ)	2017年度より実施												
[V教養系] ラオス国立大学(ラオス)	2016年度より実施												
[V教養系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2017年度より実施												
[Vデザイン系] マレーシア工科大学(マレーシア)	2015年度より実施												
[Vデザイン系] キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)	2016年度より実施												
[Vデザイン系] プリンストン大学(アメリカ)	2016年度より実施												
[Vデザイン系] 釜山大学(韓国)	2016年度より実施												
[Vデザイン系] 弘益大学(韓国)	2016年度より実施												
[Vデザイン系] 国民大学(韓国)	2015年度より実施												
[Vデザイン系] 南洋理工學院(シンガポール)	2015年度より実施												
[Vデザイン系] 中央大学(韓国)	2012年度より実施												

海外への学生派遣人数 (2007~2017) (続き)

表 2(2/2)

プログラム	協定校等派遣先	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
グローバルPBL	[Yデザイン系] サンホセレオレロス大学 (フィリピン)											5	
	[Yデザイン系] ハノイ理工科大学 (ベトナム)											1	
	[Yデザイン系] ホーチミン工科大学 (ベトナム)											1	
	[システム理工学系] キングモンクット工科大学トンブリ校 (タイ)						27	27	35	31	39	17	
	[システム理工学系] サラワク大学 (マレーシア)											2	
	[システム理工学系] リスボン新大学 (ポルトガル)											4	
	[大学院機械系] ラクワラ大学 (イタリア)											0	
	[大学院機械系] ポーランド科学技術大学 (ポーランド)											2	
	[大学院応用化学系] インド国立総合科学技術研究所 (インド)											3	
	[大学院国際理工学系] マレーシアアブドラ大学 (マレーシア)											7	
	[大学院電気電子情報工学系] ハノイ理工科大学 (ベトナム)											2	
	[大学院機械系] プリンストン工科大学 (タイ)											2	
	[大学院機械系] キングモンクット工科大学トンブリ校 (タイ)											12	
	[大学院建築系] トゥング・アブドゥル・ラーマン大学 (マレーシア)											4	
	[大学院建築系] パンツン工科大学 (インドネシア)											2	
	[大学院建築系] モスクワ建築大学 (ロシア)											4	
	[大学院建築系] ホルダー建築大学 (フランス)											1	
	[大学院建築系] Max Planck Institute for Polymer Research (ドイツ)											1	
	[大学院建築系] 合肥工業大学・真山学院 (中国)									9		12	4
	[大学院MOI系] 延世大学校 (韓国)									7		0	0
[大学院MOI系] パンテヒット・総務大学 (タイ)											3	0	
PBL (研究室配属型)	[P電子情報系] 豊岡大学 (韓国)								3		6	0	
	[分野横断型] 台湾科技大学 (台湾)								6		11	10	
		16	10	19	7	16	59	110	150	279	602	488	
交換留学 [半年~1年] (専業)	スイス連邦工科大学ローザンヌ校 (スイス)	1	0	2	2	2	2	2	1	1	1	0	
	スウェーデン工立工科大学 (スウェーデン)	1	0	2	1	0	0	0	0	0	1	2	
	ラクワラ大学 (イタリア)	0	1	0	1	1	2	1	0	1	2	0	
	パリ・ベルヴィル建築大学 (フランス)	2	1	0	3	2	0	0	0	1	1	1	
	レンセラ工科大学 (アメリカ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ウィーン工科大学 (オーストリア)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	漢陽大学校 (韓国)						0	1	0	0	0	0	
	カンパウロ大学 (ブラジル)							1	0	0	0	0	
	キングモンクット工科大学トンブリ校 (タイ)									1	0	0	
	パンアメリカン大学 (メキシコ)											1	
	ヴロツワフ工科大学 (ポーランド)											2	
	アールト大学 (フィンランド)											1	
	バーサ工科大学 (フィンランド)	0	2	2	3	2	2	2	2	0	1	1	
バーミンガム工科大学 (アメリカ)	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0		
マレーシアアブドラ大学 (マレーシア)											1		
スラナリー工科大学 (タイ)											4		
キングモンクット工科大学トンブリ校 (タイ) [単位認定付]									4	1	6		
マレーシア工科大学 (マレーシア) [単位認定付]									2	2	3		
ハノイ理工科大学 (ベトナム) [単位認定付]											2		
交換留学 [2週間~1年] (教員主眼)	ポーランドアカデミー科学技術大学 (ポーランド)	0	2	1	2	3	2	1	2	0	3	1	
	ザールラント大学 (ドイツ)									1	0	0	
	ウーロンゴン大学 (オーストラリア)										1	0	
	アメリカ国立衛生研究所 (アメリカ)										1	0	
	Critical Care Research Group (オーストラリア)											1	
	Jan Kochanowski University (ポーランド)											1	
	キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)											2	
	マサチューセッツ・ホストン大学 (アメリカ)						8	10	7	4	2	1	
	グリフィス大学 (オーストラリア)											1	
	パリ第6大学 情報学研究所 (フランス)											1	
	台湾科技大学 (台湾)											1	
	ザールラント大学 (ドイツ)									1	0	0	
	スロバキア科学アカデミー (スロバキア)									2	0	0	
	バスク大学 (スペイン)									1	0	0	
	蘭華大学 (中国)											1	
海外インターンシップ	本学提携先企業等	0	4	6	7	14	18	20	12	24	11	28	
		0	0	0	3	5	9	15	20	31	35	22	
研究指導	学会発表、ゼミ合宿、視察、調査等	0	0	0	3	5	9	15	20	31	35	22	
海外研修研修	欧州各国 (EU) 訪米、英、伊、仏等、年度により異なる)									67	63	47	
海外研修研修	国際教育交換協議会(CIEIE)等学外機関				3	4	10	6	10	9	2	4	
その他	サマープログラム・短期プログラム・個人留学等				0	3	10	15	6	28	61	18	
		0	0	3	7	20	21	16	104	126	69	65	
	合計	37	48	66	84	118	172	332	518	712	1070	1288	

## 3.1.3 留学生の受入人数

留学生の受入人数 (2018, 2019) 表 1(1/2)

滞在期間	カテゴリー	エリア	国籍	2018	2019		
長期 中期	正規留学(学位取得目的):学部	アジア	インドネシア	8	8		
			シンガポール	1	1		
			タイ	5	5		
			ネパール	1	1		
			ベトナム	1	1		
			マレーシア	22	26		
			ミャンマー	2	1		
			香港	4	5		
			台湾	4	3		
			大韓民国	7	15		
			中国	113	149		
			中東	サウジアラビア	1	1	
				トルコ	1	1	
					小計		170
		長期 中期	正規留学(学位取得目的):大学院	アジア	インド	1	1
					インドネシア	8	10
					タイ	26	23
					ベトナム	12	9
					マレーシア	22	15
					台湾	2	2
大韓民国	7				6		
中国	34				65		
アフリカ	アルジェリア				1	1	
	エジプト				1	1	
	エチオピア				3	3	
	ケニア				1	1	
	コンゴ民主共和国				2	2	
	セネガル				3	1	
タンザニア	1			1			
ナイジェリア	5			2			
モザンビーク	4			1			
モロッコ	2						
ルワンダ	2			1			
南スーダン	3						
ウガンダ		1					
欧州	イタリア		1				
	サウジアラビア	8	6				
中東	サウジアラビア	8	6				
中南米	ブラジル	1	1				
		小計		147	162		
長期 合計				317	368		
中期	研究生	アジア	ベトナム	1	1		
			中国	10	14		
		アフリカ	エチオピア	1	1		
			コンゴ民主共和国	1			
			セネガル		1		
	中南米	ブラジル	1	1			
			小計		13	17	
	科目等履修生	アジア	中国	3			
			小計		3		
	中期	Sandwich Program	アジア	インドネシア	6	10	
シンガポール				1	1		
タイ				10	9		
フィリピン				1	1		
ベトナム				1	11		
マレーシア				6	6		
モンゴル				2	3		
台湾				25	30		
大韓民国				3	4		
中国				45	84		
オセアニア			オーストラリア		3		
			ニュージーランド		1		
欧州			アイルランド		4		
			オランダ	6	12		
			スウェーデン	4	3		
			ドイツ	3	3		
			フィンランド		5		
			フランス		7		
			ポーランド		4		
			ロシア連邦		2		
	オーストリア		1				
	チェコ共和国		1				
イギリス		1					
アイスランド		1					
中南米	ブラジル	40	63				
	メキシコ		1				
北米	アメリカ	2	3				
		小計		154	266		
中期	Research Exchange Program	アジア	インド	8	9		
			インドネシア		4		
			スリランカ		1		
			タイ	7	4		
			フィリピン		1		
			ベトナム	5	16		
			マレーシア	3	13		
			台湾	4	4		
			大韓民国	1	3		
			中国	8	6		
		アフリカ	モロッコ	1	1		
			エジプト		1		
		欧州	イタリア	6	3		
			オランダ		2		
			スウェーデン	3			
			スペイン		1		
			ドイツ	3	1		
			フィンランド	1	1		
			フランス	6	7		
			ポーランド	6	6		
ロシア連邦	3						
オーストリア			1				
中東	トルコ	1	1				
中南米	ブラジル	1	12				
北米	アメリカ	1					
		小計		86	97		
中期 合計				238	362		



表 1(2/2)

滞在期間	カテゴリー	エリア	国籍	2018	2019		
短期	Research Exchange Program	アジア	インド	5	12		
			インドネシア	14	14		
			カンボジア	1			
			スリランカ	12	10		
			タイ	35	43		
			バングラデシュ	1			
			ベトナム		1		
			マレーシア	8	13		
			モンゴル	1	1		
			大韓民国	5	2		
			中国	4	6		
			欧州	イタリア	1	3	
				フランス	1	1	
				ポーランド	8	6	
		ポルトガル		1			
		ロシア連邦		3			
		中東	イエメン		2		
		中南米	メキシコ		1		
		北米	アメリカ	1	2		
			小計		97	120	
		グローバルPBL(受入)	グローバルPBL(受入)	アジア	インド	36	24
					インドネシア	8	44
					カンボジア		6
					シンガポール	13	2
					スリランカ	21	19
					タイ	139	110
					フィリピン	7	
					ベトナム	15	28
					マレーシア	53	47
ミャンマー	14						
モンゴル	3				3		
台湾	55				26		
大韓民国	112				94		
中国	11				36		
バキスタン				1			
ブルネイ				1			
アフリカ	マリ				1		
オセアニア	オーストラリア			5	12		
欧州	アイルランド			1			
	イタリア				21		
	オランダ				1		
	カザフスタン			2	2		
	ドイツ				1		
	フランス				10		
	ポーランド				9		
	モルドバ			1			
	ルーマニア			5			
	ロシア連邦			11			
	オーストリア				14		
	ギリシャ				1		
	ハンガリー				6		
	キルギスタン				1		
ウクライナ				1			
中東	イラン			2			
	イラク				1		
中南米	ブラジル				2		
	ドミニカ共和国				1		
	エクアドル				1		
北米	ホンジュラス				1		
	アメリカ				1		
	小計				527	527	
JSTさくらサイエンスプラン	JSTさくらサイエンスプラン			アジア	インド	10	10
					インドネシア	5	
					タイ		18
					マレーシア		6
					モンゴル	10	
					中国	10	5
					ラオス		7
					バキスタン		1
	小計				35	47	
Intensive Program: 文化体験	Intensive Program: 文化体験			アジア	カンボジア		3
					スリランカ		3
					タイ	16	
					バングラデシュ		2
					マレーシア	14	10
					ミャンマー		2
					台湾	11	39
		大韓民国			20		
		中国	20		138		
			小計			61	217
Intensive Program: アカデミック	Intensive Program: アカデミック	アジア	インド	32			
			インドネシア	12			
			マレーシア	39			
			中国	86			
			中南米	メキシコ		29	
	小計		169	29			
その他(受入)	その他(受入)	アジア	カンボジア	1			
			タイ	11			
			ベトナム	1			
			ミャンマー	2			
			香港	1			
			中国	3			
		欧州	スペイン	1			
			中南米	メキシコ	25		
		北米	アメリカ	1			
			アメリカ		46		
			小計		46		
短期 合計				935	940		
総計				1,490	1,690		



留学生の受入人数 (2010~2017)

表 2(1/3)

滞在期間	カテゴリー	国	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
1 「A」長期 (1年以上)	学部生										
	1	工学部	*	30	24	37	42	31	34	44	68
	2	システム理工学部	*	20	14	10	9	8	11	17	27
	3	デザイン工学部	*	1	1	1	3	3	5	5	6
	4	建築学部	*	0	0	0	0	0	0	0	13
			小計	51	39	48	54	42	50	66	114
	2	科目等履修生		0	0	0	0	0	0	0	0
	3	研究生		2	0	1	5	11	17	22	22
			小計	2	0	1	5	11	17	22	22
	大学院										
	1	修士	*	11	13	12	7	21	39	69	103
	2	MOT	*	0	0	1	1	0	2	2	1
	3	博士	*	26	30	41	41	41	37	34	46
		小計	37	43	54	49	62	78	105	150	
		合計	90	82	103	108	115	145	193	286	
1 「B」中期 (3ヶ月以上)	Sandwich Program										
	1	ブラジル「環境なま科学」	ブラジル	0	0	0	10	93	117	48	0
	2	東北大学	中国	0	0	0	0	0	0	5	17
	3	燕山大学	韓国	0	0	0	0	0	0	2	0
	4	Sepuluh Nopember Institute of Technology	インドネシア	0	0	0	0	0	0	5	5
	5	Indiana University Southeast (非協定校)	アメリカ	0	0	0	0	0	0	1	0
	6	電子科技大	中国	0	0	0	0	0	0	10	4
	7	University of Electronic Science and Technology of China	中国	0	0	0	0	0	0	6	16
	8	浙江工商大学	中国	0	0	0	0	0	0	3	12
	9	浙江理工大学	中国	0	0	0	0	0	0	4	2
	10	湖南大学	中国	0	0	0	0	0	0	1	0
	11	Kodmin University	韓国	0	0	0	0	0	0	1	0
	12	Khaj Monksut's University of Technology Thonburi	タイ	0	0	0	0	0	0	4	4
	13	Universidade de São Paulo	ブラジル	0	0	0	0	0	0	2	7
	14	INSTITUTO MAUA DE TECNOLOGIA	ブラジル	0	0	0	0	0	0	6	18
	15	University of Brasilia	ブラジル	0	0	0	0	0	0	1	1
	16	University Center of FEI (非協定校)	ブラジル	0	0	0	0	0	0	1	1
	17	Windsherm University of Applied Sciences	オランダ	0	0	0	0	0	0	2	2
	18	Northeast Electric Power University (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	2
	19	Guangdong University of Technology (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	2
	20	Ningbo University (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	1
	21	Northeast Forestry University (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	1
	22	Xiamen University Tan Kah Kee Coll (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	1
	23	江南大学 (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	2
	24	南京航空航天大学 (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	0	2
	25	ストックホルム王立工科大学	スウェーデン	0	0	0	0	0	0	0	2
	26	トウシク・アブドゥル・ラーマン大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	2
	27	バーサイ工科大学	フィンランド	0	0	0	0	0	0	0	3
	28	ブラジル連邦大学ABC	ブラジル	0	0	0	0	0	0	0	1
	29	ポーランド科学技術大学	ポーランド	0	0	0	0	0	0	0	4
	30	マレーシア工科大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	2
	31	モンゴル科学技術大学	モンゴル	0	0	0	0	0	0	0	4
	32	ヤンコハフスキ大学	ポーランド	0	0	0	0	0	0	0	1
	33	ランジツ大学	タイ	0	0	0	0	0	0	0	1
	34	燕山学院	中国	0	0	0	0	0	0	0	4
	35	麗守大学	台湾	0	0	0	0	0	0	0	1
	36	愛媛大学	台湾	0	0	0	0	0	0	0	2
37	台北科技大学	台湾	0	0	0	0	0	0	0	5	
		成徳理工大	中国	0	0	0	0	0	0	3	
		小計	0	0	0	10	93	117	101	135	
2 「C」短期 (3ヶ月以下)	交換留学 (3ヶ月以上)										
	1	キングモンクット工科大学トンブリ	タイ	0	0	0	0	1	1	0	1
	2	マレーシア工科大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	1	0
	3	マレーシア日本国際工科院	マレーシア	0	0	0	0	0	3	3	0
	4	マウ工科大学	マレーシア	0	0	0	0	1	1	1	0
	5	サラワク大学	マレーシア	0	0	0	0	0	6	4	6
	6	インド工科大学マドラス校	インド	0	0	0	0	0	0	4	6
	7	蘭陽大学校	韓国	0	1	0	0	0	0	0	0
	8	国民大学	韓国	0	0	0	0	0	0	1	0
	9	台湾科技大学	台湾	0	0	0	0	0	0	1	0
	10	南台科技大学	台湾	0	0	1	1	0	2	2	0
	11	トウサイ工科大学	フィンランド	1	0	0	0	0	4	4	0
	12	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン	1	0	0	1	3	1	1	0
	13	ラクイラ大学	イタリア	1	1	0	3	6	4	4	2
	14	パリ・ベルヴィル建築大学	フランス	2	1	1	4	7	6	5	4
	15	ポーランドアカデミ科学技術大学	ポーランド	0	0	0	2	2	2	0	4
	16	モスクワ建築大学	ロシア	2	0	1	1	0	0	0	5
	17	サンパウロ大学	ブラジル	0	0	0	0	1	0	0	0
	18	ウーエ工科大学	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	1	2
	19	TU Clausthal	ドイツ	0	0	0	0	0	0	1	0
	20	クンブテン大学	ドイツ	0	0	0	0	0	0	1	1
	21	Windsherm University of Applied Sciences	オランダ	0	0	0	0	0	0	1	0
	22	ENSCAEN (Ecole nationale supérieure d'ingénieurs de Caen) (非協定校)	フランス	0	0	0	0	0	1	0	0
	23	スエバ デ リスボン大学 (非協定校)	ポルトガル	0	0	0	0	1	1	0	0
	24	ダートマス大学 (非協定校)	アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	1
	25	ヴロツワフ工科大学	ポーランド	0	0	0	0	0	0	0	1
	26	クロースタル工科大学	ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	1
	27	シンガポール国立大学	シンガポール	0	0	0	0	0	0	0	1
	28	ストックホルム王立工科大学	スウェーデン	0	0	0	0	0	0	0	3
	29	スラリアー工科大学	タイ	0	0	0	0	0	0	0	2
	30	トウシク・アブドゥル・ラーマン大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	2
	31	ブーンラーチャーシューマー・ラーチャパット大学	タイ	0	0	0	0	0	0	0	1
	32	バハマアメリカン大学	ス威士コ	0	0	0	0	0	0	0	1
	33	バンドン工科大学	インドネシア	0	0	0	0	0	0	0	1
	34	ラフボロー大学	イギリス	0	0	0	0	0	0	0	1
	35	湖北工業大学	中国	0	0	0	0	0	0	0	1
	36	国民イスクラム大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	1
37	台北科技大学	台湾	0	0	0	0	0	0	0	1	
		小計	7	3	3	12	22	32	35	49	
		合計	7	3	3	22	115	149	136	184	

留学生の受入人数 (2010~2017) (続き)

表 2(2/3)

滞在期間	カテゴリー	国	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
1	交換留学 (3ヶ月未満)									
	1	暹日工業大学	タイ	4	4	2	0	0	0	0
	2	キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	3	5	5	5	55	15	7
	3	チュラーロンコーン大学	タイ	0	2	0	0	0	0	3
	4	スラナリー工科大学	タイ	0	1	3	0	0	0	2
	5	Nakhon Ratchasima Rajabhat University	タイ	0	0	0	0	0	0	8
	6	マレーシア工科大学	マレーシア	0	0	3	0	0	0	2
	7	マレーシア日本国領工務院	マレーシア	0	0	0	1	4	0	1
	8	マラ工科大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	12
	9	サラワク大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	9
	10	ガジャマダ大学	インドネシア	0	3	2	0	0	0	0
	11	バンドン工科大学	インドネシア	0	1	1	0	0	0	1
	12	プラピジャヤ大学 (デザイン工学科/エン지니어リングデザイン領域)	インドネシア	0	0	0	0	0	2	2
	13	ハノイ工科大学	ベトナム	0	1	2	0	0	0	0
	14	ホーチミン市工科大学	ベトナム	0	1	2	0	0	0	0
	15	インド工科大学マドラス校	インド							5
	16	華華大学	中国	0	2	3	0	0	0	0
	17	清華大学 (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	1
	18	協隆大学	韓国							5
	19	パルミア大学	アメリカ	2	0	2	0	0	1	1
	20	パルミエラ大学	フィンランド	0	0	2	0	1	0	0
	21	ラウライ大学	イタリア	1	0	0	0	0	0	0
	22	ポランドアカデミ-科学技術大学	ポ-ランド	2	4	2	2	5	13	5
	23	ウィーン工科大学	オーストリア	0	0	2	0	0	0	0
	24	モスクワ建築大学	ロシア	0	0	0	0	0	2	0
	25	スエズカナル大学 (非協定校)	エジプト	0	0	0	0	0	0	1
	26	スロバキア工科大学 (非協定校)	スロバキア	0	0	0	0	0	0	1
	27	国立中央大学 (非協定校)	台湾	0	0	0	0	0	0	1
	28	南開大学 (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	1
	29	ウダラマレーシア大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	2
	30	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	0	0	0	0	0	0	1
	31	ザバラガム工科大学	スリランカ	0	0	0	0	0	0	3
	32	スラバヤ工科大学	インドネシア	0	0	0	0	0	0	10
	33	スリジャヤダナプラコッチ大学	スリランカ	0	0	0	0	0	0	2
	34	ナコーンラーチャシーマー-ラーチャパット大学	タイ	0	0	0	0	0	0	4
	35	マレーシア工科大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	3
	36	リスボン新大学	ポルトガル	0	0	0	0	0	0	2
	37	国民大学	韓国	0	0	0	0	0	0	1
	38	東北大学	中国	0	0	0	0	0	0	7
39	モロトウ大学	スリランカ	0	0	0	0	0	0	1	
		小計	12	24	31	8	65	33	64	89
2	国際交流									
	1	キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	0	0	0	0	7	36	46
	2	スラナリー工科大学	タイ	0	0	0	0	0	0	0
	3	蘭山大学	中国	0	0	0	0	0	0	6
	4	協隆大学	韓国	8	0	0	0	8	0	4
	5	中央大学	韓国	0	0	0	0	8	0	0
	6	蘭山大学校	韓国	0	0	0	0	19	22	20
	7	蘭山大学校	韓国	0	0	0	0	24	34	33
	8	忠南大学校	韓国	0	0	0	0	0	5	2
	9	台湾科技大学	台湾	0	0	0	0	0	7	11
	10	雲龍大学	台湾						14	9
	11	北マレーシア大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	14
	12	マレーシア日本国領工務院	マレーシア	0	0	0	0	5	0	0
	13	マラ工科大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	10
	14	モスクワ建築大学	ロシア	12	0	10	0	10	0	9
	15	パリ-ベルグイル建築大学	フランス	8	0	0	0	8	0	11
	16	ラウライ大学	イタリア	0	10	0	20	0	20	23
	17	ポランドアカデミ-科学技術大学	ポ-ランド	0	0	0	0	0	8	10
	18	学科間型導入PEL (システム理工学部) ※複数大学を招へい	*	0	0	0	0	0	30	41
	19	ウィーン工科大学	オーストリア	0	0	0	0	0	0	17
	20	ガジャマダ大学	インドネシア	0	0	0	0	0	0	2
	21	ザバラガム工科大学	スリランカ	0	0	0	0	0	0	5
	22	シドニー工科大学	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	10
	23	ダナン大学工科大学	ベトナム	0	0	0	0	0	0	2
	24	チュラーロンコーン大学	タイ	0	0	0	0	0	0	4
	25	ハノイ工科大学	ベトナム	0	0	0	0	0	0	24
	26	プラピジャヤ大学	インドネシア	0	0	0	0	0	0	6
	27	プリンスンクラ大学	タイ	0	0	0	0	0	0	15
	28	蘭山科学技術大学校	韓国	0	0	0	0	0	0	9
	29	釜山国立大学	韓国	0	0	0	0	0	0	5
	30	国際イスラム大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	14
	31	暹日工業大学	タイ	0	0	0	0	0	0	2
	32	郵政電信工学院	ベトナム	0	0	0	0	0	0	10
33	モロトウ大学	スリランカ	0	0	0	0	0	0	5	
		小計	28	10	10	20	46	137	218	342
3	冬からサイエンスプラン									
	1	浙江工科大学	中国	0	0	0	0	0	10	10
	2	湖北工科大学	中国	0	0	0	0	0	9	10
	3	電子科技大学	中国	0	0	0	0	0	0	10
	4	西北工科大学	中国	0	0	0	0	0	0	10
	5	武漢理工科大学	中国	0	0	0	0	0	0	10
	6	インド工科大学マドラス校	インド	0	0	0	0	0	0	9
	7	アオ大学	インド	0	0	0	0	0	8	0
	8	スラナリー工科大学 (SUT)	タイ	0	0	0	0	0	0	10
	9	ワヤンバ大学	スリランカ	0	0	0	0	0	0	10
	10	マレーシア日本国領工務院	マレーシア	0	0	0	0	0	10	10
	11	中国科学院長春光学精密機械と物理研究所 (非協定校)	中国	0	0	0	0	0	0	3
	12	ウダラマレーシア大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	10
	13	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	9
	14	ラオス国立大学	ラオス	0	0	0	0	0	0	10
	15	麗守大学	台湾	0	0	0	0	0	0	10
16	国立華東大学	台湾	0	0	0	0	0	0	10	
		小計	0	0	0	0	0	37	79	122

## 留学生の受入人数（2010～2017）（続き）

表 2(3/3)

滞在期間	カテゴリ	国	2010	2011	202	2013	2014	2015	2016	2017		
4	その他プログラム(Intensive Program等)											
	1	モントレー工科大学	メキシコ	0	0	0	0	0	0	29	26	
	2	グアム大学	アメリカ	0	0	0	0	0	0	10	0	
	3	中国緑茶大学文化体験プログラム	中国	0	0	0	0	0	0	98	88	
	4	UTM/GOP 3Days	マレーシア	0	0	0	0	0	0	15	0	
	5	マレーシアアトラ大学	マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	16	
	6	その他									82	
		小計		0	0	0	0	0	0	152	211	
	5	その他（研究員研修プログラム(高校生プログラム等)）										
		1	International High School Internship Program (2週間高校生)	*	0	0	0	12	14	22	25	32
		2	白川実験教室さくらサイエンス・ハイスクールプログラム (JST) ※2017年度よりカウ ント対象外	*	0	0	0	0	0	385	451	
		小計		0	0	0	12	14	407	476	32	
	6	その他（研究員研修プログラム(1日滞在型)）										
		1	UTM Global Outreach Programme	マレーシア	0	0	0	0	0	10	42	0
		2	UTM Global Outreach Programme (MJIT)	マレーシア	0	0	0	0	0	20	0	0
		3	応隆大学校 (応用化学科)	韓国	0	0	0	0	0	13	0	0
		4	カラワク大学	マレーシア	0	0	0	0	0	14	0	0
5		中国文化大学 (応用化学科)	中国	0	0	0	0	0	17	0	0	
6		Rangsit University	タイ	0	0	0	0	0	0	25	0	
7		京田工業大学 (TNI) ※ (一社) 日・タイ経済協力協会主催のSSP協力	タイ	0	0	0	0	0	0	10	0	
8		Hops College 明治学院大学との共同PGM	アメリカ	0	0	0	0	0	0	10	0	
9		種子科技大学 (中国)	中国	0	0	0	0	0	0	40	0	
10		マレーシア日本国版工科院	マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	30	
11		その他									1	
	小計		0	0	0	0	0	74	127	31		
	合計		40	34	41	40	125	688	1116	827		
	累計		137	119	147	170	355	982	1445	1297		
	累計 (高校生プログラム・1日滞在型)		137	119	147	158	341	501	842	1234		







## 3.3 2019年度前期気づきアンケートの結果概要

はじめに

2019年度前期気づきアンケート（2年生以上）には5,647人が回答しました（表1）。

アンケートは履修登録と連動して、Scombを利用して実施しました。昨年度と比べて回答者数は同じ程度です。しかし、設問のなかには回答率の低いものもあります。設問毎の回答状況や、学部・学年別の回答状況は、別掲の

集計表や自由記述のまとめをご覧ください。また、ご連絡いただければエクセル形式で基礎データを提供します。学科等での分析にをしていただくようお願いします。

概要は以下の通りです。

## 1. 学生サービスの利用状況

## (1) 学生課・学事課（学業関連）

学業に関するサービスは「履修に関する相談」（51%）、「休講、補講・試験実施等授業に関する情報伝達」（40%）の利用が多いです。「TOEIC学内試験」（11%）は、昨年度より10ポイント以上少なくとも、「クラス担任への各種相談」と同程度になりました。

表2

	全学	工学部			システム理工学部			デザイン工学部			建築学部									
		2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生								
学生課・学事課 (学業)	I-1 履修に関する相談	50.8%	52.7%	53.5%	45.3%	53.7%	57.5%	58.5%	45.2%	48.5%	49.9%	49.1%	46.1%	36.5%	28.4%	38.1%	43.2%	51.9%	52.9%	50.9%
	I-2 休講、補講・試験実施等授業に関する情報伝達	40.0%	39.6%	40.8%	39.5%	39.5%	39.4%	39.9%	39.1%	40.0%	41.3%	39.4%	39.3%	47.4%	48.0%	50.0%	43.2%	36.7%	31.8%	41.6%
	I-3 休学・留年・転部などの相談	7.7%	6.9%	7.5%	8.9%	8.5%	6.7%	8.5%	10.3%	6.7%	7.5%	6.6%	5.8%	6.5%	5.9%	6.3%	7.4%	6.4%	7.6%	5.2%
	I-4 クラス担任への各種相談	10.9%	8.9%	9.7%	14.6%	10.5%	8.6%	7.7%	15.2%	11.9%	9.9%	12.5%	13.6%	16.4%	15.7%	19.8%	12.6%	5.0%	4.1%	5.8%
	I-5 各種資格に関する相談	4.4%	3.6%	4.0%	5.8%	4.2%	3.4%	3.4%	5.8%	4.7%	4.0%	4.3%	5.8%	5.0%	4.9%	4.0%	6.3%	4.4%	2.9%	5.8%
	I-6 TOEIC学内試験	11.1%	10.4%	7.7%	16.3%	11.0%	10.3%	6.5%	16.5%	11.5%	8.8%	9.5%	17.2%	10.5%	10.8%	9.5%	11.6%	11.1%	14.1%	8.1%
	複数回答	合計%	124.9%	122.2%	123.2%	130.3%	127.4%	125.8%	124.5%	132.0%	123.3%	121.3%	121.5%	127.9%	122.3%	113.7%	127.8%	124.2%	115.5%	113.5%
	回答数	5,087	1,690	1,859	1,538	2,972	826	1,020	1,326	1,324	455	475	394	395	116	161	118	396	193	203

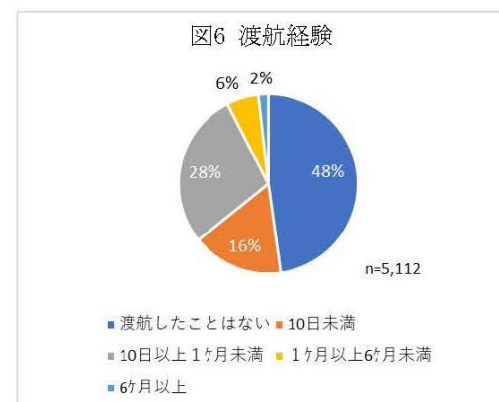
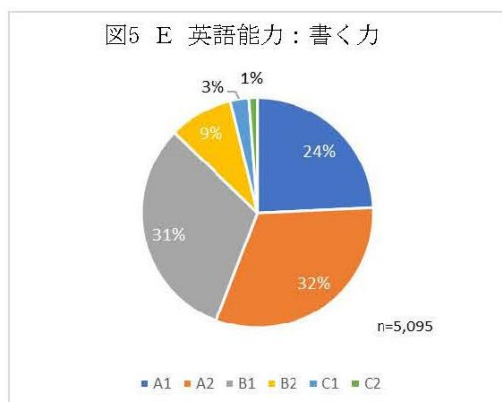
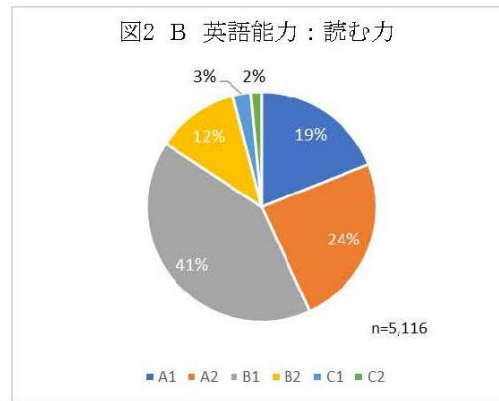
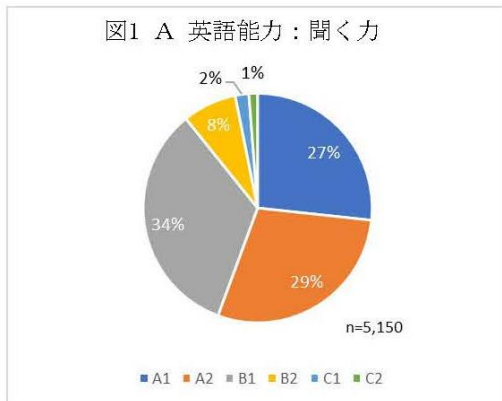
## 2. 英語の学習状況

### (1) CEFR自己評価 (図1～図5)

学生の英語能力をCEFR自己評価にみると、読む力や表現力に比べ、会話力が弱いです。読む力は41%、表現力は36%がTOEIC550点相当のB1だと評価しています(図1、4)。一方、会話力は10%の評価は低いです(図3)。

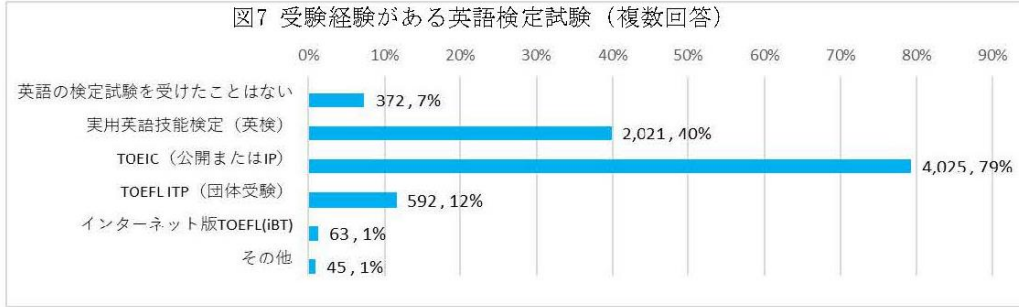
### (2) 渡航経験 (図6)

学生の48%は英語圏諸国への渡航経験はありません。また、渡航経験者の多くは短期で10日未満16%、10日以上1ヶ月未満28%です。1ヶ月以上の渡航経験者は8%です。



(3) 英語検定試験の受験状況 (図7)

8割の学生がTOEICテストを受けています(79%)。そして、実用英語技能検定は40%が受験しています。そのほかにTOEFLテスト ITP(団体受験)が12%などです。一方、今まで英語検定試験を受けたことがない学生も7%います。なお、実用英語検定試験(英検)で2級以上を答えた学生は749人いました。



3. 英語の学習状況

(1) 短期海外プログラムについて

<設問 21> 本学で用意している短期プログラム (語学研修、グローバルPBL、海外インターンシップ等) についてあてはまるものを一つ選んで下さい

表3

	全学				工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部			
	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生		
短期プログラム (1ヶ月未満)	A 既に参加したことがあり、再度の参加を検討している。	14.4%	13.4%	17.0%	12.3%	14.1%	12.8%	18.0%	11.2%	12.4%	14.0%	9.9%	13.7%	19.9%	16.0%	26.5%	16.2%	16.6%	13.1%	20.0%
	B 既に参加したことがあり、再度の参加を検討していない。	16.2%	6.7%	10.2%	25.4%	17.7%	6.4%	21.1%	25.8%	16.4%	8.9%	16.1%	25.5%	13.1%	5.8%	14.2%	21.4%	9.1%	5.0%	13.0%
	C 参加したことがなく、今後参加しようと思わずに検討している。	10.6%	16.5%	8.9%	5.3%	10.4%	16.6%	9.1%	5.5%	9.5%	15.6%	7.9%	4.1%	10.7%	12.8%	11.6%	6.8%	14.4%	20.8%	8.3%
	D 参加したことがなく、今後参加しようと思わずに検討している。	14.9%	23.6%	12.6%	7.1%	14.2%	24.2%	11.6%	6.9%	13.6%	19.8%	13.2%	6.6%	17.3%	27.6%	12.3%	10.3%	20.8%	25.8%	16.1%
	E 参加したことがなく、参加したいと思わずに検討しているが、諸々の事情で参加は難しそう。	12.8%	13.5%	13.5%	11.0%	11.8%	13.2%	12.0%	10.3%	12.8%	13.1%	14.5%	10.4%	15.2%	14.7%	12.9%	18.8%	16.4%	14.5%	18.3%
	F 参加したことがなく、参加は検討していない。	30.8%	26.1%	29.5%	38.5%	31.5%	26.8%	27.9%	40.0%	35.0%	29.4%	38.1%	38.7%	23.4%	23.1%	21.9%	25.6%	22.4%	20.4%	24.3%
	その他 自由記述	0.3%	0.1%	0.3%	0.4%	0.2%	0.0%	0.3%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%	0.8%	0.5%	0.0%	0.6%	0.9%	0.2%	0.5%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
回答数	5,005	1,765	1,815	1,425	2,879	959	976	944	1,247	429	454	384	428	158	155	117	451	221	230	

<設問 22> 設問 21 で C、D、E、F を選んだ方へ、参加を実現するための要因としてあてはまるものを全て選んで下さい

表4

	全学				工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部			
	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生	4年生	5年生	2年生	3年生		
参加(前)を 実現する ために 最も 当て はまる もの の	A 渡航費用につき、支払い条件が緩和されるなら参加を考慮(費用の分割払い・貸与奨学金等)。	25.2%	31.0%	24.9%	17.5%	25.0%	29.8%	26.5%	18.1%	19.2%	24.7%	17.9%	13.6%	28.8%	32.4%	28.2%	24.2%	39.1%	46.9%	30.6%
	B 渡航費用につき、支払い条件が緩和されたとしても、費用面の問題で参加できない。	11.0%	10.7%	11.3%	11.0%	11.0%	11.0%	12.0%	9.9%	10.3%	9.9%	8.6%	13.2%	10.9%	7.2%	13.7%	12.6%	13.2%	13.8%	12.6%
	C 部活やサークルとのスケジュール調整ができれば参加を考慮する。	12.2%	19.0%	11.0%	5.7%	12.5%	18.4%	11.7%	6.4%	11.7%	18.8%	9.9%	4.4%	11.2%	18.7%	8.1%	4.2%	12.9%	13.8%	12.0%
	D 研究とのスケジュール調整ができれば参加を考慮する。	6.2%	3.5%	4.3%	12.5%	6.8%	4.0%	4.7%	12.1%	5.7%	2.7%	4.0%	12.1%	8.7%	6.5%	4.8%	16.8%	2.1%	1.0%	3.3%
	E 就職活動とのスケジュール調整ができれば参加を考慮する。	8.7%	4.9%	10.9%	11.1%	8.1%	5.7%	9.6%	9.2%	9.9%	5.1%	11.5%	14.3%	10.9%	3.6%	14.5%	16.8%	7.1%	2.0%	12.6%
	F 現状両面に留学を反対されているが、両親の理解を得られれば参加を考慮する。	2.6%	2.9%	2.7%	2.1%	2.1%	2.8%	1.9%	1.6%	3.6%	3.5%	4.0%	3.3%	2.5%	2.9%	2.4%	2.1%	2.6%	2.0%	3.3%
	G 興味がない	32.0%	26.3%	32.6%	39.0%	32.7%	25.6%	32.0%	41.6%	37.3%	33.3%	40.9%	37.7%	24.3%	24.5%	25.0%	23.2%	20.3%	17.3%	23.5%
その他 自由記述	2.1%	2.7%	2.2%	1.1%	1.8%	2.7%	1.6%	1.1%	2.3%	1.9%	3.2%	1.5%	2.8%	4.3%	3.2%	0.0%	2.6%	3.1%	2.2%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
回答数	4,089	1,554	1,431	1,104	2,333	847	750	736	1,019	372	374	273	358	139	124	95	379	196	183	



<設問 23> 本学で実施しているグローバル化に関連した以下の取り組みの中で興味があるものを全て選んで下さい

表5

	全学	工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部					
		2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	2年生	3年生					
		23-1 外国人留学生との交流イベント(一日)	21.7%	22.1%	22.6%	20.0%	21.4%	20.6%	24.0%	19.6%	19.7%	23.1%	16.0%	20.2%	24.8%	22.5%	28.3%	23.3%	26.3%
23-2 外国人留学生との交流イベント(宿泊を伴う)	14.7%	14.5%	14.8%	15.1%	14.7%	15.1%	14.3%	14.6%	13.6%	11.7%	14.6%	14.5%	17.2%	14.6%	17.1%	20.7%	18.1%	17.2%	15.1%
23-3 海外で活躍するOBによる講演会	11.9%	10.9%	13.1%	11.5%	11.9%	10.1%	13.5%	12.0%	10.4%	10.4%	10.0%	10.8%	11.9%	11.9%	13.8%	9.5%	18.1%	14.8%	17.3%
23-4 毎日学べる英会話	15.3%	16.8%	14.1%	14.9%	14.5%	16.4%	12.2%	15.0%	14.6%	16.3%	13.9%	13.4%	18.9%	19.9%	17.8%	19.0%	18.7%	17.2%	20.0%
23-5 研究室英会話	9.4%	7.0%	9.2%	12.5%	10.2%	8.1%	9.9%	12.5%	8.5%	6.6%	7.2%	12.5%	7.4%	3.3%	7.2%	12.9%	8.5%	5.3%	11.6%
23-6 TOEIC特訓講座	18.8%	19.0%	17.6%	20.0%	18.8%	19.1%	17.0%	20.5%	17.7%	17.2%	17.4%	18.8%	20.8%	19.2%	22.4%	20.7%	19.6%	22.0%	17.3%
23-7 興味が無い	37.1%	35.1%	36.9%	39.7%	38.0%	36.0%	38.2%	39.8%	41.3%	39.1%	42.9%	41.8%	31.0%	35.1%	26.3%	31.9%	25.3%	23.4%	27.1%
23-8 その他自由記述	0.6%	0.6%	0.7%	0.6%	0.6%	0.4%	0.9%	0.7%	0.4%	0.2%	0.5%	0.6%	1.0%	1.3%	0.0%	0.7%	1.4%	0.0%	
複数回答 合計	129.5%	125.9%	129.0%	134.3%	130.1%	125.7%	130.0%	134.6%	126.1%	124.5%	122.5%	132.4%	132.9%	127.8%	134.2%	137.9%	131.3%	128.2%	134.2%
回答数	6,245	2,134	2,248	1,863	3,611	1,160	1,214	1,237	1,507	513	528	466	557	193	204	160	570	268	302

<設問 24> 理想の短期プログラムを一つ選んで下さい(渡航先)

表6

	全学	工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部					
		2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	2年生	3年生					
		24-1_米(本土)	35.5%	34.9%	35.6%	36.2%	37.7%	37.5%	37.4%	38.2%	34.5%	30.2%	38.7%	34.1%	28.5%	36.0%	24.1%	25.3%	31.4%
24-2_米(ハワイ・グアム)	15.8%	16.4%	14.6%	16.7%	15.6%	15.3%	15.9%	15.6%	17.1%	19.0%	14.9%	17.7%	18.8%	19.3%	15.8%	22.9%	11.2%	14.3%	8.5%
24-3_カナダ	8.2%	7.4%	9.3%	7.9%	7.3%	6.8%	7.4%	7.7%	8.3%	8.8%	7.3%	8.8%	10.0%	5.3%	16.5%	6.0%	12.1%	9.1%	14.7%
24-4_英国	14.9%	14.6%	16.3%	13.2%	12.8%	12.5%	13.4%	12.6%	16.5%	14.9%	18.9%	15.3%	16.7%	16.7%	19.5%	12.0%	21.1%	22.1%	20.3%
24-5_豪州	6.2%	6.4%	6.4%	5.7%	5.8%	5.1%	6.2%	6.1%	6.9%	9.5%	5.8%	5.2%	3.3%	2.6%	3.8%	3.6%	9.7%	9.1%	10.2%
24-6_タイ	3.9%	3.7%	4.2%	3.6%	4.2%	3.5%	5.1%	4.0%	2.4%	4.1%	1.5%	1.6%	6.4%	4.4%	8.3%	6.0%	3.0%	3.2%	2.8%
24-7_マレーシア	4.4%	6.1%	2.4%	4.8%	4.7%	7.4%	2.5%	4.0%	4.5%	4.7%	2.7%	6.4%	3.3%	5.3%	0.0%	6.0%	3.3%	3.2%	3.4%
24-8_ベトナム	2.6%	2.7%	2.8%	2.2%	3.2%	3.3%	4.6%	1.6%	2.6%	2.7%	1.5%	4.0%	1.2%	1.8%	0.8%	1.2%	0.3%	0.6%	0.0%
24-9_インドネシア	0.9%	1.0%	0.8%	1.0%	0.9%	1.3%	0.6%	0.7%	1.1%	1.0%	1.2%	1.2%	0.0%	1.5%	2.4%	0.3%	0.6%	0.0%	
24-10_インド	1.2%	0.9%	1.3%	1.6%	1.7%	1.2%	1.9%	1.9%	0.6%	0.3%	0.6%	0.8%	0.6%	0.0%	0.8%	1.2%	0.9%	1.3%	0.6%
24-11_その他	6.4%	5.9%	6.3%	7.2%	6.2%	6.1%	5.1%	7.3%	5.5%	4.7%	6.7%	4.8%	10.0%	8.8%	9.0%	13.3%	6.6%	5.2%	7.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	3,573	1,251	1,318	1,004	2,040	688	680	672	872	295	328	249	330	114	133	83	331	154	177

<設問 25> 理想の短期プログラムを一つ選んで下さい(期間)

表7

	全学	工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部					
		2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	2年生	3年生					
		1週間	21.2%	21.2%	21.3%	21.1%	22.3%	21.7%	23.6%	21.6%	20.8%	21.2%	20.9%	20.3%	23.8%	25.9%	25.4%	18.6%	12.8%
2週間	40.1%	42.9%	40.7%	35.9%	40.3%	43.8%	42.4%	34.5%	39.7%	40.3%	40.8%	37.4%	42.5%	45.7%	39.2%	43.0%	38.0%	41.2%	35.2%
3週間	11.2%	12.3%	10.1%	11.3%	10.9%	11.6%	9.0%	12.1%	10.8%	13.3%	9.8%	8.9%	10.5%	9.5%	10.8%	11.6%	15.2%	15.7%	14.8%
4週間	27.5%	23.6%	27.8%	31.7%	26.5%	22.9%	25.0%	31.8%	28.8%	25.3%	28.5%	33.3%	23.2%	19.0%	24.6%	26.7%	24.0%	27.5%	39.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	3,566	1,253	1,311	1,002	2,040	691	679	670	865	293	326	246	154	64	50	40	329	153	176

<設問 26> 理想の短期プログラムを一つ選んで下さい(内容)

表8

	全学	工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部					
		2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	4年生	2年生	3年生	2年生	3年生					
		語学研修(コミュニケーション重視)	40.7%	44.4%	39.2%	38.1%	40.7%	43.6%	39.5%	39.0%	39.9%	44.0%	39.2%	35.9%	39.7%	48.1%	34.0%	37.0%	43.7%
語学研修(論文の構成・ライティングなど重視)	3.5%	3.2%	3.6%	3.8%	3.6%	3.2%	3.2%	4.5%	3.4%	2.8%	4.7%	2.3%	3.4%	3.8%	3.4%	2.8%	3.3%	3.8%	3.0%
語学研修(ビジネス系)	4.4%	4.5%	4.6%	4.1%	4.5%	4.5%	5.2%	3.9%	5.3%	6.2%	4.2%	5.7%	3.1%	3.0%	4.1%	1.9%	3.1%	2.7%	3.4%
語学研修(理工系)	16.8%	16.9%	17.0%	16.5%	18.0%	17.6%	19.0%	17.3%	19.0%	19.6%	20.3%	16.8%	9.0%	11.3%	6.8%	9.3%	11.6%	12.9%	10.3%
グローバルFBL(専門に関連したテーマについて、協定校学生と協力して課題解決提案を行うもの)	13.1%	9.8%	14.1%	15.6%	12.9%	10.5%	14.1%	14.2%	10.7%	6.7%	10.1%	16.1%	20.9%	13.5%	24.5%	25.0%	12.3%	10.2%	14.3%
グローバルFBL(特定の専門分野に特化しない学際的な内容のもの)	3.3%	3.4%	2.8%	3.6%	2.7%	3.3%	1.8%	3.1%	4.0%	4.2%	3.4%	4.7%	4.9%	3.8%	6.1%	4.6%	2.8%	2.2%	3.4%
スタディーツアー(体験学習や現地の人々との交流を通じ、技術、社会制度、文化の理解を目的とするもの)	3.5%	3.0%	3.9%	3.5%	3.5%	2.7%	4.7%	3.1%	2.4%	2.2%	1.6%	3.7%	2.6%	2.3%	0.7%	5.6%	6.9%	6.5%	7.4%
インターンシップ	4.1%	2.8%	5.1%	4.6%	4.1%	3.0%	4.7%	4.5%	4.0%	2.0%	5.5%	4.7%	4.9%	3.8%	6.1%	4.6%	4.1%	2.7%	5.4%
ボランティア	3.7%	4.1%	2.9%	4.3%	2.9%	3.0%	1.8%	4.0%	4.9%	6.4%	3.4%	5.0%	3.4%	2.3%	3.4%	4.6%	5.9%	5.9%	5.9%
文化体験	6.9%	7.7%	6.8%	5.9%	7.0%	8.7%	6.0%	6.4%	6.3%	5.9%	7.8%	5.0%	8.2%	8.3%	10.9%	4.6%	6.2%	7.0%	5.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	4,259	1,484	1,567	1,208	2,442	808	832	802	1,040	357	385	288	368	133	147	108	389	186	203



<設問 27> 理想の短期プログラム (宿泊形態)

表9

理想の短期プログラム	学生寮 ホテル ホームステイ その他	全学				工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部	
		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生
		29.2%	26.2%	29.4%	30.2%	29.2%	26.2%	29.8%	31.9%	29.9%	26.7%	32.8%	30.0%	21.8%	26.3%	20.6%	17.8%	26.9%	25.5%
学生寮	28.5%	26.2%	29.4%	30.2%	29.2%	26.2%	29.8%	31.9%	29.9%	26.7%	32.8%	30.0%	21.8%	26.3%	20.6%	17.8%	26.9%	25.5%	28.0%
ホテル	41.0%	42.8%	42.7%	36.7%	41.8%	43.2%	45.7%	36.5%	39.2%	45.0%	40.1%	31.2%	51.2%	46.6%	53.7%	53.3%	30.4%	33.3%	28.0%
ホームステイ	28.6%	29.5%	26.3%	30.6%	27.2%	28.9%	23.3%	29.4%	28.2%	26.3%	24.3%	35.6%	25.0%	26.3%	23.5%	25.6%	42.1%	40.5%	43.4%
その他	1.9%	1.6%	1.6%	2.6%	1.8%	1.7%	1.3%	2.2%	2.6%	2.0%	2.7%	3.2%	2.0%	0.8%	2.2%	3.3%	0.6%	0.7%	0.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	3,613	1,263	1,339	1,011	2,065	692	692	671	879	300	329	250	344	118	136	90	335	153	182

<設問 28> 理想の短期プログラム (自己負担金額)

表10

理想の短期プログラム	自己負担金額	全学				工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部	
		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生
		21.7%	18.5%	21.7%	25.9%	21.6%	18.6%	22.9%	23.3%	22.9%	20.3%	18.9%	31.1%	29.9%	25.8%	33.1%	30.7%	10.9%	8.4%
~5万円	21.7%	18.5%	21.7%	25.9%	21.6%	18.6%	22.9%	23.3%	22.9%	20.3%	18.9%	31.1%	29.9%	25.8%	33.1%	30.7%	10.9%	8.4%	13.0%
~10万円	26.9%	23.6%	28.8%	28.6%	28.0%	23.9%	31.2%	28.8%	25.3%	21.4%	28.7%	25.5%	32.3%	33.3%	29.4%	35.2%	19.0%	18.8%	19.2%
~15万円	17.7%	17.4%	18.8%	16.6%	17.8%	17.6%	18.5%	17.2%	18.6%	18.3%	22.0%	14.7%	17.2%	19.2%	15.4%	17.0%	15.4%	13.6%	16.9%
~20万円	14.6%	16.7%	12.8%	14.3%	14.4%	17.2%	10.1%	16.0%	13.7%	16.9%	12.5%	11.6%	8.7%	10.0%	7.4%	9.1%	24.2%	19.5%	28.2%
~25万円	5.4%	6.5%	5.3%	4.0%	4.7%	5.2%	4.9%	4.0%	6.5%	8.5%	6.4%	4.4%	4.7%	3.3%	7.4%	2.3%	6.9%	11.0%	3.4%
~30万円	7.7%	10.7%	6.1%	6.1%	7.6%	10.3%	5.9%	6.7%	7.6%	10.2%	6.4%	6.0%	3.5%	5.0%	2.9%	2.3%	12.7%	17.5%	8.5%
~40万円	3.5%	3.8%	4.1%	2.4%	3.2%	3.9%	3.9%	1.6%	3.1%	2.7%	2.4%	4.4%	2.6%	1.7%	3.7%	2.3%	7.9%	7.1%	8.5%
~50万円	1.6%	2.1%	1.3%	1.5%	1.7%	2.6%	1.0%	1.5%	1.5%	1.0%	1.8%	1.6%	0.6%	0.8%	0.0%	1.1%	2.7%	3.2%	2.3%
~60万円	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
~70万円	0.7%	0.5%	0.9%	0.6%	0.7%	0.3%	1.2%	0.6%	0.8%	0.7%	0.9%	0.8%	0.6%	0.8%	0.7%	0.0%	0.3%	0.6%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	3,602	1,256	1,334	1,012	2,063	687	693	673	874	295	328	251	344	120	136	88	331	154	177

(2) 長期海外プログラムについて

<設問 30> 長期 (1セメスター以上) の留学についてあてはまるもの

表11

長期プログラム (1セメスター以上)	A 既に参加したことがある。 B 参加したことがなく、今後参加しようと思っており検討している。 C 参加したことがなく、今後参加しようと思ったり検討している。 D 参加したことがなく、参加したいと思っているが、諸々の事情で参加は難しい。 E 参加したことがなく、参加は検討していない。 その他 自由記述	全学				工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部	
		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生
		3.4%	2.5%	3.9%	3.7%	3.8%	2.6%	5.2%	3.4%	2.6%	1.3%	2.7%	4.2%	2.5%	2.2%	1.4%	4.5%	3.5%	4.3%
A	3.4%	2.5%	3.9%	3.7%	3.8%	2.6%	5.2%	3.4%	2.6%	1.3%	2.7%	4.2%	2.5%	2.2%	1.4%	4.5%	3.5%	4.3%	2.8%
B	7.8%	8.8%	7.7%	6.6%	6.7%	6.8%	7.0%	6.3%	8.5%	11.7%	6.1%	7.7%	8.0%	7.2%	10.1%	6.3%	12.4%	13.0%	11.8%
C	12.8%	16.0%	11.6%	10.5%	12.0%	16.2%	9.7%	10.3%	11.7%	11.4%	13.1%	10.2%	14.8%	15.1%	16.2%	12.6%	18.7%	25.0%	13.3%
D	17.0%	16.6%	17.8%	16.4%	17.6%	17.5%	18.6%	16.5%	15.7%	15.3%	15.3%	16.6%	15.6%	17.3%	14.2%	15.3%	18.5%	14.7%	21.8%
E	58.4%	55.3%	58.3%	62.3%	59.2%	56.1%	58.6%	62.8%	60.7%	58.7%	62.0%	61.3%	58.8%	58.3%	57.4%	61.3%	46.6%	42.4%	50.2%
その他	0.7%	0.9%	0.7%	0.5%	0.8%	0.8%	0.8%	0.7%	0.8%	1.6%	0.7%	0.0%	0.3%	0.0%	0.7%	0.0%	0.3%	0.5%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答数	4,466	1,548	1,650	1,268	2,564	840	880	844	1,109	385	411	313	398	139	148	111	395	184	211

<設問 31> 設問 30 で C、D、E、F を選んだ方。どのような条件が満たされれば参加するか。

表12

参加のための条件 (前の設問で B・C・D・E を選んだ方)	全学				工学部				システム理工学部				デザイン工学部				建築学部		
	2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	4年生		2年生	3年生	
	16.9%	17.1%	18.6%	14.5%	17.0%	16.8%	20.4%	13.7%	14.4%	15.2%	11.4%	17.3%	15.0%	14.8%	16.2%	13.5%	25.2%	23.8%	26.5%
31-1 協定校での取得単位が本学の単位に換算され、休学をせずに渡航できるなら検討する	16.9%	17.1%	18.6%	14.5%	17.0%	16.8%	20.4%	13.7%	14.4%	15.2%	11.4%	17.3%	15.0%	14.8%	16.2%	13.5%	25.2%	23.8%	26.5%
31-2 今の自分の英語力に自信がないが、今後英語力が高まれば渡航を検討する	27.3%	34.1%	26.4%	20.3%	26.5%	35.1%	23.7%	20.9%	25.4%	30.7%	26.3%	18.2%	29.4%	32.8%	32.4%	21.2%	35.6%	37.6%	33.8%
31-3 就職活動と重なり参加できない、スケジュールがあえば検討したい。	12.8%	5.5%	14.5%	19.2%	12.6%	4.8%	13.9%	18.8%	12.4%	6.4%	13.4%	18.2%	16.8%	7.0%	19.7%	25.0%	11.2%	6.1%	15.7%
31-4 研究のスケジュールと合わず参加できない、指導教員と調整ができれば検討したい。	7.7%	4.3%	6.2%	13.7%	8.2%	4.4%	6.1%	14.2%	8.3%	5.5%	6.8%	13.4%	6.1%	3.1%	5.6%	10.6%	4.4%	2.2%	6.4%
31-5 興味が無い	43.6%	42.5%	43.8%	44.7%	44.6%	43.2%	44.8%	45.9%	46.5%	45.6%	48.7%	44.6%	39.8%	44.5%	38.7%	35.8%	33.0%	32.0%	33.8%
31-6 その他	1.9%	2.0%	2.3%	1.3%	1.9%	1.6%	2.6%	1.6%	1.9%	3.0%	1.8%	0.7%	2.1%	1.6%	3.5%	1.0%	1.8%	2.2%	1.5%
複数回答	110.2%	105.6%	111.9%	113.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	108.8%	106.4%	108.3%	112.4%	109.4%	103.9%	116.2%	106.7%	111.2%	103.9%	117.6%
回答数	4,774	1,569	1,791	1,414	2,507	815	859	833	1,159	385	429	345	409	133	165	111	428	188	240

3.4 SGU フォローアップ調査

スーパーグローバル大学創成支援(R1年度分 文科省提出用調査)  
 学内クォーター調査 (2019年度通年・2020年5月1日時点)

目標の進捗状況

2019年度通年・2020年度(5月1日時点)状況 オレンジ色セルが今回対象箇所

表 1(1/8)

1. 国際化関連 (1) 多様性													進捗状況
①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合【必須】													
	平成25年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)		令和2年 (2020.5.1)		令和3年 (2021.5.1)	令和4年 (2022.5.1)	令和5年度 (2023.5.1)
		実績値			実績値			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
外国人教員等(A)	81人	86人	89人	97人	94人	110人	129人	118人	143人	128人	137人	158人	180人
うち外国籍教員	7人	6人	6人	14人	15人	25人	20人	37人	22人	42人	30人	人	30人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	22人	25人	23人	22人	21人	25人	34人	23人	37人	26人	32人	38人	45人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究経験のある日本人教員	44人	48人	51人	53人	50人	51人	60人	51人	66人	50人	60人	70人	80人
うち外国で通算3年以上の教育研究経験のある日本人教員	8人	7人	9人	8人	8人	9人	15人	7人	19人	10人	15人	20人	25人
全専任教員数(B)	301人	301人	307人	327人	320人	334人	300人	308人	300人	312人	300人	300人	300人
割合(A/B)	26.9%	28.6%	29.0%	29.7%	29.4%	32.9%	43.0%	38.3%	47.7%	41.0%	45.7%	#DN/0%	60.0%

外国籍の教員、外国の大学で学位を取得した日本人教員、外国で1年以上または3年以上の教育研究経験のある日本人教員について、それぞれの数と全専任教員数を記入する。

1. 国際化関連 (1) 多様性													進捗状況
②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合【必須】													
	平成25年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)		令和2年 (2020.5.1)		令和3年 (2021.5.1)	令和4年 (2022.5.1)	令和5年度 (2023.5.1)
		実績値			実績値			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
外国人職員等(A)	21人	13人	16人	22人	22人	22人	40人	24人	45人	25人	38人	人	60人
うち外国籍職員	1人	1人	2人	2人	3人	1人	6人	2人	7人	3人	5人	7人	10人
うち外国の大学で学位を取得した日本人職員	3人	3人	4人	3人	5人	6人	7人	7人	7人	7人	8人	9人	10人
うち外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員	17人	9人	10人	17人	14人	15人	27人	15人	31人	15人	23人	31人	40人
全専任職員数(B)	161人	175人	180人	178人	185人	189人	180人	186人	180人	180人	180人	0人	180人
割合(A/B)	13.0%	7.4%	8.9%	12.4%	11.9%	11.6%	22.2%	12.9%	25.0%	13.9%	20.0%	#DN/0%	33.3%

外国籍の職員、外国の大学で学位を取得した日本人職員、外国で1年以上の職務・研修経験のある日本人職員について、それぞれの数と全専任職員数を記入する。

1. 国際化関連 (1) 多様性													進捗状況
③教職員に占める女性の比率【選択】													
	平成25年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)		令和2年 (2020.5.1)		令和3年 (2021.5.1)	令和4年 (2022.5.1)	令和5年度 (2023.5.1)
		実績値			実績値			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
女性教員(A)	28人	31人	37人	44人	48人	59人	60人	63人	65人	65人	70人	75人	80人
全専任教員数(B)	301人	301人	307人	327人	320人	334人	300人	308人	300人	312人	300人	300人	300人
割合(A/B)	8.6%	10.3%	12.1%	13.5%	15.0%	17.7%	20.0%	20.5%	21.7%	20.8%	23.3%	#DN/0%	26.7%
女性職員(C)	78人	79人	81人	78人	88人	85人	90人	80人	90人	79人	82人	86人	90人
全専任職員数(D)	161人	175人	180人	178人	185人	189人	180人	186人	180人	180人	180人	0人	180人
割合(C/D)	48.4%	45.1%	45.0%	43.8%	47.5%	45.0%	50.0%	43.0%	50.0%	43.9%	45.6%	#DN/0%	50.0%

女性教員、女性職員の数を記入する。

表 1(2/8)

1. 国際化関連 (1) 多様性														進捗状況	
④ 全学生に占める外国人留学生の割合(必須)															
	平成26年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.05.1)		令和2年 (2020.05.1)		令和3年 (2021.05.1)		令和4年 (2022.05.1)		令和5年度 (2023.5.1)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
外国人留学生数(A)	110人	156人	199人	232人 (34人)	322人 (90人)	422人 (118人)	1,160人	550人 (175人)	1,800人	472人 (116人)	1,840人	人	2,180人	人	2,520人
うち在留資格が「留学」の者 (うち女性)	108人	154人	198人	229人 (34人)	313人 (86人)	410人 (114人)	464 960人	537 167人	600人	453人 (113人)	650人	人	829人	人	1,008 2,220人
うち在留資格が「留学」以外の者 (うち女性)	2人	2人	1人	6人 (0人)	9人 (2人)	12人 (4人)	696 260人	13 8人	900人	9人 (3人)	504人	人	1,008人	人	1,512 660人
全学生数(B)	8,420人	8,521人	8,409人	8,474人 (1,286人)	8,837人 (1,428人)	9,000人 (1,658人)	9,200人	9,241人 (1,875人)	9,301人	9,228人 (1,885人)	9,351人	人	9,475人	人	9,600人
割合(A/B)	1.3%	1.8%	2.4%	2.7%	3.6%	4.7%	12.6%	6.0%	16.1%	5.1%	19.7%	#DIV/0!	23.0%	#DIV/0!	26.3%
	平成26年度 (2013年度) (通年)	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)		令和2年 (2020年度) (通年)		令和3年 (2021年度) (通年)		令和4年 (2022年度) (通年)		令和5年度 (2023年度) (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
外国人留学生数(C)	123人	361人	501人	842人 (393人)	1,297人 (518人)	1,490人 (815人)	1,360人	1,590人 (615人)	1,900人	0人 (0人)	2,206人	0人 (0人)	2,512人	0人 (0人)	2,820人
うち在留資格が「留学」の者 (うち女性)	121人	228人	294人	329人 (107人)	470人 (155人)	555人 (385人)	544 960人	750人 (231人)	845人	人	939人	人	1,003人	人	1,128 2,220人
うち在留資格が「留学」以外の者 (うち女性)	2人	133人	207人	513人 (286人)	827人 (360人)	935人 (420人)	816 460人	940人 (384人)	1,128人	人	1,316人	人	1,504人	人	1,692 660人
全学生数(D)	8,420人	8,521人	8,409人	8,474人 (1,286人)	8,837人 (1,428人)	9,000人 (1,658人)	9,200人	9,241人 (1,875人)	9,301人	人	9,351人	人	9,475人	人	9,600人
割合(C/D)	1.5%	4.2%	6.0%	9.9%	14.7%	16.6%	14.8%	18.3%	20.4%	#DIV/0!	23.6%	#DIV/0!	26.5%	#DIV/0!	29.4%

外国人留学生のうち、在留資格が「留学」の者に、「留学」の在留資格を有さない短期留学生等の数を記入する。

1. 国際化関連 (2) 流動性														進捗状況	
① 日本人学生に占める留学経験者の割合(必須)															
	平成26年度 (2013年度) (通年)	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)		令和2年 (2020年度) (通年)		令和3年 (2021年度) (通年)		令和4年 (2022年度) (通年)		令和5年度 (2023年度) (通年)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
単位取得を伴う海外留学経験者数(A)	138人	252人	358人	875人 (199人)	1,046人 (249人)	1,373人 (324人)	1,600人	1,455人 (314人)	1,765人	0人 (0人)	2,076人	0人 (0人)	2,368人	0人 (0人)	2,700人
うち学部(B)	114人	225人	331人	827人 (192人)	930人 (234人)	1,241人 (311人)	1,005人	1,309人 (299人)	1,431人	人	1,554人	人	1,677人	人	1,800人
うち大学院(C)	24人	27人	27人	48人 (7人)	116人 (15人)	132人 (13人)	595人	146人 (15人)	334人	人	522人	人	711人	人	900人
全学生数(D)	8,281人	8,334人	8,171人	8,178人 (1,201人)	8,487人 (1,286人)	8,843人 (1,434人)	8,040人	8,824人 (1,482人)	8,012人	8,687人 (1,585人)	7,964人	0人 (0人)	7,957人	0人 (0人)	7,080人
うち学部(E)	7,401人	7,432人	7,257人	7,281人 (1,129人)	7,482人 (1,216人)	7,649人 (1,306人)	6,850人	7,856人 (1,348人)	6,850人	7,728人 (1,429人)	6,850人	人	6,850人	人	6,000人
うち大学院(F)	880人	902人	914人	897人 (78人)	985人 (108人)	985人 (129人)	1,190人	968人 (134人)	1,162人	859人 (127人)	1,134人	人	1,107人	人	1,080人
割合(A/D)	1.7%	3.0%	4.4%	10.7%	12.4%	16.1%	19.9%	16.9%	22.0%	0.0%	26.0%	#DIV/0!	30.0%	#DIV/0!	38.1%
割合(B/E)	1.5%	3.0%	4.6%	11.4%	12.4%	16.4%	14.7%	17.1%	20.9%	0.0%	22.7%	#DIV/0!	24.5%	#DIV/0!	30.0%
割合(C/F)	2.7%	3.0%	3.0%	5.4%	11.8%	13.3%	50.0%	15.1%	28.7%	0.0%	46.0%	#DIV/0!	64.2%	#DIV/0!	83.3%
教員の指導の下、3ヶ月以上研究開発された大学院生数(G)	8人	3人	5人	10人	9人	12人	9人	9人	52人	0人	96人	0人	140人	0人	184人
割合(G/F)	0.9%	0.3%	0.5%	1.1%	0.9%	1.2%	7.9%	0.9%	4.5%	0.0%	8.5%	#DIV/0!	12.6%	#DIV/0!	17.0%

全学生数と、日本国籍を保持し正規課程に在籍する学生で、かつ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。  
また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究開発された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。



表 1(3/8)

1. 国際化関連 (2) 流動性 ② 大学間協定に基づく交流数【必須】													進捗 状況		
	平成25年度 (2013年度) (通年)	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)		令和2年 (2020年度) (通年)		令和3年 (2021年度) (通年)		令和4年 (2022年度) (通年)		令和5年度 (2023年度) (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
大学間協定に基づく派遣日本人学生数(A)	303人	382人	545人	970人 (216人)	1,025人 (247人)	1,364人 (339人)	1,300人	1,345人 (280人)	1,532人	0人 (0人)	1,787人	0人 (0人)	2,043人	0人 (0人)	2,300人
うち単位取得を伴う学部生数 (うち女性)	114人	164人	262人	817人 (190人)	910人 (223人)	1,227人 (311人)	800人	1,266人 (273人)	1,200人	0人 (0人)	1,200人	0人 (0人)	1,200人	0人 (0人)	1,200人
うち単位取得を伴わない学部生数 (うち女性)	151人	162人	221人	47人 (12人)	23人 (6人)	31人 (15人)	200人	0人 (0人)	75人	0人 (0人)	150人	0人 (0人)	225人	0人 (0人)	300人
うち単位取得を伴う大学院生数 (うち女性)	24人	27人	24人	59人 (8人)	66人 (11人)	62人 (8人)	400人	71人 (7人)	213人	0人 (0人)	355人	0人 (0人)	497人	0人 (0人)	640人
うち単位取得を伴わない大学院生数 (うち女性)	14人	29人	38人	47人 (17人)	26人 (5人)	44人 (15人)	100人	6人 (0人)	44人	0人 (0人)	82人	0人 (0人)	121人	0人 (0人)	180人
全学生数(B)	8,420人	8,521人	8,409人	8,474人 (1,885人)	8,837人 (1,458人)	9,000人 (1,658人)	9,200人	9,241人 (1,873人)	9,301人	0人 (0人)	9,351人	0人 (0人)	9,476人	0人 (0人)	9,800人
割合(A/B)	3.6%	4.5%	6.5%	11.4%	11.6%	15.2%	14.1%	14.6%	16.5%	#DIV/0!	19.1%	#DIV/0!	21.6%	#DIV/0!	24.0%
大学間協定に基づき受入外国人留学生数(C)	72人	135人	261人	475人 (214人)	924人 (379人)	1,079人 (461人)	1,150人	1,222人 (494人)	1,270人	0人 (0人)	1,833人	0人 (0人)	1,996人	0人 (0人)	2,380人
うち単位取得を伴う学部生数 (うち女性)	21人	0人	10人	56人 (23人)	143人 (58人)	184人 (62人)	920人	247人 (97人)	485人	0人 (0人)	723人	0人 (0人)	961人	0人 (0人)	1,200人
うち単位取得を伴わない学部生数 (うち女性)	0人	106人	181人	290人 (132人)	504人 (210人)	612人 (282人)	320人	771人 (327人)	480人	0人 (0人)	480人	0人 (0人)	480人	0人 (0人)	480人
うち単位取得を伴う大学院生数 (うち女性)	48人	8人	39人	11人 (4人)	96人 (32人)	66人 (17人)	250人	80人 (22人)	205人	0人 (0人)	330人	0人 (0人)	455人	0人 (0人)	580人
うち単位取得を伴わない大学院生数 (うち女性)	3人	21人	31人	118人 (55人)	181人 (81人)	237人 (100人)	80人	124人 (48人)	100人	0人 (0人)	100人	0人 (0人)	100人	0人 (0人)	100人
全学生数(D)															
割合(C/D)															

外国の大学との連携・交流協定に基づき交流する/した学生数を記入する。  
また、日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

1. 国際化関連 (4) 語学力関係 ① 外国語による授業科目数・割合【必須】													進捗 状況		
	平成25年度 (2013年度) (通年)	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)		令和2年 (2020年度) (通年)		令和3年 (2021年度) (通年)		令和4年 (2022年度) (通年)		令和5年度 (2023年度) (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
外国語による授業科目数(A)	75科目	104科目	129科目	271科目	323科目	340科目	382科目	932科目	963科目	0科目	1,064科目	0科目	1,164科目	0科目	1,264科目
うち学部(B)	4科目	30科目	45科目	148科目	477科目	512科目	500科目	701科目	731科目	0科目	762科目	0科目	793科目	0科目	824科目
うち大学院(C)	71科目	74科目	84科目	123科目	446科目	426科目	382科目	231科目	263科目	0科目	335科目	0科目	367科目	0科目	440科目
英語による授業科目数(D)	75科目	104科目	129科目	271科目	323科目	340科目	382科目	932科目	963科目	0科目	1,064科目	0科目	1,164科目	0科目	1,264科目
うち学部	4科目	30科目	45科目	148科目	477科目	512科目	500科目	701科目	731科目	0科目	762科目	0科目	793科目	0科目	824科目
うち大学院	71科目	74科目	84科目	123科目	446科目	426科目	382科目	231科目	263科目	0科目	335科目	0科目	367科目	0科目	440科目
全授業科目数(E)	4,121科目	4,082科目	4,140科目	4,269科目	4,842科目	4,738科目	5,570科目	4,008科目	3,415科目	0科目	3,260科目	0科目	3,105科目	0科目	2,950科目
うち学部(F)	3,479科目	3,450科目	3,484科目	3,588科目	4,057科目	4,001科目	2,920科目	3,507科目	3,231科目	0科目	2,954科目	0科目	2,877科目	0科目	2,400科目
うち大学院(G)	642科目	632科目	656科目	683科目	785科目	737科目	650科目	499科目	511科目	0科目	524科目	0科目	537科目	0科目	550科目
割合(A/E)	1.8%	2.5%	3.1%	6.3%	19.1%	19.8%	24.1%	23.3%	28.2%	#DIV/0!	32.6%	#DIV/0!	37.5%	#DIV/0!	42.8%
割合(B/F)	0.1%	0.9%	1.3%	4.1%	11.8%	12.8%	17.1%	20.0%	22.6%	#DIV/0!	25.8%	#DIV/0!	29.6%	#DIV/0!	34.3%
割合(C/G)	11.1%	11.7%	12.8%	18.0%	58.8%	58.1%	55.7%	46.3%	55.4%	#DIV/0!	83.9%	#DIV/0!	72.1%	#DIV/0!	80.0%
割合(D/E)	1.8%	2.5%	3.1%	6.3%	19.1%	19.8%	24.1%	23.3%	28.2%	#DIV/0!	32.6%	#DIV/0!	37.5%	#DIV/0!	42.8%

外国語及び英語による授業科目数と全授業科目数を記入する(語学としての授業を除く)。  
なお、外国語(または英語)による授業科目とは、全授業を日本語ではなく外国語(または英語)で実施する授業科目とする。  
また、同一の授業科目で複数セッションが取られている場合は、それぞれ独立した授業科目として数に含める。



表 1(4/8)

1. 国際化関連 (4) 語学力関係													進捗状況
② 外国語のみで卒業できるコースの教時【必須】													
	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年 (2019年度)	令和2年 (2020年度)	令和3年 (2021年度)	令和4年 (2022年度)	令和5年 (2023年度)	令和6年 (2024年度)	令和7年 (2025年度)	進捗状況
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	進捗状況
外国語のみで卒業できるコースの設置数(A)	8 コース	8 コース	8 コース	8 コース	9 コース	9 コース	16 コース	9 コース	19 コース	9 コース	22 コース	25 コース	28 コース
うち学部(B)	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	9 コース	0 コース	6 コース	12 コース	18 コース
うち大学院(C)	8 コース	8 コース	8 コース	8 コース	9 コース	9 コース	10 コース	9 コース	10 コース	9 コース	9 コース	9 コース	10 コース
全学舎コースの設置数(D)	34 コース	34 コース	34 コース	34 コース	34 コース	33 コース	42 コース	33 コース	45 コース	33 コース	48 コース	51 コース	54 コース
うち学部(E)	17 コース	17 コース	17 コース	17 コース	16 コース	16 コース	23 コース	16 コース	26 コース	16 コース	22 コース	28 コース	25 コース
うち大学院(F)	17 コース	17 コース	17 コース	17 コース	18 コース	17 コース	19 コース	17 コース	19 コース	17 コース	17 コース	18 コース	19 コース
割合(A/D)	23.5 %	23.5 %	23.5 %	23.5 %	26.5 %	27.3 %	38.1 %	27.3 %	42.2 %	27.3 %	45.8 %	#DIV/0 %	51.9 %
割合(B/E)	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	26.1 %	0.0 %	34.6 %	0.0 %	27.3 %	#DIV/0 %	51.4 %
割合(C/F)	47.1 %	47.1 %	47.1 %	47.1 %	50.0 %	52.9 %	52.9 %	52.9 %	52.6 %	52.9 %	52.9 %	#DIV/0 %	52.6 %
外国語のみで卒業できるコースの在籍生数(G)	34 人	34 人	46 人	965 人	1,070 人	1,109 人	1,150 人	1,053 人	1,433 人	1,080 人	1,480 人	1,880 人	2,280 人
うち学部(H)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	150 人	0 人	225 人	0 人	150 人	300 人	450 人
うち大学院(I)	34 人	34 人	46 人	965 人	1,070 人	1,109 人	1,000 人	1,053 人	1,208 人	1,080 人	1,330 人	1,580 人	1,830 人
全学生数(J)	8,420 人	8,521 人	8,409 人	8,474 人	8,837 人	9,000 人	9,200 人	9,241 人	9,301 人	9,226 人	9,351 人	9,475 人	9,600 人
うち学部(K)	7,481 人	7,556 人	7,414 人	7,466 人	7,708 人	7,832 人	7,880 人	8,131 人	7,703 人	8,090 人	7,984 人	7,877 人	7,770 人
うち大学院(L)	939 人	965 人	995 人	1,008 人	1,128 人	1,168 人	1,320 人	1,110 人	1,598 人	1,136 人	1,367 人	1,598 人	1,830 人
割合(G/J)	0.4 %	0.4 %	0.5 %	11.4 %	12.1 %	12.3 %	12.5 %	11.4 %	15.4 %	11.7 %	15.6 %	#DIV/0 %	23.8 %
割合(H/K)	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	2.0 %	0.0 %	2.9 %	0.0 %	1.9 %	#DIV/0 %	5.8 %
割合(L/L)	3.5 %	3.5 %	4.6 %	95.7 %	94.8 %	94.9 %	95.8 %	94.9 %	75.6 %	95.1 %	97.3 %	#DIV/0 %	100.0 %

外国語のみで卒業できるコースの設置数、全学舎コースの設置数、外国語のみで卒業できるコースの在籍生数及び全学生数を学部・大学院別に記入する。

1. 国際化関連 (4) 語学力関係													進捗状況
④ 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組【必須】													
外国語力基準	CEFR B1 レベル以上 (TOEIC 550点以上に対応)												
	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年 (2019年度)	令和2年 (2020年度)	令和3年 (2021年度)	令和4年 (2022年度)	令和5年 (2023年度)	令和6年 (2024年度)	令和7年 (2025年度)	進捗状況
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	進捗状況
外国語力基準を満たす学生数(A)	376 人	712 人	1,304 人	2,259 人	2,253 人	2,862 人	4,240 人	3,302 人	4,504 人	0 人	5,707 人	0 人	8,115 人
うち学部(B)	284 人	617 人	1,029 人	1,943 人	1,772 人	2,287 人	3,130 人	2,896 人	3,619 人	0 人	4,541 人	0 人	6,385 人
うち大学院(C)	92 人	95 人	275 人	316 人	481 人	575 人	1,110 人	406 人	885 人	0 人	1,166 人	0 人	1,730 人
全学生数(D)	8,420 人	8,521 人	8,409 人	8,474 人	8,837 人	9,000 人	9,200 人	9,241 人	9,301 人	9,226 人	9,351 人	0 人	9,600 人
うち学部(E)	7,481 人	7,556 人	7,414 人	7,466 人	7,708 人	7,832 人	7,880 人	8,131 人	7,703 人	8,090 人	7,984 人	0 人	7,877 人
うち大学院(F)	939 人	965 人	995 人	1,008 人	1,128 人	1,168 人	1,320 人	1,110 人	1,598 人	1,136 人	1,367 人	0 人	1,830 人
割合(A/D)	4.5 %	8.4 %	15.5 %	26.7 %	25.5 %	31.8 %	46.1 %	35.7 %	48.4 %	0.0 %	61.0 %	#DIV/0 %	84.5 %
割合(B/E)	3.8 %	8.2 %	13.9 %	28.0 %	23.0 %	29.2 %	40.8 %	33.2 %	47.0 %	0.0 %	58.9 %	#DIV/0 %	82.2 %
割合(C/F)	9.8 %	9.8 %	27.6 %	31.3 %	42.6 %	49.2 %	73.0 %	54.4 %	55.4 %	0.0 %	85.3 %	#DIV/0 %	94.5 %

大学において定めた外国語力基準を記入するとともに、大学が定める時点において当該基準を満たす学生数、全学生数を学部・大学院別に記入する。

表 1(5/8)

1. 国際化関連 (5) 教育システムの国際通用性													進捗状況
①オンライン実施状況・割合【必須】													
	平成25年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)	令和2年 (2020.5.1)	令和3年 (2021.5.1)	令和4年 (2022.5.1)	令和5年度 (2023.5.1)		
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
オンラインを行っている授業科目数 (A)	55 科目	56 科目	889 科目	1,502 科目	2,621 科目	2,604 科目	1,950 科目	2,145 科目	1,875 科目	2,222 科目	2,031 科目	1,850 科目	
うち学部 (B)	55 科目	56 科目	889 科目	1,219 科目	1,884 科目	1,690 科目	1,300 科目	1,640 科目	1,250 科目	1,736 科目	1,524 科目	1,100 科目	
うち大学院 (C)	0 科目	0 科目	0 科目	683 科目	937 科目	914 科目	650 科目	505 科目	625 科目	486 科目	507 科目	750 科目	
全授業科目数 (D)	2,140 科目	2,141 科目	2,180 科目	2,237 科目	2,821 科目	2,604 科目	1,950 科目	2,145 科目	1,875 科目	2,222 科目	2,031 科目	1,850 科目	
うち学部 (E)	1,498 科目	1,509 科目	1,524 科目	1,554 科目	1,884 科目	1,690 科目	1,300 科目	1,640 科目	1,250 科目	1,736 科目	1,524 科目	1,100 科目	
うち大学院 (F)	642 科目	632 科目	656 科目	683 科目	937 科目	914 科目	650 科目	505 科目	625 科目	486 科目	507 科目	750 科目	
割合 (A/D)	3.0 %	3.1 %	40.8 %	67.2 %	93.2 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	
割合 (B/E)	4.3 %	4.4 %	58.3 %	76.4 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	
割合 (C/F)	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	

オンラインを行っている授業科目数及び全授業科目数を学部・大学院別に記入する。

1. 国際化関連 (5) 教育システムの国際通用性													進捗状況
②シラバスの英語化の状況・割合【必須】													
	平成25年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)	令和2年 (2020.5.1)	令和3年 (2021.5.1)	令和4年 (2022.5.1)	令和5年度 (2023.5.1)		
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
シラバスを英語化している授業科目数 (A)	629 科目	613 科目	890 科目	3,389 科目	3,503 科目	3,822 科目	2,494 科目	3,532 科目	2,548 科目	3,484 科目	2,602 科目	2,710 科目	
うち学部 (B)	16 科目	34 科目	87 科目	2,724 科目	2,639 科目	3,083 科目	1,844 科目	3,092 科目	1,923 科目	2,998 科目	2,719 科目	2,160 科目	
うち大学院 (C)	613 科目	579 科目	803 科目	665 科目	924 科目	739 科目	650 科目	440 科目	625 科目	486 科目	507 科目	550 科目	
全授業科目数 (D)	4,415 科目	4,375 科目	4,438 科目	4,585 科目	4,843 科目	5,258 科目	3,880 科目	4,442 科目	3,725 科目	4,309 科目	3,570 科目	3,260 科目	
うち学部 (E)	3,773 科目	3,743 科目	3,782 科目	3,902 科目	3,906 科目	4,344 科目	3,200 科目	3,937 科目	3,100 科目	3,823 科目	3,452 科目	2,710 科目	
うち大学院 (F)	642 科目	632 科目	656 科目	683 科目	937 科目	914 科目	680 科目	505 科目	625 科目	486 科目	507 科目	550 科目	
割合 (A/D)	14.2 %	14.0 %	15.5 %	73.9 %	72.3 %	72.7 %	64.3 %	79.5 %	68.4 %	80.9 %	72.9 %	83.1 %	
割合 (B/E)	0.4 %	0.9 %	2.3 %	69.8 %	67.6 %	71.0 %	57.1 %	78.5 %	62.0 %	78.4 %	78.8 %	79.2 %	
割合 (C/F)	95.5 %	91.6 %	91.9 %	97.4 %	96.6 %	80.9 %	100.0 %	87.1 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	

シラバスを英語化している授業科目数及び全授業科目数を学部・大学院別に記入する。  
なお、同一の授業科目で複数セッションが設けられている場合、それぞれ独立した授業科目として数に含める。

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度													進捗状況
④奨学金支給の入学許可時の伝達【要注】													
	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年 (2019年度)	令和2年 (2020年度)	令和3年 (2021年度)	令和4年 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)		
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数 (A)	6 人	7 人	16 人	24 人	60 人	48 人	40 人	42 人	50 人	人	58 人	人	
奨学金を取得した外国人留学生数 (B)	16 人	52 人	53 人	89 人	139 人	143 人	60 人	122 人	100 人	人	100 人	人	
割合 (A/B)	37.5 %	13.5 %	30.2 %	27.0 %	43.2 %	33.6 %	66.7 %	34.4 %	50.0 %	#DIV/0! %	58.0 %	#DIV/0! %	

外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数及び奨学金を取得した外国人留学生数を記入する。

表 1(6/8)

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度														進捗状況	
① 滞在型学生宿舎の有無 [選択]															
	平成25年度 (2013.5.1)	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)	令和2年 (2020.5.1)		令和3年 (2021.5.1)		令和4年 (2022.5.1)		令和5年度 (2023.5.1)	
		実績値			実績値			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
滞在型学生宿舎に入居している外国人留学生数(A)	31人	45人	31人	53人	54人	97人	120 200人	96人	128人	64人	98人	人	124人	人	150 300人
滞在型宿舎に入居している外国人留学生数(B)	31人	45人	31人	53人	54人	97人	120 200人	96人	128人	64人	98人	人	124人	人	150 400人
割合(A/B)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
滞在型宿舎に入居している日本人学生数(C)	75人	61人	58人	135人	151人	163人	200人	161人	170人	141人	166人	人	184人	人	200 300人
全日本人学生数(D)	8,271人	8,320人	8,150人	8,163人	8,445人	8,527人	8,030人	8,810人	7,070人	6,674人	8,140人	人	7,805人	人	7,070人
割合(C/D)	0.9%	0.7%	0.7%	1.6%	1.8%	1.9%	2.5%	1.9%	2.4%	1.6%	2.0%	#DIV/0!	2.4%	#DIV/0!	2.8%

滞在型学生宿舎に入居している外国人留学生数、留学生宿舎に入居している外国人留学生数、滞在型宿舎に入居している日本人学生数及び全日本人学生数を記入する。

2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム														進捗状況	
① 任期制の導入 [必須]															
	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)	令和2年 (2020.5.1)		令和3年 (2021.5.1)		令和4年 (2022.5.1)		令和5年度 (2023.5.1)		
		実績値			実績値			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	
年俸制適用者(教員)数(A)	15人	10人	11人	14人	16人	51人	30人	65人	36人	58人	45人	人	45人	人	45人
全専任教員数(B)	301人	301人	307人	327人	320人	334人	300人	308人	300人	312人	300人	人	300人	人	300人
割合(A/B)	5.0%	3.3%	3.6%	4.3%	5.0%	15.3%	10.0%	21.1%	12.0%	18.6%	15.0%	#DIV/0!	15.0%	#DIV/0!	15.0%
年俸制適用者(職員)数(C)	3人	5人	1人	4人	6人	2人	20人	2人	23人	1人	10人	人	20人	人	30人
全専任職員数(D)	161人	175人	160人	176人	165人	169人	160人	166人	160人	160人	180人	人	160人	人	160人
割合(C/D)	1.9%	2.9%	0.6%	2.2%	3.2%	1.1%	11.1%	1.1%	12.8%	0.6%	5.6%	#DIV/0!	11.1%	#DIV/0!	16.7%

教員及び職員について、年俸制適用者数(教員・職員別)、全専任教員数及び全専任職員数を記入する。

2. ガバナンス改革関連 (1) 人事システム														進捗状況	
② デュアトラック制の導入 [選択]															
	平成25年度 (2013年度) (課年)	平成26年度 (2014年度) (課年)	平成27年度 (2015年度) (課年)	平成28年度 (2016年度) (課年)	平成29年度 (2017年度) (課年)	平成30年度 (2018年度) (課年)	令和元年 (2019年度) (課年)	令和2年 (2020年度) (課年)		令和3年 (2021年度) (課年)		令和4年 (2022年度) (課年)		令和5年度 (2023年度) (課年)	
		実績値			実績値			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
デュアトラック対象者数(A)	2人	2人	6人	6人	5人	10人	6人	4人	5人	人	6人	人	8人	人	10人
年間専任教員採用者数(B)	16人	15人	11人	11人	21人	44人	20人	22人	22人	人	22人	人	21人	人	20人
割合(A/B)	11.1%	13.3%	54.5%	54.5%	23.8%	22.7%	30.0%	18.2%	22.7%	#DIV/0!	27.3%	#DIV/0!	38.1%	#DIV/0!	50.0%

デュアトラック対象者数、一年間の専任教員採用者数を記入する。

表 1(7/8)

2. ガバナンス改革関連 (2)ガバナンス ①事務職員の高度化への取組【必須】													進捗 状況			
外国語力基準	TOEIC 800点、TOEFL 800点、通算1年以上の留学/海外赴任歴															
	平成26年度 (2014.5.1)	平成27年度 (2015.5.1)	平成28年度 (2016.5.1)	平成29年度 (2017.5.1)	平成30年度 (2018.5.1)	令和元年 (2019.5.1)	令和2年 (2020.5.1)	令和3年 (2021.5.1)	令和4年 (2022.5.1)	令和5年度 (2023.5.1)	目標値	実績値				
外国語力基準を満たす専任職員数(A)	19 人	21 人	28 人	31 人	34 人	39 人	45 人	42 人	49 人	43 人	48 人	人	54 人	人	80 人	
全専任職員数(B)	161 人	175 人	180 人	178 人	185 人	189 人	180 人	186 人	180 人	180 人	人	180 人	人	180 人	人	180 人
割合(A/B)	11.8 %	12.0 %	15.6 %	17.4 %	18.4 %	20.5 %	25.0 %	22.6 %	27.2 %	23.9 %	26.7 %	#DIV/0! %	30.0 %	#DIV/0! %	33.3 %	

大学において定めた外国語力基準を記入するとともに、当該基準を満たす専任職員数を記入する。

3. 教育の改革的取組関連 (1)教育の質的転換-主体的学習の確保 ②学生の主体的参加と大学運営への反映の促進【選択】													進捗 状況		
	平成25年度 (2013年度) (通年)	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)	令和2年 (2020年度) (通年)	令和3年 (2021年度) (通年)	令和4年 (2022年度) (2022.12.31)	令和5年度 (2023年度) (通年)	目標値	実績値		
	学生による授業評価実施授業科目数(A)	2,887 科目	2,902 科目	2,952 科目	2,961 科目	3,226 科目	3,302 科目	3,085 科目	3,356 科目	2,983 科目	0 科目	2,901 科目	0 科目	2,819 科目	0 科目
うち学部(B)	2,517 科目	2,548 科目	2,558 科目	2,579 科目	2,806 科目	2,918 科目	2,508 科目	2,996 科目	2,794 科目	0 科目	2,590 科目	0 科目	2,386 科目	0 科目	2,181 科目
うち大学院(C)	370 科目	354 科目	394 科目	402 科目	420 科目	384 科目	577 科目	370 科目	416 科目	0 科目	463 科目	0 科目	510 科目	0 科目	557 科目
全授業科目数(D)	3,383 科目	3,453 科目	3,492 科目	3,365 科目	3,522 科目	3,503 科目	3,192 科目	4,201 科目	3,085 科目	0 科目	2,978 科目	0 科目	2,872 科目	0 科目	2,767 科目
うち学部(E)	3,013 科目	3,099 科目	3,090 科目	3,146 科目	3,084 科目	3,096 科目	2,835 科目	3,823 科目	3,420 科目	0 科目	3,017 科目	0 科目	2,614 科目	0 科目	2,210 科目
うち大学院(F)	370 科目	354 科目	402 科目	417 科目	438 科目	407 科目	357 科目	378 科目	422 科目	0 科目	467 科目	0 科目	512 科目	0 科目	557 科目
割合(A/D)	85.3 %	84.0 %	84.5 %	83.5 %	91.8 %	94.3 %	96.0 %	80.2 %	96.7 %	#DIV/0! %	97.4 %	#DIV/0! %	98.2 %	#DIV/0! %	99.3 %
割合(B/E)	83.5 %	82.2 %	82.8 %	81.9 %	91.0 %	94.3 %	95.2 %	78.4 %	81.7 %	#DIV/0! %	85.8 %	#DIV/0! %	91.3 %	#DIV/0! %	98.7 %
割合(C/F)	100.0 %	100.0 %	98.0 %	95.4 %	95.9 %	94.3 %	100.0 %	97.9 %	98.6 %	#DIV/0! %	99.1 %	#DIV/0! %	99.6 %	#DIV/0! %	100.0 %

学生による授業評価実施科目数及び全授業科目数を学部・大学院別に記入する。  
なお、同一の授業科目で複数セッションが設けられている場合、それぞれ独立した授業科目として数に含める。

3. 教育の改革的取組関連 (2)入試改革 ①TOEFL等外部試験の学部入試への活用【必須】													進捗 状況		
	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)	令和2年 (2020年度) (通年)	令和3年 (2021年度) (通年)	令和4年 (2022年度) (通年)	令和5年度 (2023年度) (通年)	目標値	実績値		
	対象学部入学生員数(A)	0 人	0 人	21 人	277 人	288 人	277 人	400 人	285 人	413 人	人	542 人	人	671 人	人
全入学生員数(B)	1,810 人	1,810 人	1,810 人	1,850 人	1,860 人	1,860 人	1,810 人	1,860 人	1,798 人	人	1,736 人	人	1,673 人	人	1,810 人
割合(A/B)	0.0 %	0.0 %	1.3 %	14.9 %	14.4 %	14.9 %	24.8 %	15.3 %	23.0 %	#DIV/0! %	31.2 %	#DIV/0! %	40.1 %	#DIV/0! %	49.7 %

TOEFL等外部試験による入学生員数及び全入学生員数を記入する。



表 1(8/8)

大学独自の成果指標と達成目標【必須】																進捗状況
<定量的>																
	平成25年度 (2013年度) (通年)	平成26年度 (2014年度) (通年)	平成27年度 (2015年度) (通年)	平成28年度 (2016年度) (通年)	平成29年度 (2017年度) (通年)	平成30年度 (2018年度) (通年)	令和元年 (2019年度) (通年)		令和2年 (2020年度) (通年)		令和3年 (2021年度) (通年)		令和4年 (2022年度) (通年)		令和5年度 (2023年度) (通年)	
	実績値		実績値		実績値		実績値		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
ルーブリック評価実施科目数	32 科目	41 科目	41 科目	41 科目	41 科目	114 科目	41 科目 +320	2,944 科目	41 科目 +320	科目	41 科目 +320	科目	41 科目 +320	科目	41 科目 +320	科目
ルーブリック評価普及率	1.5 %	1.2 %	0.9 %	0.9 %	100 %	100 %	100.0 %	1000 %	61.7 % 66.0	%	74.4 % 66.0	%	87.2 % 66.6	%	%	100.0 %
JD-DDを実施する協定校数	1 校	1 校	1 校	1 校	2 校	2 校	6 校	2 校	4 校	校	6 校	校	8 校	校	10 校	
JD-DD学位授与者数	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	5 人	24 人	0 人	15 人	人	30 人	人	45 人	人	60 人	
就職率	95.4 %	96.7 %	97.2 %	97.9 %	97.7 %	97.5 %	97.5 %	97.3 %	97.7 %	%	98.1 %	%	98.5 %	%	99.0 %	
大学院進学率	32.8 %	28.5 %	28.4 %	32.2 %	28.4 %	29.0 %	50.0 %	30.2 %	37.6 %	%	45.0 %	%	52.5 %	%	60.0 %	
受託・共同研究+国プロ件数	243 件	242 件	297 件	280 件	330 件	333 件	400 件	342 件	381 件	件	420 件	件	460 件	件	500 件	
受託・共同研究+国プロ金額	497百万円	487百万円	713百万円	689百万円	558百万円	648百万円	800百万円	531百万円	648百万円	円	765百万円	円	882百万円	円	1,000百万円	
産学官連携研究活動(国プロ、受託・共同研究)参加学生数	290 人	536 人	1,042 人	797 人	728 人	697 人	600 人	640 人	680 人	人	720 人	人	760 人	人	800 人	
グローバルPBL参加学生数	127 人	199 人	520 人	710 人	847 人	1,166 人	380 人	1,115 人	650 人	人	650 人	人	650 人	人	650 人	
他学からの参加者数	1 人	0 人	137 人	208 人	401 人	569 人	70 人	609 人	130 人	人	130 人	人	130 人	人	130 人	
海外インターンシップ参加学生数	20 人	31 人	33 人	22 人	34 人	22 人	75 人	23 人	42 人	人	61 人	人	80 人	人	100 人	
他学からの参加者数	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	15 人	0 人	5 人	人	10 人	人	15 人	人	20 人	

## 3.5 海外協定校一覧

## アジア

表 1(1/3)

国名	協定校名
インド(10)	KLS ゴグット工科大学、MIT Art, Design & Tech Univ & MIT Group、アミティー大学、インド工科大学カーンブル校、インド工科大学グワハティ校、インド工科大学バンベイ校、インド工科大学マドラス校、インド国立総合科学技術研究所、ノースキャップ大学、ヒンドウスターン理工科大学
インドネシア(7)	ウダヤナ大学、ガジャマダ大学、スラバヤ工科大学、バンドン工科大学、ビヌス大学、ブラビジャヤ大学、マラン州立大学工学部
カンボジア(1)	カンボジア工科大学
シンガポール(1)	シンガポール国立大学
スリランカ(4)	サバラガムワ大学、スリジャワルダナプラコッテ大学、モロトゥワ大学、ワヤンバ大学
タイ(12)	アサンブション大学、カセサート大学、キングモンクット工科大学トンブリ校、スラナリー工科大学、チェンマイ大学、チュラーロンコーン大学、ナコーンラーチャシーマーラーチャバット大学、パンヤピワット経営大学、プリンスソングラ大学、メージョー大学、ラジャマンガラ大学プラナコーン校、泰日工業大学
フィリピン(2)	サンカルロス大学、サンホセレコレトス大学
ベトナム(6)	FPT大学、ダナン工科大学、ハノイ理工科大学、ベトナム国家大学ハノイ校工科大学、ホーチミン市工科大学、郵政電信工芸学院
マカオ(1)	澳門大学
マレーシア(15)	UCSI大学、アジアパシフィック大学、ウタラマレーシア大学、クアラルンプール大学、サラワク大学、テイラーズ大学、テナガ・ナショナル大学、トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学、マラ工科大学、マレーシア・トゥン・フセイン・オン大学、マレーシア・日本国際工科院、マレーシアプトラ大学、マレーシア工科大学、マレーシア国民大学、国際イスラム大学
モンゴル(3)	モンゴル科学技術大学、モンゴル工業技術大学、モンゴル国立大学
ラオス(1)	ラオス国立大学
台湾(14)	亜洲大学、義守大学、国立清華大学、国立台湾海洋大学、国立中央大学、国立東華大学、実践大学、台北科技大学、台湾科技大学、淡江大学、中国文化大学、朝陽科技大学、南台科技大学、明志科技大学
大韓民国(14)	ソウル科学技術大学、ソウル大学校、蔚山科学技術大学校、蔚山大学、釜山大学校、漢陽大学、韓東大学校、弘益大学、江原大学校、高麗大学、国民大学、中央大学、忠南大学、嶺南大学
中国(10)	黄山学院、湖北工業大学、上海大学、大連民族大学、中国地質大学、東北大学、武漢理工大学、北京理工大学、浙江工商大学、浙江財経大学東方学院

## アフリカ

国名	協定校名
エチオピア(1)	メケレ大学

## オセアニア

表 1(2/3)

国名	協定校名
オーストラリア(5)	ウーロンゴン大学、クイーンズランド大学、サザンクロス大学、ロイヤルメルボルン工科大学、西シドニー大学

## 欧州

国名	協定校名
アイスランド(1)	アイスランドアカデミー大学
アイルランド(1)	ウオーターフォード工科大学
イギリス(2)	サリー大学、ラフボロー大学
イタリア(6)	サレルノ大学、ジェノヴァ大学、マルケ工科大学、メッシーナ大学、ラクイラ大学、ローマ大学サピエンツァ
ウクライナ(1)	ウクライナ・キエフ工科大学
オーストリア(2)	ウィーン工科大学、グラーツ工科大学
オランダ(2)	アムステルダム応用科学大学、ヴィンデシュヘイム大学
スイス(1)	ローザンヌ連邦工科大学
スウェーデン(1)	ストックホルム王立工科大学
デンマーク(1)	南デンマーク大学
ドイツ(3)	クロースタル工科大学、ケンプテン大学、ベルリン国際応用科学大学、追加
ハンガリー(2)	オーブダ大学、ミシュコルツ大学
フィンランド(2)	アールト大学、パーサ工科大学
フランス(12)	ENSICAEN,ENGINEERING SCHOOL、ESMEストリア、IPSA高等科学技術学院、エクス・マルセイユ大学、カーン・ノルマンディー大学、コンピューティングと高度な技術のための学校、シグマ・クレルモン大学、パリ・エレクトロニクス高等研究機関、パリ・ベルヴィル建築大学、パリ第6大学 情報学研究所、フランスワラブレ大学、ロレーヌ大学
ベルギー(1)	Interuniversity Microelectronics Centre
ポーランド(5)	ウッジ工科大学、ヴロツアフ工科大学、ポーランド科学技術大学、ヤンコハノフスキ大学、ワルシャワライフサイエンス大学
ポルトガル(1)	リスボン新大学
リトアニア(1)	ヴィリニユス・ゲディミナス工科大学
ルーマニア(2)	オラデア大学、グレートスティーブン大学
ロシア連邦(1)	モスクワ建築大学

## 中南米

表 1(3/3)

国名	協定校名
コロンビア(1)	アンティオキア大学
ブラジル(13)	カンピーナス州立大学、サクラドコロッセオ大学、サンカルロス連邦大学、サンタカタリーナ連邦大学、サンパウロ大学、ソロカバ工業大学、パラナ教皇カトリック大学パラナ校、パラナ連邦工科大学、パラナ連邦大学、ブラジリア大学、ブラジル連邦大学ABC、ポジティブ大学、マウア工科大学
メキシコ(2)	パンアメリカン大学、モンテレイ工科大学

## 北米

国名	協定校名
アメリカ(14)	イリノイ大学、ウースター工科大学、カリフォルニア州立理工学ポモナ校、カリフォルニア大学アーバイン校、グアム大学、コロラド鉱山大学、ディラード大学、ニューヨーク州立大学バッファロー校、ネバダ大学ラスベガス校、ハワイ大学マノア校、ヒューストン大学、ペンシルバニア州立大学、ミズーリ工科大学、ローワン大学

合計 185大学  
(2019年11月1日現在)



## 3.6 外部資金獲得状況

2019年度 有料受入プログラム 実施一覧

	NO	実施月	プログラム	国	獲得額 (単位千円)
国際補 助事業	1	5月	明志科技大学	台湾	150
	2	6月	明志科技大学	台湾	285
	3	6月	Erasmus+ Organization Fee(ヤンコハノフスキー大学)	ポーランド	202
	4	6-7月	モンレー工科大学	メキシコ	5,659
	5	7-8月	浙江工商大学	中国	1,375
	6	7月	上海大学	中国	230
	7	7月	GES 日中文化交流センター	中国	1,120
	8	7月	漢陽大学	韓国	250
	9	8月	浙江工商大学	中国	1,315
	10	8月	浙江工商大学	中国	285
	11	8月	GES 日中文化交流センター 蘭州理工大学	中国	840
	12	10月	明志科技大学	台湾	150
	13	10月	GES 日中文化交流センター	中国	20
	14	2-3月	イノベティブ・アジア短期受入プログラム	マレーシア他	244
					12,125

表 1

2019年度 日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン) 実施一覧

	NO	実施月	プログラム	国	獲得額 (単位千円)
さくらサ イエンス プラン	1	5-6月	國立台北科技大學	台湾	2,271
	2	7-8月	ラチャマンガラ大学 ラオス国立大学	タイ、ラオス	4,332
	3	9月	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学	マレーシア	2,441
	4	11月	インド ガンジー経営工科大学 ビゲナン工科大学	インド	3,602
	5	11月	テナガナショナル大学	マレーシア	2,502
	6	11月	大連理工大学	中国	1,966
	7	1月	インド工科大学カラグプル校	インド	3,145
	8	2月	マレーシア工科大学	マレーシア	3,451
	9	2-3月	メージョー大学 チェンマイ大学	タイ	4,535
					28,245

表 2

## 2019年度 海外留学支援制度(協定派遣・協定受入) 採択結果一覧

表 3

区分		申請名称	採否	人数	獲得額 単位千円
派遣	一般A	次世代自動車産業・要素技術研究グローバルPBL	採択	50	3,500
		次世代・高付加価値素材研究グローバルPBL	採択	50	3,500
		地域再生・サステイナブル都市空間研究グローバルPBL	採択	100	7,350
		国際競争力養成・インド・東南アジア理工系名門大学研修プログラム	採択	50	3,400
	一般B	コンソーシアム連携型グローバルPBL	採択	35	2,450
		企業等の東南アジア戦略における課題の解決を図る実践型国際PBL	採択	65	4,550
		電気系高度専門工学英語プログラム「Electrical Engineering English(EEEプログラム)」	採択	19	1,330
		東南アジアにおける持続可能な発展を検証・提案する国際PBL	採択	52	3,640
		グローバル課題解決型学習プログラム(gPBLプログラム)	採択	70	5,400
		国際インターンシッププログラム	採択	5	860
		グローバル人材育成・短期工学英語研修プログラム	採択	63	4,380
		統合的問題解決能力養成短期留学プログラム	採択	12	7,760
	重点	インダストリアル・トレーニング・プログラム	採択	5	390
	重点	スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)プログラム	採択	40	3,200
受入	一般A	サステイナブルな社会を実現するため提案型グローバルPBL	採択	50	4,000
	一般B	GTIコンソーシアム・工大サミット連携型PBL	採択	35	2,800
		論文投稿型 日本・インド先端材料工学研究留学プログラム	採択	9	4,320
	重点	スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)プログラム	採択	40	3,200
		USCO(UMAP学生交流オンラインシステム)プログラム②	採択	1	320
USCO(UMAP学生交流オンラインシステム)プログラム③		採択	1	560	
				752	66,910

## おわりに

教育イノベーション推進センター  
カリキュラムマネジメント部門 グローバル教育担当  
橋 雅彦

スーパーグローバル大学等創成支援事業は、世界水準の大学づくりという大きな目的を掲げつつ、具体的な数値目標として、特に派遣留学生数、受け入れ留学生数、CEFR B1 レベルの（＝仕事に使える最低限の）英語力を身につけた学生数、の3つを重視している。これらは、学生が何を経験し、どんな技術や思考法を身につけたかを直接的に測る指標である。

はじめの二つの指標、すなわち Outbound と Inbound の留学者数については、派遣型、受け入れ型それぞれのグローバル PBL プログラムや、短期英語研修プログラムなどを手がけた多くの教職員の尽力により、この6年の間に驚異的な伸びを見せ、2019年度においても派遣と受け入れの留学生数のいずれもが過去最大を更新した。

もう一つの指標である CEFR B1 レベルの英語力についても、事業開始当初の2014年当時には9000名弱の基準を満たす者は約300名、すなわち30人に1人程度に過ぎなかったが、2019年度末には3302名にまで達した。本学学生の3人に1人以上は、仕事に使える最低限の英語力を在学中に獲得したことになる。これは、第2章2.3に述べたような、正課と課外の英語教育プログラムの成果であるが、何よりも、英語を学ぶ動機を強く持った学生たち自身の努力の積み重ねがあっただけで達成できる数字である。このことは素直に喜びたいと思う。

もちろん、事業が終了する2023年度の最終目標までは、いずれの項目も道半ばでありその距離はまだ遠い。

しかも2019年度末から世界を席卷している新型コロナウイルス感染症のために留学プログラムの多数が中止・延期されるというきわめて厳しい状況に直面してもいる。

だが、このいわゆるコロナ禍を奇貨として、2020年度に入ってからわずか2,3ヶ月の間に、従来の授業にかわる遠隔授業という強力なツールを全学で実践できる体制を整えることができた。これを最大限に生かし、新たな国際交流のあり方を作り出すことによって、目的達成に向けて進んで行かねばならないと思う。

引き続き、教職員諸氏、学生諸君のご協力をお願いする次第です。

スーパーグローバル大学創成支援 事業報告書 [2019]

発行日 2020年8月 August 2020

発行 芝浦工業大学 Shibaura Institute of Technology

〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5

3-7-5 Toyosu, Koto-ku, Tokyo 135-8548, Japan

問合せ先 国際部 Division of Global Initiatives

TEL:+81-(0)3-5859-7150 FAX:+81-(0)3-5859-7141

E-mail:kokusai@ow.shibaura-it.ac.jp

無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載を禁止します。